

# 研究紀要

## No.216

十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

### 「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～課題設定の工夫と評価の充実を通して～

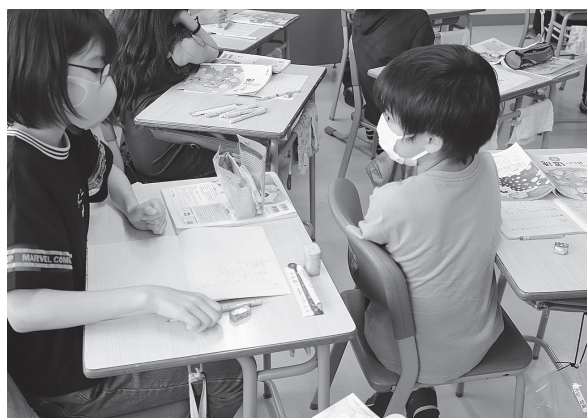
(2か年継続研究 1年次)

十勝教育研究所 協力員研究

### 子どもたちにしなやかな心を育む研究

～道徳科における発問と対話の工夫～

(2か年継続研究 2年次)



2022 (令和4) 年 3月

十 勝 教 育 研 究 所  
十勝管内教育研究所連絡協議会



## 序

新しい時代の学校教育には、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの力をバランスよく育成していくことが求められています。

十勝教育研究所でも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点から、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視し、「何ができるようになるか」を明確にした、実践的な研究を意図してきたところです。

管内19市町村の教育研究所との共同研究では、今年度より「『深い学び』に向かう子どもを育む研究」を主題に、パフォーマンス課題とルーブリックを用いた、課題設定の工夫と評価の充実について、小学校・中学校のグループに分かれて授業を通した検証を進めてきました。

また、管内2つの小学校・中学校の協力を得た協力員研究では、昨年度から「子どもたちにしなやかな心を育む研究」を主題に、道徳科における発問と対話の工夫を生かした実践研究を進めてきました。

この度、これら2つの研究の成果をまとめた研究紀要No.216を刊行する運びとなりました。教師による実践的な研究は、その研究で得られた新たな知見が日常の実践に反映され、子どもたちの変容が確認できて、初めて成果となります。その意味において、本研究紀要が各学校の校内研修や日々の教育実践に有効に活用され、学びの裾野が確実に広がっていくことを願っております。

結びに、2つの研究の推進に当たり、お力添えをいただいた関係の皆様へ感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊の言葉といたします。

十 勝 教 育 研 究 所 長  
十勝管内教育研究所連絡協議会長

山 田 洋

令和4年3月

# 目 次

序

十勝教育研究所長  
十勝管内教育研究所連絡協議会長

山 田 洋

十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

## 「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～課題設定の工夫と評価の充実を通して～

I	研究の概要	2
II	研究の視点と内容	6
III	授業実践（小学校）	12
IV	授業実践（中学校）	26
V	研究のまとめ	39
VI	共同研究員紹介／参考・引用文献	40

十勝教育研究所 協力員研究

## 子どもたちにしなやかな心を育む研究

～道徳科における発問と対話の工夫～

I	研究の概要	42
II	研究の視点と内容	46
III	授業実践	50
IV	研究のまとめ	66
V	研究協力校紹介／参考・引用文献	69

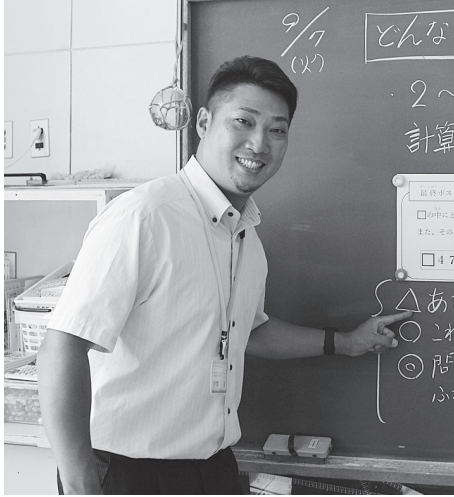
あとがき



# 「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～課題設定の工夫と評価の充実を通して～

(2か年継続研究 1年次)



授業者  
士幌町立中士幌小学校  
教諭 伊澤 亮



授業者  
浦幌町立浦幌中学校  
教諭 松林 一彦

## I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究の組織
- 8 研究推進計画

## II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

## III 授業実践（小学校）

- 1 パフォーマンス単元計画
- 2 授業記録
- 3 研究内容の検証
- 4 共同研究員によるパフォーマンス単元計画例

## IV 授業実践（中学校）

- 1 パフォーマンス単元計画
- 2 授業記録
- 3 研究内容の検証
- 4 共同研究員によるパフォーマンス単元計画例

## V 研究のまとめ

- 1 今年度の研究の成果と課題

## VI 共同研究員紹介／参考・引用文献

## I 研究の概要

### 1 研究主題

「深い学び」に向かう子どもを育む研究（1 / 2年次）  
～課題設定の工夫と評価の充実を通して～

### 2 主題設定の理由

#### 今日的な課題 学習指導要領改訂の趣旨から

令和3年度から、学習指導要領が中学校においても全面実施された。今回の学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で「資質・能力」が示されている。さらに「資質・能力」の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。その1つである「深い学び」の実現の鍵として、見方・考え方を働かせることが重要であるとされている。

また、観点別学習状況の評価については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点に整理された。学習評価を通して「どういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図ることが大切である。子どもが自らの学習した意義や価値を実感するためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められている。

#### 北海道の現状から

北海道の子どもたちの実態としては、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果から「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」割合や「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と思う割合が、全国と比較して低い。さらに、全ての教科の平均正答率が全国平均に届いていない結果となっている。

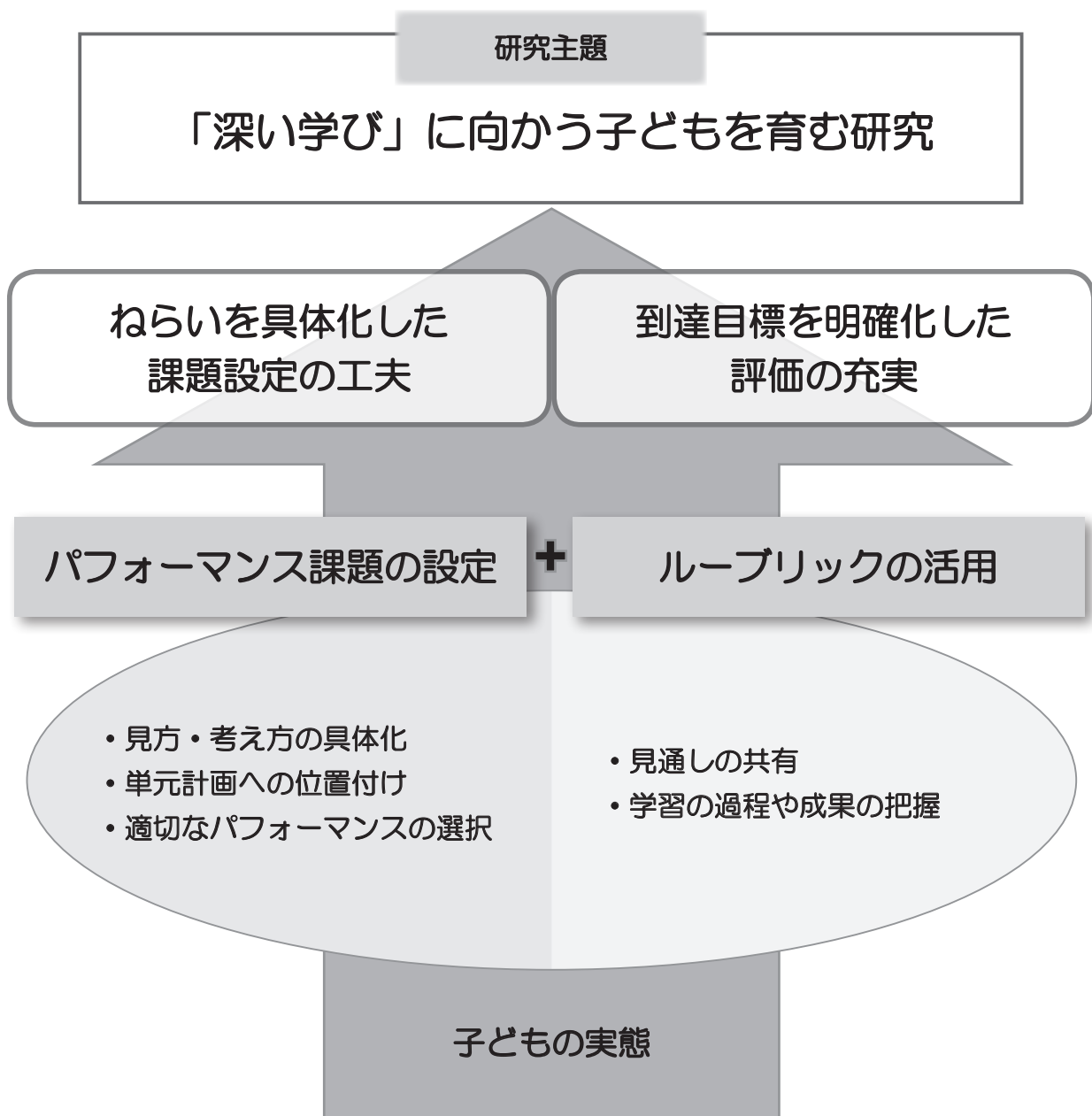
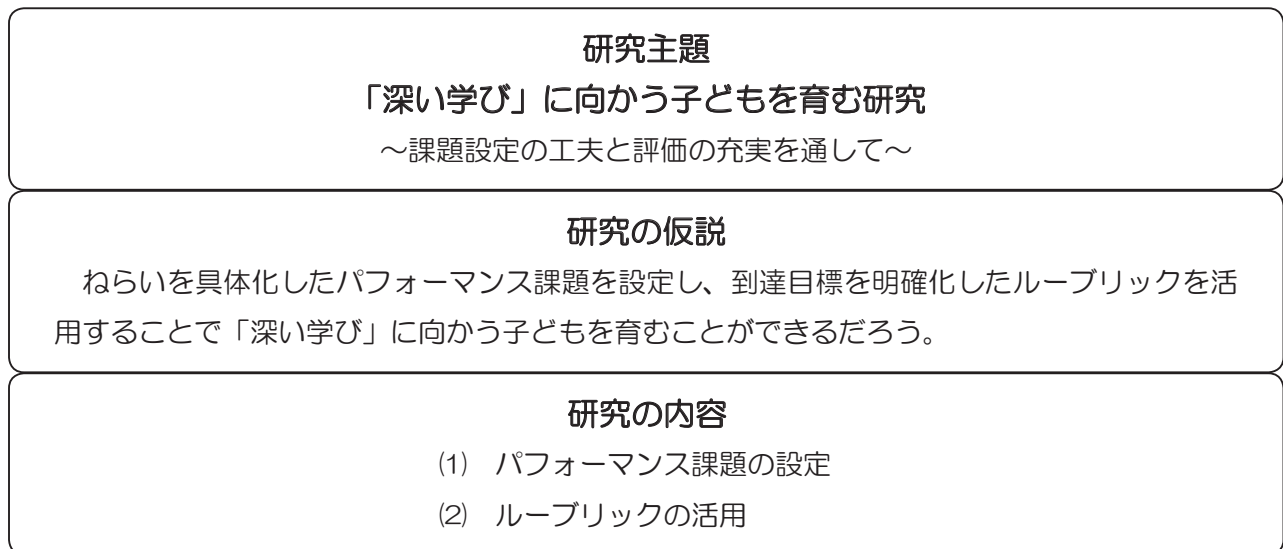
知識の習得のみならず、活用や探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりするなど、「深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫改善が求められている。

#### 今年度の研究の方向性

これらの状況から、「深い学び」に向かう子どもを育むことが重要と考える。そこで、課題設定と評価の充実に焦点を当てて研究を進めることとした。

研究1年次では、ねらいを具体化したパフォーマンス課題を設定し、到達目標を明確化したルーブリックを活用することで「深い学び」に向かう子どもを育むことができるだろうと考え、主題を設定した。

## 3 研究の仮説と内容、構造図



## 4 研究計画

### (1) 第1年次（令和3年度）

- ① 研究主題、仮説、内容等の検討
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証
- ④ 研究の中間まとめと研究紀要の刊行

### (2) 第2年次（令和4年度）

- ① 研究仮説、内容、計画の修正
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証
- ④ 研究のまとめと研究紀要の刊行

## 5 検証計画

### (1) 検証内容

#### ① パフォーマンス課題の設定

見方・考え方を単元の目標に合わせて明確にした上で単元に位置付け、適切なパフォーマンスが選択されたパフォーマンス課題の実施を通して、「深い学び」に向かう子どもの姿につながっていたか。

#### ② ルーブリックの活用

見通しを共有し、学習の過程や成果の把握ができるルーブリックの活用を通して、「深い学び」に向かう子どもの姿につながっていたか。

### (2) 検証方法

パフォーマンス課題や結果等から分析をする。

（子どもの見取り・授業記録・単元前後のアンケート調査・振り返りシート）

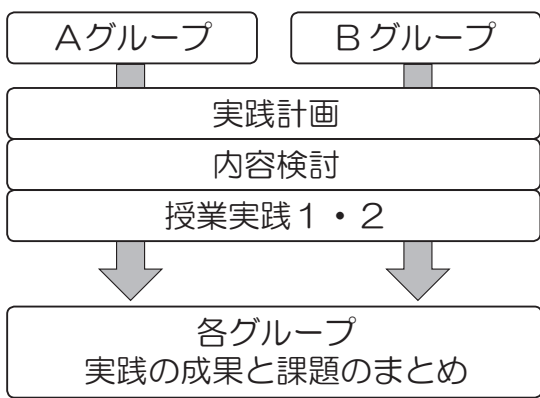
## 6 研究の推進

- 本研究は、十勝教育研究所と管内各研究所が一体となり推進するものである。
- 管内の子どもたちの実態を踏まえた研究仮説を基に、理論研究や実践検証を進める。
- 共同研究員を2つのグループに分け、推進幹事、副幹事を選出して、協議を重ねながら実践検証をする。
- 幹事は、グループ研究の中心となり実践検証を推進し、副幹事はそれをサポートする。
- 十勝教育研究所は共同研究員と協議し研究を総括する。また、研究推進に関わる文献、資料等を提供する。
- 共同研究員による研究実践の成果を広く管内に提供する。

## 7 研究の組織

グループ	Aグループ	Bグループ
学年・教科	小学校第3学年・算数科	中学校第2学年・社会科
推進幹事	竹内 允人（緑丘小）	佐藤 悠樹（中札内中）
推進副幹事	森岡 達昭（広尾小）	山田 征洋（陸別中）
授業者	伊澤 亮（中土幌小）	松林 一彦（浦幌中）
共同研究員	日水 直樹（音更小） 政野 里歩（上土幌小） 鈴木裕太郎（鹿追小） 市原 秀樹（新得小） 持田 淑美（御影小） 大草 恵輔（芽室南小） 石川 諒（大樹小） 大山 陽子（仙美里小）	森田 明宏（更別中央中） 東 拓（札内東中） 村上 真輔（池田中） 辻 真里奈（豊頃中） 井元 延明（足寄中）
担当所員	齊藤 雅彦	大橋 一博 野村 知未

## 8 研究推進計画（令和3年度 1／2年次）

月	研究の推進内容	諸会議
4	・研究主題、研究計画の作成	・十勝教育研究所業務計画会議
5	・研究の視点、研究推進の方向性の確認	・十勝管内教育研究所連絡協議会総会【Zoom】
6	・共同研究員の委嘱 ・研究概要の説明 ・グループ分け、幹事・副幹事・授業者の決定 ・実践研究の内容、方針等の検討	・第1回共同研究員会議（全体・グループ会議） ・第2回共同研究員会議【Zoom】（推進幹事・副幹事・授業者会議）
7 8 9 10	・理論研究 	・第3回共同研究員会議（全体・グループ会議） ・第4回共同研究員会議（グループ会議） ・第5回共同研究員会議（授業実践1・グループ会議） ・第6回共同研究員会議（授業実践2・グループ会議） ・第7回共同研究員会議【Zoom】（グループ会議）
11	・理論研究・研究の経過報告（広報誌） ・研究紀要原稿の検討・集約	・第8回共同研究員会議（推進幹事・副幹事・授業者会議）
12	・研究紀要の執筆 ・ダイジェスト版の作成 ・研究発表大会パワーポイント作成	
1	・研究紀要の作成 ・ダイジェスト版の完成、刊行 ・研究発表大会に向けての最終打合せ ・研究発表大会リハーサル	・第9回共同研究員会議（推進幹事・副幹事・授業者会議）
2	・研究発表大会	
3	・研究紀要の完成、刊行	

## II 研究の視点と内容

### 1 研究の視点

#### (1) 「深い学び」に向かう子ども

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推し進められている。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現が求められている。さらに、それまでの「主体的な学び」や「対話的な学び」を通して、「深い学び」につなげていくことが求められている。

また、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、その内容を学ぶことで子どもが「何ができるようになるか」を併せて重視する必要がある、子どもに対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことが重要とされている。さらに、社会で活用できる資質・能力を育成していくためには、単に知識を記憶するだけにとどまらず、「知っていること・できることをどう使うか」という思考力、判断力、表現力等の向上が求められている。学びの過程において、異なる多様な他者との対話を通じて考えを広げたり深めたりする学びを実現することが大切となる。また、身に付けた知識や技能を活用して思考することを通して、より確かなものとして習得していく。そして、習得とともに、思考力、判断力、表現力等を養い、新たな学びに向かったり、学びを人生や社会に生かそうとしたりする力を高めていくことができるような学びの深まりが大切になってくると考える。

学習指導要領解説総則編では、深い学びの視点を以下のように示している。

#### 「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

そこで、本研究では、北海道・十勝の子どもの現状を踏まえ、これからの時代に求められる資質・能力を育むために、目指す子どもの姿を『深い学び』に向かう子どもとし、以下のように押さえることとした。

#### 本研究における「深い学び」に向かう子どもとは

見方・考え方を働かせながら

- ① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
- ② 情報を精査して考えを形成しようとする姿
- ③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿
- ④ 思いや考えを基に創造しようとする姿

#### (2) パフォーマンス課題

パフォーマンス課題とは、「知識・技能」のようにペーパーテストだけでは評価できない、習得した知識及び技能を活用したり、応用したり、統合したりするなどねらいを明確にした課題である。また、「子どもの思考を可視化する課題」とも言われている。考えを言語化したり、記述したりするなど様々な設定を通して、表現を伴うため、思考力、判断力、表現力等が高まる学習活動であるといえる。特に重要な概念やプロセスを何らかの問題解決場面で使いこなせるレベルにまで深く理解し、身に付け



ているかを確認するには、パフォーマンス課題を活用する必要があるだろう。

例えば、中学校第2学年社会科の地理的分野「日本の諸地域 ④交通と通信を中核とした考察」で取り上げられている中国・四国地方の学習では、『地球サミット』の参加者となって持続可能な地域像を考えよう」という提案型のパフォーマンス課題の実践が考えられる。学んだことを生かして、自然や産業などの地域の特徴と関連付け、なぜ問題が生じているのか、地域の特徴を踏まえた問題解決の在り方を建設的に示すことが求められる課題である。

本研究では、「深い学び」に向かう子どもを育てることができるパフォーマンス課題として以下のようにつまえることとした。

#### 本研究におけるパフォーマンス課題とは

- 各教科による見方・考え方を働かせる課題
- 習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題
- 「思考・判断・表現」を評価するための課題

### (3) ルーブリック

ルーブリックとは「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表」のことである。この基準を基に評価を行うことで、ペーパーテストでは測り切れなかった姿を見取ることができるなど評価の充実を図ることにつながると考える。

ペーパーテストで評価可能な事柄に対して無理にルーブリックを使う必要はなく、レポート課題などの「思考・判断・表現」、実技テストなどの「技能」に対して必要に応じて、活用しやすい観点で使うことができる。決して、全ての観点を同時に評価しなければならないものではないと考えられる。単純に○や×で評価できない課題に対してこそ、ルーブリックが効果をもたらすだろう。

評価基準については、ねらいに合わせて3～4段階程度設定し、記述する。基準については、全員の達成を目指すB基準を設定するが、必ずしも単元が同じだからといって基準が同じなわけではないだろう。子どもの実態に応じて柔軟に対応することも必要とされている。ルーブリックには、具体が記述されているため、評価者が誰であっても同じ評価が想定できる。そのため、評価者が複数になった場合においても、同じ基準での評価ができるメリットがある。また、子どもによる自己評価や他者評価、相互評価を可能とするなど、評価の充実を図ることにつながるだろう。

そこで本研究では、ルーブリックはパフォーマンス課題を評価するものとして、数レベル程度の評価基準を作成し、子どもと共有を図るものとする。

#### 本研究におけるルーブリックとは

- パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準表
- 単元や内容の導入時など早い段階に提示し、子どもと共有するもの

本研究では、パフォーマンス課題と、子どもと共有するルーブリックを位置付けたものをパフォーマンス単元計画としている。

単元名、単元で期待する「深い学び」に向かう子どもの姿、目標と観点別評価規準、単元で働かせる見方・考え方などを明確にし、指導に生かすものとして活用している。

## 2 研究の内容

### (1) パフォーマンス課題の設定

#### ① 見方・考え方の具体化

学習指導要領では、見方・考え方を「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方であり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」としている。深い学びの視点に関して、見方・考え方が各教科等の学びの深まりの鍵となる。

見方・考え方は、新しい知識及び技能を、既に習得している知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わることの視座を形成したりするために重要なものである。さらに、習得・活用・探究という学びの過程の中で見方・考え方を働かせることで、「深い学び」に向かう子どもを育てることができるであろうと考える。

本研究では、各教科等の見方・考え方を単元の目標に合わせて具体化し、パフォーマンス課題の設定の際に位置付けるようにする。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。	
↓	
単元の目標	
友達に日本文化について紹介するために、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある内容を話すとともに、友達の紹介を聞いて考えたことや感じたことなどを伝え合うことができる。	
単元で働かせる見方	考え方
姉妹都市の交換留学生に日本特有の文化を紹介するために	実物や写真等を用いながら、その文化の特色をまとまりのある文章で発表する。また、交換留学生になりきり、発表について感想や意見を伝え合う。

【外国語科における見方・考え方の具体化例】

#### ② 単元計画への位置付け

思考力、判断力、表現力等を見取るからといって、全ての単元でパフォーマンス課題を実施しなければならないわけではないだろう。単元や内容のまとまりの「いつ」「どのような」パフォーマンス課題を設定するかは、子どもたちに身に付けさせたい重要な点は何かをよく考え、決める必要がある。単元によっては、十分な知識や技能を統合することが難しいことがあるだろう。単元のねらいが、知識及び技能を身に付けることにあるのか、それともそれらの意味や役割を知り、活用すべきときと活用すべきではないときの判断を行うことなどにあるのかを見定める必要がある。また、必ずしもある特定の単元であればパフォーマンス課題に適しているというわけでもなく、あくまでも単元のねらいを明確にし、単元計画に位置付け実施する必要があるだろう。このように考えると、少なくとも数時間をかけて思考を練ったり、何度か繰り返し取り組んで質の向上を図ったりすることが必要となるため、1・2時間程度の小単元はパフォーマンス課題に適さないだろう。場合によっては、複数の単元を組み合わせることも考えられる。パフォーマンス課題の設定を、必要に応じて適宜に行うことで、知識及び技能を活用・応用・統合したり、自分の考えと結び付けながら、課題を解決したり、発展させたりするなど、「深い学び」に向かう子どもを育てることができるであろうと考える。

例えば、小学校第2学年の算数科でかけ算の学習が行われる。その中で、九九の暗唱に取り組むことが多いが、九九の暗唱は知識及び技能の定着を図るものであり、パフォーマンス課題として、単元に位置付けるのは望ましくないと考えられる。パフォーマンス課題としては、九九はどのよう

に役立つのか、九九の意味や役割を知り、活用すべきときを判断できることなどをねらいとする課題等が考えられる。

単元計画への位置付けについては、教科の特性に応じて、単元のねらいに加え、適切な単元や時期、回数を年間の見通しをもち設定する必要がある。

### ③ 適切なパフォーマンスの選択

パフォーマンス課題は、習得した知識及び技能を活用したり、応用したり、統合したりする課題であることから、言語による表現のみを求めるものであると誤解されがちである。彫刻や演奏などの技術的な表現や、サッカーの試合などの身体的な表現を求めるような課題も考えられる。さらには、レポートや絵画などまとまりのある完成作品を求めるものや、プレゼンテーションや実験など一連のプロセスの実演を求めるものもある。

パフォーマンスの主な選択については、以下のようなものが考えられる。

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| ○ エッセイ、小論文、論説文 | ○ 朗読、口頭発表、プレゼンテーション |
| ○ 研究レポート、研究論文  | ○ グループでの話し合い、ディベート  |
| ○ 実験レポート、観察記録  | ○ 実験計画・実施・報告        |
| ○ 物語、脚本、詩、曲、絵画 | ○ 演劇、ダンス、曲の演奏       |
| ○ ワークシート、歴史新聞  | ○ スポーツの試合           |

なお、上記を例に教科の特性や見方・考え方により、具体的な方法は異なってくるだろう。例えば国語科では、朗読、プレゼンテーション、詩や短歌の作成、小論文や作文、新聞などのレポートなどが多く活用されている。どのようなパフォーマンス課題においても、単元のねらいを明確にし、最適なパフォーマンスの選択をしていく必要がある。

## (2) ルーブリックの活用

### ① 見通しの共有

ルーブリックが単元導入時など早い段階に提示されることで、これからの学習で何を学び、単元の終わりにはどのような力を身に付けていくのかという学習に対する見通しをもつことができる。授業の目標が明確になり、身に付けるべき基礎的知識と求められる応用力についてのイメージをもつことができ、次の段階へと学びを深めることが期待できる。到達目標を明確にすることで、「深い学び」へ向かう子どもの姿につながるであろう。

さらに、学習評価の妥当性や信頼性を高めることが重要であり、学習評価の具体を事前に子どもと共有する場面を設けることは、評価の充実を図ることにもつながると考える。

### ② 学習の過程や成果の把握

ルーブリックを単元導入時など早い段階に提示すると、単元の終わりやパフォーマンス課題の実施後だけでなく、学習のどの過程においても、子どもが具体的な評価基準と現状を照らし合わせることで、「何ができるようになったか」を実感することができるだろう。また、何かをよりできるようにするために、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたりするなど、「深い学び」に向かう姿が期待できるのではないかと考えられる。さらには、パフォーマンス課題の評価基準で、自己評価や他者評価、相互評価することで、子どもの励みになったり、次の目標の設定につながったりする効果をもたらすであろう。また、子どもや保護者に対して、どのような基準で評価したのかを具体的に説明する材料となり、評価の信頼性・妥当性を高めることにつながれると考える。

(3) 資料

① パフォーマンス単元計画

教科名		学 年	
単元名	*単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。	児童・生徒数	
		授業者	
<b>1 「深い学び」に向かう子どもの姿</b>			
*単元の目標に合わせ、「深い学び」に向かう子どもの姿を選択し、明確にする。			
<b>2 単元の目標と観点別評価規準</b>			
*学習指導要領に基づきながら、各学校の教育課程や単元の内容に合わせ、育成を目指す資質・能力を明確にする。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
*単元の目標に合わせ、三つの観点での評価規準を設定する。			
<b>3 単元で働かせる見方・考え方</b>			
*各教科の見方・考え方を、単元の内容に合わせ、明確にする。			
<b>4 パフォーマンス課題（〇〇）</b>			
*単元の「思考・判断・表現」を評価するために、見方・考え方を働かせ、習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題を設定する。 *パフォーマンス課題の実施方法として、パフォーマンスの種類を明確にする。			
<b>5 ルーブリック</b>			
*パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準を明確にする。			

6 単元の指導と評価の計画（全〇時間）		
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（〇）	評価の観点【 】 評価規準
1	<p><b>★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示</b></p> <p>*学習課題は、単元の学習課題を解決することを基盤に、本時における学習課題を設定する。 *単元の内容等に応じて、単元の導入時など早い段階にパフォーマンス課題とルーブリックを提示する場面を設定する。</p>	<p>*「2 単元の目標」に基づき評価の観点と評価規準を設定し、目標との整合性が図られているか留意する。 *単位時間の評価項目は1～2つを想定する。</p>
	<p><b>★パフォーマンス課題の実施</b></p> <p>*パフォーマンス課題を実施する場面を設定する。ルーブリックを活用し、目指す姿を明確にしたり、成果の把握をしたりする。</p>	【思・判・表】

\*当研究所のホームページから資料をダウンロードすることができます。





### Ⅲ 授業実践（小学校）

#### 1 パフォーマンス単元計画

教科名	小学校 算数科		学 年	3学年
単元名	大きい数のかけ算のしかたを考えよう		児童数	7名
			授業者	伊澤 亮
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿</li> <li>③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿</li> </ul>				
2 単元の目標と観点別評価規準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算の仕方について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解できるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりしながら、計算した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3位数×1位数の乗法の筆算の仕方を理解し、それらを活用して計算することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数の構成や既習の乗法計算に着目し、2～3位数×1位数の筆算について考え、説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3位数×1位数の筆算の仕方について、乗法九九などの基本的な計算を基に考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>		
3 単元で働かせる見方・考え方				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10や100のまとまりに着目し、計算の仕方を考える。</li> <li>・分配法則に着目し、計算の仕方を考える。</li> <li>・数量の関係に着目し、計算法則を見いだす。</li> </ul>				




4 パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）	
<p>□の中にどんな数を入れたら、答えは4桁になるかな？ また、その理由も説明しよう。</p> <p style="font-size: 2em;">□47×3=□□□□</p>	

5 ルーブリック	
A	□の中に入る数字について、数量の関係に着目して説明している。 （「40×3=120になるということは、積の3桁目には既に『1』繰り上がることは決まっているから、□の中に入る数字が『3以上』であれば、3×3=9以上の数になり、答えは4桁になる。」ということにのみ触れながら説明している。）
B	□の中に入る数字について、順序よくかつ位をそろえながら計算（筆算）したことを基に、説明している。 （A基準と比べると説明の的を絞ることができてはいないが、3以上の数が答えになることを説明することができている。）
C	B基準に達していない。



6 単元の指導と評価の計画（全12時間）		
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1・2	<p>○ パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。  <b>★ループリック・パフォーマンス課題の提示</b>  <b>◆どう計算する？</b>                      ○ 10や100のまとまりに着目して<math>20 \times 3</math>や<math>200 \times 3</math>の計算の仕方を考える。  <b>◆かけられる数が10倍、100倍になると、答えはどうなる？</b>                      ○ 被乗数と積の関係に着目して答えの求め方を考える。</p>	<p>【態度】                      ・数量の関係に着目し、見通しをもち学習に取り組もうとしている。（観察）                      【知・技】                      ・被乗数と積の比較を用いて、被乗数が10倍、100倍になると、積も10倍、100倍になることを理解している。（観察・ノート）                      【思・判・表】                      ・何十、何百×1位数の計算を10や100のまとまりや既習の乗法九九に着目して計算する方法を考えている。（観察・ノート）</p>
3	<p><b>◆<math>23 \times 3</math>は、どう計算する？</b>                      ○ 数の構成や既習の乗法に着目して<math>23 \times 3</math>の計算の仕方を考える。</p>	<p>【知・技】                      ・位ごとに分けて計算すれば乗法九九を使って答えが求められることを理解している。（観察・ノート）</p>
4	<p><b>◆<math>23 \times 3</math>の筆算の仕方は？</b>                      ○ 既習の乗法などに着目して<math>23 \times 3</math>などの筆算の仕方を考える。</p>	<p>【思・判・表】                      ・既習の乗法九九などに着目して、2位数×1位数の筆算の仕方を具体物や図、式を用いて考え、説明している。（観察・ノート）</p>
5	<p><b>◆<math>16 \times 4</math>の筆算の仕方は？</b>                      ○ 既習の乗法などに着目して<math>16 \times 4</math>などの筆算の仕方を考える。</p>	<p>【知・技】                      ・2位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の計算が筆算を用いて求めることができる。（観察・ノート）</p>
6	<p><b>◆<math>42 \times 3</math>、<math>58 \times 3</math>の筆算の仕方は？</b>                      ○ 既習の乗法などに着目して、<math>42 \times 3</math>や<math>58 \times 3</math>などの筆算の仕方を考える。</p>	<p>【知・技】                      ・2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁及び部分積が全て2桁）の計算が筆算を用いて求めることができる。（観察・ノート）</p>
7	<p><b>◆<math>29 \times 4</math>、<math>76 \times 4</math>の筆算の仕方は？</b>                      ○ 既習の乗法などに着目して<math>29 \times 4</math>や<math>76 \times 4</math>などの筆算の仕方を考える。</p>	<p>【態度】                      ・筆算の仕方を振り返り、被乗数を位ごとに分けて計算するよさを感じている。（観察・ノート）</p>
8	<p><b>◆図（教P107）を基に筆算の仕方を考えよう</b>                      ○ 数の構成や既習の乗法などに着目して<math>312 \times 3</math>などの筆算の仕方を考える。</p>	<p>【思・判・表】                      ・2位数×1位数の筆算の仕方に着目して、3位数×1位数の筆算の仕方を考え、説明している。（観察・ノート）</p>
9	<p><b>◆<math>386 \times 2</math>、<math>937 \times 4</math>の筆算の仕方は？</b>                      ○ 既習の乗法などに着目して、<math>386 \times 2</math>や<math>937 \times 4</math>などの筆算の仕方について確認する。</p>	<p>【態度】                      ・これまでの筆算の仕方を振り返り、被乗数や積の桁数が多くなっても、どの位で繰り上がっても、同じやり方で求められることのよさを感じている。（観察・ノート）</p>
10	<p><b>◆□に入る数字を考えて説明しよう</b>  <b>★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）</b>                      ○ 既習の乗法などに着目して、パフォーマンス課題に挑戦する。</p>	<p>【思・判・表】                      ・既習の乗法の筆算の仕方に着目して、3位数×1位数（部分積が全て2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。（ワークシート・口頭説明）</p>
11	<p><b>◆よりよい計算の仕方は？</b>                      ○ 場面を捉えて立式し、乗法の結合法則についてまとめる。</p>	<p>【知・技】                      ・乗法の結合法則を用いて<math>5 \times 2</math>を先に計算するなど、工夫して計算することができる。（観察・ノート）</p>
12	<p><b>◆単元を振り返ろう</b>                      ○ 学習内容の習熟・定着を図る。                      ○ 数学的な見方・考え方の振り返り。                      ○ 学習内容の数学への活用をする。</p>	<p>【知・技】                      ・基本的な問題を解決することができる。（観察・ノート）</p>

## 2 授業記録

7 細案 授業実践（1/12時）							
本時の目標	評価規準						
何十、何百に1位数をかける計算の仕方について、10や100を基に考えることができる。	【思・判・表】 ・何十、何百×1位数の計算を10や100のまとまりや既習の乗法九九に着目して計算する方法を考えている。（観察・ノート）						
具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）	教師の手立て						
<p>○ 教科書の導入問題を基にして、単元で学習する内容を想起し、単元の見通しをもつ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>かけ算はかけ算でも、9より大きいかけ算。</p> <p>どうやって計算するんだろう？</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 30%;"> <p>この単元では、どんなことを新しく学習すると思う？</p> <p>2から3桁の数×1から10までの数の計算の仕方を学習するよ。</p> </div> </div> <p>○ パフォーマンス課題を知る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【最終ボス】 □の中にどんな数を入れたら、答えは4けたになるかな？また、その理由もせつ明しよう。 □ <math>47 \times 3 = \square\square\square\square</math></p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>・パフォーマンス課題を「<sup>ラス</sup>最終ボス」とネーミングして提示する。</p> <p>計算の手順を説明するのかな。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>できそうだけど、理由を説明するのは難しそうだな。</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div> <p>○ パフォーマンス課題に挑戦してみる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>筆算を使えば考えられそうだけど、筆算ってどうやってやるんだろう。</p> <p>絶対倒してやる！</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>・単元の学習を具体的に見通すためにも、考える時間をしっかり確保する。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">答え</td> <td><math>447 \times 3 = 1241</math></td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>まず見える筆文字からやって初7を100.200.400で分けてみえるかおとだして4けたになるまで分けたらいいよ</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <math>7 \times 3 = 21</math> <math>40 \times 3 = 120</math> <math>141</math>  <math>1241</math> </td> </tr> </table> </div> </div>		答え	$447 \times 3 = 1241$	理由	まず見える筆文字からやって初7を100.200.400で分けてみえるかおとだして4けたになるまで分けたらいいよ		$7 \times 3 = 21$ $40 \times 3 = 120$ $141$ $1241$
答え	$447 \times 3 = 1241$						
理由	まず見える筆文字からやって初7を100.200.400で分けてみえるかおとだして4けたになるまで分けたらいいよ						
	$7 \times 3 = 21$ $40 \times 3 = 120$ $141$ $1241$						

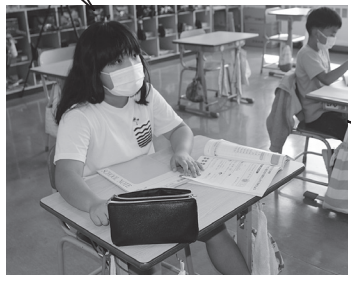
見通す（単元）

見通す（単元→本時）

○ ルーブリックについて考える。

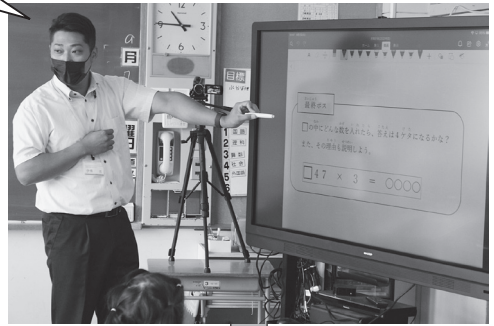
勉強した後に、この問題に挑戦してみるよ。  
どのように答えられたらいいのかな？

当てずっぽうはダメ！



勉強したことを  
使って答える。

・子どもたちとどのように答えられたらいいのかについて確認しながら、ルーブリックを作成・共有する。



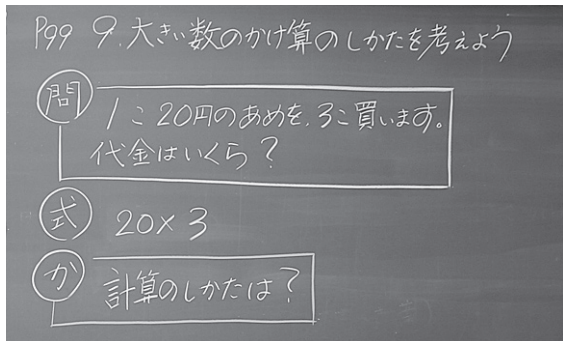
◎(A)を目指して頑張りたい！



**【ルーブリック】**  
◎(A)…問題を解く上で大事なことに触れて答える。  
○(B)…これから学習することを基に答える。  
△(C)…当てずっぽうに答える。

◆ どう計算する？

○ 本時の学習課題について考える。



**見方・考え方**  
・10や100のまとまりに着目し、計算の仕方を考えること。

・個人思考の時間を確保する。自然発生的な交流は妨げない。  
・学習課題の確認や振り返りは、次時に行う。

20は、10のかたまりが2つで…。



計算の仕方は、 $2 \times 3 = 6$ だから。

○ 振り返る。

・ $20 \times 3$ を計算できたら、最終ボスの課題についても答えられるのか、今は分からない。

・本時の学習がパフォーマンス課題とのつながりがあるかを考える。

○ 次時の確認をする。

・計算の仕方を説明しよう。

探究する

振り返る



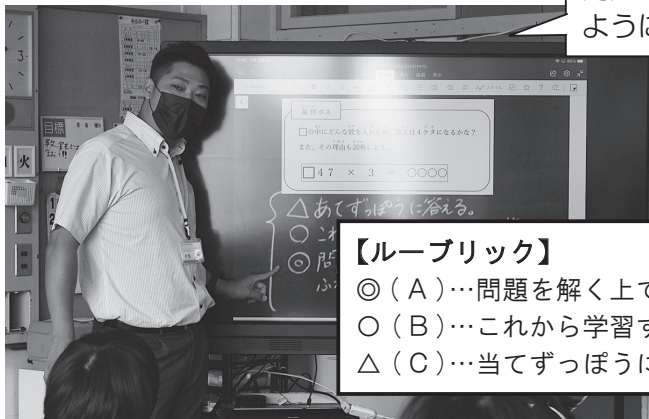
7 細案 授業実践（10/12時）	
本時の目標	評価規準
既習の乗法などに着目して、パフォーマンス課題について説明することができる。	【思・判・表】 ・既習の乗法の筆算の仕方に着目して、3位数×1位数（部分積が全て2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。（ワークシート・口頭説明）
具体的な子ども姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）	教師の手立て

○ パフォーマンス課題と1時間目に考えたループリックについて確認する。

【最終ボス】

□の中にどんな数を入れたら、答えは4けたになるかな？また、その理由もせつ明しよう。  
□47×3=〇〇〇〇

問題を解く上で大事なことだけに触れて答えるようにしよう。それは、どういうことだと思う？



【ループリック】

- ◎(A)…問題を解く上で大事なことだけに触れて答える。
- (B)…これから学習することを基に答える。
- △(C)…当てずっぽうに答える。

◆ □に入る数字を考えて説明しよう

○ パフォーマンス課題について、ワークシートを使って考える。

・単元での学習を基に一人で考え、説明の内容を整理する。

答えは1つじゃないってことは…

答えは1つだけかな？  
全部計算しないとだめかな？

3～9を入ると  
4桁になるな。

答えは分かったけど、理由はどうやって説明したらいいんだろう？



見通す

探究する

○ 理由を説明し、評価を確認する。

※ パフォーマンス課題に回答した後は、各自定着問題に挑戦する。

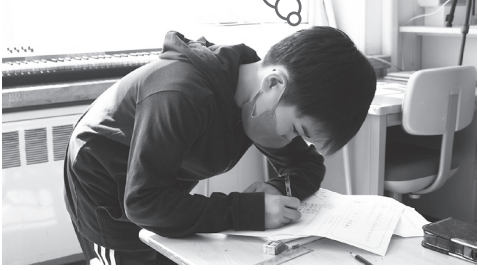
- ・一人一人説明するようにする。
- ・答えられる回数は、2回までとする。
- ・教室で待っている間は、交流は行わない。

□の中に入る数は何ですか。  
その理由を説明してください。  
よくできました。◎(A)です。



3から9です。  
40×3=120。繰り上がりの1があるので、□に3以上を入れると4桁になります。

「3から9を入れた時に4桁になる」という説明では◎(A)がもらえないのかあ。どこを説明できたらいいのかな。



答え	3456789
理由	<p>90×3=120. 繰り上がり100の位にある</p> <p>300×3=900 400×3=1200 500×3=1500 600×3=1800 700×3=2100 800×3=2400 900×3=2700</p> <p>□の数とかける数の答えからのみ、4桁になるかを考えたことが分かる。</p> <p>繰り上がり「1」と足して、合わせると4桁になることを考えたことが分かる。◎</p>

探究する

○ パフォーマンス課題について、考えたことを発表し合い、交流する。

- ・□に入る数字が3以上であることとその理由について、全体で交流することで、理解を深める。

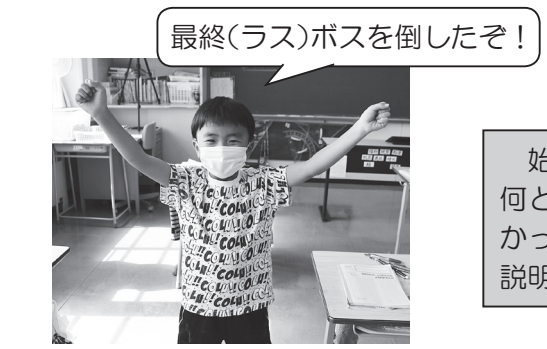
□に入る数字は何ですか。  
3から9です。  
始めは、□に入る数が3だと、300×3=900だから、4桁にならないと思った。



全部計算しないと、答えは出ないのかな。  
10の位の4と□の数だけ計算すればいいです。  
位ごとに分けて計算することができました。

○ 学習を振り返る。

- ・パフォーマンス課題に対しての自己の学習を振り返ることができるよう、振り返りの視点を必要に応じて確認する。



最終(ラス)ボスを倒したぞ！

始めにパフォーマンス課題を見たときには、答えは何となく分かっていたけど、説明することができなかった。でも、単元の学習を通して自分なりに理由を説明することができるようになってよかった。

【パフォーマンス課題に取り組んでの感想】

振り返る

### 3 研究内容の検証

#### (1) 子どもの見取り・聞き取り

##### ① 授業実践1

###### ○ 授業中の様子より

パフォーマンス課題を「最終ボス」とネーミングして提示したことで、子どもの興味・関心を高めることにつながった。また、パフォーマンス課題を実際に取り組んだ時には、「絶対倒す」と意欲的だった。これからの学習の中で、課題を解決するための力を身に付けていきたいという意欲的な姿が見られた。



###### ○ インタビューより

大きい数のかけ算です。

最終（ラス）ボスを最後に倒すことです。◎が取れるようにしたいです。

3桁のかけ算の仕方が分かるようになりたいです。



これから、どんな学習をするのですか。

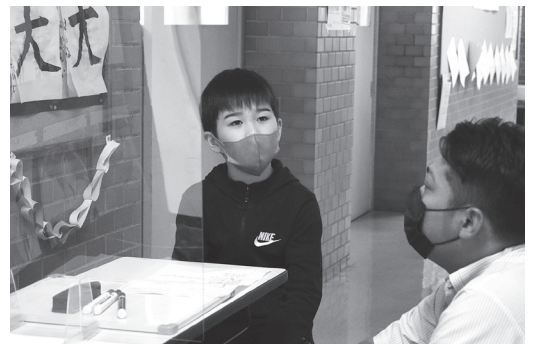
今までと違うところは何かですか。

これから、どのように学習していけばいいですか。

##### ② 授業実践2

###### ○ 授業中の様子より

今まで学習してきた2～3桁の筆算の仕方を振り返りながら、順序よく位をそろえて計算して4桁になる数を求めていた。ただ、「問題を解く上で大事なことに触れて答える」ということが何なのかについて迷う子どもが多かった。教師による問い返しにより、繰り上がりについて説明することができていた。



###### ○ インタビューより

難しかったけど、できました。

はい。最終（ラス）ボスを倒すための「武器」を見つけていました。特に、前回の学習の中で、使えそうな「武器」がたくさんありました。



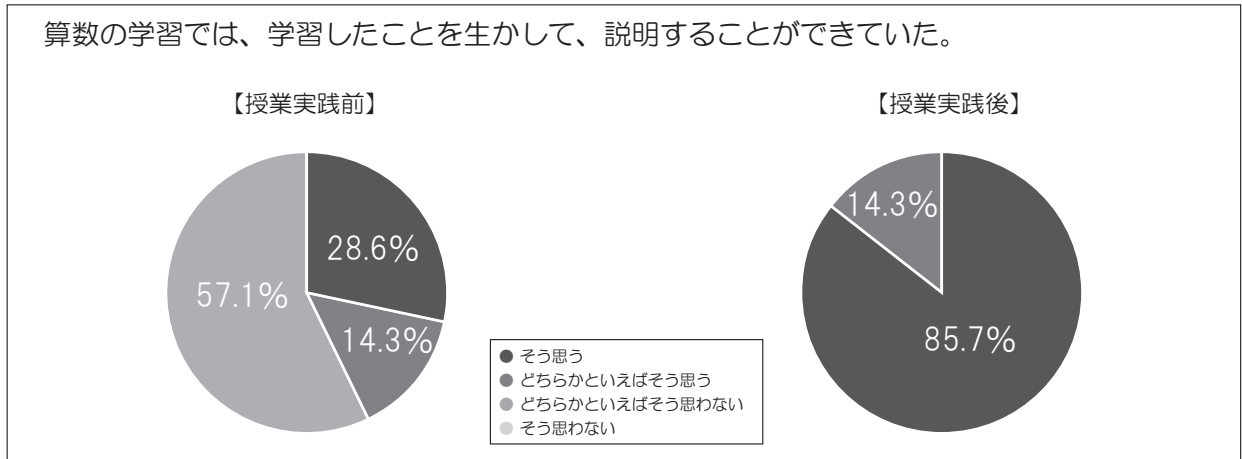
パフォーマンス課題はうまくできましたか。

今までの学習の中で、最終（ラス）ボスのことを考えることはありましたか。

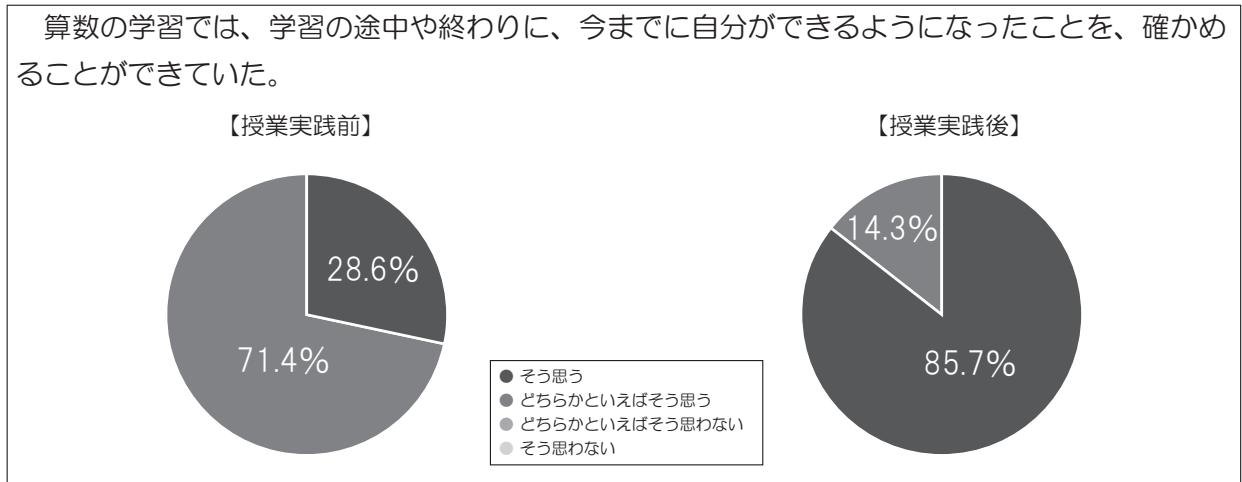
パフォーマンス課題とループリックを単元の1時間目に提示したことで、単元の見通しをもつことができ、意欲的に学習する姿につながった。また、単元の途中においてもパフォーマンス課題を意識し、パフォーマンス課題を解決する（ラスボスを倒す）ために必要な力は何か、学習したことが解決につながるかを考えていたことが分かる。



(2) 授業実践前後のアンケート結果から



アンケートの結果から、実践前に比べ「そう思う」という回答した子どもが大幅に増えている。このことから、パフォーマンス課題を設定したことにより、子どもが今まで学習してきた知識を相互に関連付けてより深く理解しようとしたり、問題を見いだして解決策を考えようとしたりする深い学びに向かう子どもの姿へつながったのではないかと考察できる。

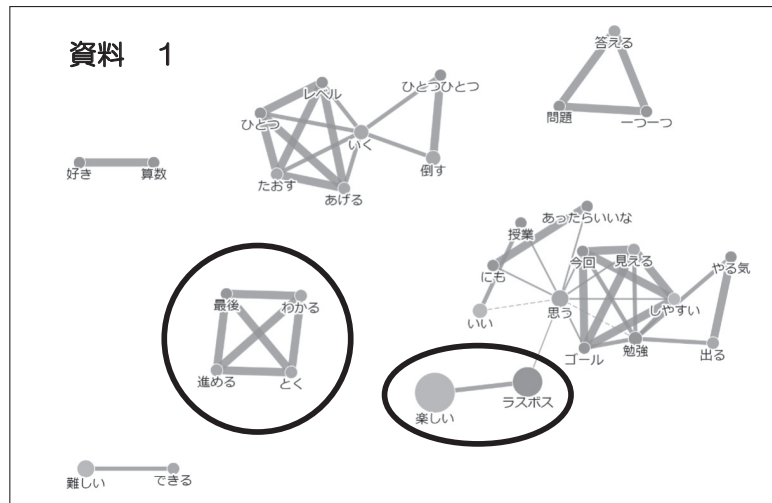


アンケートの結果から、実践前に比べ「そう思う」という回答した子どもが大幅に増えている。このことから、パフォーマンス課題とループリックを単元の早い段階に提示することで、自分の学びの成果や課題について確かめ、子どもが学びを実感することができたのではないかと考察できる。

(3) 単元を振り返っての感想

- 楽しかった。最後に解くものが分かっていたから、それまでを自分で進められた。
- ラスボス（というパフォーマンス課題）があって、何か楽しかった。ちょっと難しかったけど、ラスボスを倒すためにレベルを一つずつ上げていくのも楽しかった。
- 今回みたいにラスボスがいて、ゴールが見えている方が勉強しやすいし楽しいと思った。
- ラスボスがいたから難しかったけど、楽しかった。ラスボスに挑戦しているときに楽しかった。一つ一つの問題に答えるのも楽しかった。でも、算数はあまり好きじゃない。
- 楽しかった。ラスボスを倒すところとか、一つ一つの敵（課題）を倒していくところが楽しかった。ラスボスはもっと他にもあったらいいなと思う。
- ラスボスは強かったし、楽しかった。どんな授業でもラスボスがいればいいのにとと思う。そしたらみんなやる気も出るし、勉強ももっと楽しくなる。
- 難しかったし、あまりできなかったけど、楽しかった。ラスボスはあったほうがいい。

○ 感想については、テキストマイニングを用いて分析した。



○ 資料1はアンケートの感想から、文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図である。

「ラスボス」というパフォーマンス課題と「楽しい」という言葉が関連付けられており、学習に対する意欲を高めることにつながったことが分かる。

また、子どもの感想には、「最後に解くものが分かっていたから、それまでを自分で進められた」というものもあり、単元を通して最終的に到達すべき姿を意識することができたことが分かる。

テキストマイニングとは

文字列を対象としたデータマイニングのことである。通常の記事からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法である。



User Local AIテキストマイニング

(4) ワークシートから

答え	3456789
理由	<p>40×3=120 + 300 = 420 (100の位にある)</p> <p> <math>300 \times 3 = 900</math>  <math>400 \times 3 = 1200</math>  <math>500 \times 3 = 1500</math>  <math>600 \times 3 = 1800</math>  <math>700 \times 3 = 2100</math>  <math>800 \times 3 = 2400</math>  <math>900 \times 3 = 2700</math> </p> <p>①</p>
	<p>40×3=120</p> <p> <math>300 \times 3 = 900</math>  <math>400 \times 3 = 1200</math>  <math>500 \times 3 = 1500</math>  <math>600 \times 3 = 1800</math>  <math>700 \times 3 = 2100</math>  <math>800 \times 3 = 2400</math>  <math>900 \times 3 = 2700</math> </p> <p>②</p>

これはパフォーマンス課題を行う際に、口頭で説明する前に使用した、子どものワークシートの一部である。

この子どもは、はじめは□の数とかける数の答えからのみ、4桁になるかを考えたことが分かる。(左図①)

ただ、指導者に□に入る数が「3」のときのことを聞かれたことによって、□の数が3のとき、 $300 \times 3 = 900$  だけど、 $40 \times 3 = 120$  で、繰り上がり「1」と足して、合わせると4桁になることを説明することができて②になった。(左図②)

この子どものように、数量の関係に着目して考え、知識を相互に関連付けてより深く理解しようとするにつながったと考えられる。

## 4 共同研究員によるパフォーマンス単元計画例

### (1) パフォーマンス単元計画について

パフォーマンス単元計画例（小学校）は十勝教育研究所のホームページ（<https://www.tokyoken.net>）からダウンロードすることができます。



ループリックについては、授業実践を踏まえて、子どもにとって分かりやすいように記述することとしました。

研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名等	ページ
音更町教育研究所	日水 直樹	4年	算数科	どのように変わるか調べよう	P21
上士幌町教育研究所	政野 里歩	3年	理科	光	P22
鹿追町立教育研究所	鈴木裕太郎	2年	国語科	さげが大きくなるまで	P22
新得町教育研究所	市原 秀樹	4年	理科	もののあたたまり方	P23
清水町教育研究所	持田 淑美	4年	理科	とじこめた空気と水	P23
芽室町教育研究所	大草 恵輔	5年	国語科	世界遺産 白山山地からの提言 - 意見文を書こう	P24
大樹町教育研究所	石川 諒	2年	国語科	「クラスお楽しみ会」をひらこう	P24
本別町総合教育研究所	大山 陽子	4年	算数科	どのように変わるか調べよう	P25

教科名	小学校 算数科	学 年	4 学年
単元名	どのように変わるか調べよう	児童数	24 名
		授業者	日水 直樹
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿			
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・ 伴って変わる二つの数量について、表を用いて調べたり式に表したりできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して二つの数量の変化の特徴について考える力を養い、二つの数量の変化について考察した過程を振り返り、そのよさに気付く今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
・ 伴って変わる二つの数量の関係を、表を用いて変化の特徴を調べたり、□や○などを用いて式に表したりすることができる。	・ 伴って変わる二つの数量の関係を着目して、図や表、式を用いて変化や対応の特徴について考え、説明している。	・ 主体的に問題解決に取り組むとともに、二つの数量の関係を表で調べることのよさや関係を□や○などを用いた式に簡潔に表せることのよさを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付く学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
・ 伴って変わる数量の関係を着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する。			
4 パフォーマンス課題（ノート・口頭説明）			
右の正方形の階段の周りの長さは何cmになるか求めよう。また、その理由を説明しよう。			
5 ループリック			
A	段の数と周りの長さの関係を表に整理して、決まりを見付けて問題解決をすることができる。（伴って変わる二つの数量の変化に着目して、表を縦や横の関係で考え、段の数×4＝周りの長さの式を用いて、分かりやすく・端的にノートに説明を書き、発言することができる。）		
B	段の数と周りの長さの関係を表に整理して、決まりを見付けることができる。（伴って変わる二つの数量の変化に着目して、表を縦や横の関係で考え、段の数×4＝周りの長さの式を用いて、ノートに説明を書くことができる。）		
C	図をかいたり、段の数と周りの長さの関係を表に表したりして、答えを導くことができる。（図をかいたり、表を縦や横の関係で考えたりし、周りの長さを説明することができる。表を活用し、一段増えると4cmずつ大きくなるから、36cm。）		

6 単元の指導と評価の計画（全5時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	<b>★パフォーマンス課題、ループリックを提示し、単元を見通す。</b> <b>◆縦の長さとの横の長さの関係を調べよう</b> ○ 周りの長さが16cmの長方形や正方形の縦の長さとの横の長さの関係を調べる。 ○ 縦の長さとの横の長さの関係を調べていく。 ○ 縦の長さ○cm、横の長さを○cmとし、□+○=8のような式で表す。	【知・技】 ・ 伴って変わる二つの数量の関係を、表を用いて調べ、□や○を使って式に表すことができる。（観察・ノート）
2	<b>◆正三角形を1列に組み合わせていくときの周りの長さを考えよう</b> ○ 1辺が1cmの正三角形を1列に組み合わせていくときの、正三角形の数と周りの長さの関係を調べていく。 ○ 正三角形の数と周りの長さを表にまとめ、その関係を式に表す。 ○ 正三角形の数が10個のときの周りの長さを求める。	【知・技】 ・ 伴って変わる二つの数量の関係を、表を用いて調べ、□や○を使って式に表すことができる。（観察・ノート） 【思・判・表】 ・ 伴って変わる二つの数量の変化の特徴に着目して、表を縦や横の関係で考え、説明している。（観察・ノート） 【態度】 ・ 表から二つの数量の関係を発見した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。（観察・ノート）
3	<b>★パフォーマンス課題（ノート・口頭説明）</b> <b>◆右のような正方形の階段の周りの長さは何cmか求めよう</b> ○ これまでの学習を生かし、パフォーマンス課題に問題に取り組む。	【思・判・表】 ・ 伴って変わる二つの数量の変化の特徴に着目して、表を縦や横の関係で考え、説明している。（口頭説明・ノート） 【態度】 ・ 前時までの、表から二つの数量の関係を発見した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。（ノート・観察）
4	<b>◆1本のひもを切り、ひもを60本作ります。何回切ればよいか考えよう</b> ○ 切る回数とできるひもの数の関係を調べる。 ○ 表や図から、切る回数とできるひもの数の関係を式に表す。 ○ ひもが60本できるときの、切る回数を求める。	【思・判・表】 ・ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。（観察・ノート） 【態度】 ・ 単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。（観察・ノート）
5	<b>◆木を6本植えた時の距離を考えよう</b> ○ 4mおきに木を植えていくとき、6本植えると、始めに植えたところから6本目に植えたところまで何mになるか考える。 ○ 表や図をかき、木と木の間に注目し、その関係を式に表す。 ○ 23本植えたとき、始めに植えたところからの距離を求める。	【思・判・表】 ・ 図をかくことで伴って変わる二つの数量の変化の特徴に着目して、表を縦や横の関係で考え、説明している。（観察・ノート） 【態度】 ・ 前時までの、表から二つの数量の関係を発見した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。（観察）

III 授業実践 (小学校)

教科名	小学校 理科		学年	3 学年
単元名	光		児童数	32 名
			授業者	政野 里歩
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
・光の性質について、光を当てたときの物の明るさやあたたかさに着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、光の直進や反射、光を当てた物の明るさやあたたかさなどについての理解や実験に関する技能を身に付け、光を当てたときの物の明るさやあたたかさの様子について追究する中で差異点や共通点を基に問題を見いだして表現する。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
・鏡ではね返した光は、真っ直ぐに進むことを理解している。 ・鏡ではね返した光を重ねて当てると、光を重ねるほど、よりあたたかくなることを理解している。	・光の進み方について、実験の結果を基に考察し、その考えを表現している。 ・光を重ねて当てたところのあたたかさについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現している。	・身の回りで見られる事象を基に、光の進み方に興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとしている。 ・学んだことを、身の回りの事例に当てはめて説明しようとしている。 ・光を重ねて当てたところのあたたかさについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとしている。		
3 単元で働かせる見方・考え方				
・光の直進や反射、光を当てたときの明るさやあたたかさについて、主として質的・関係的な視点で捉え、比較して考える。				
4 パフォーマンス課題 (ワークシート)				
かがみで光をはね返して、「まと」に当てます。どの「まと」が一番あたたかくなるでしょうか。また、その理由も答えましょう。				
5 ルーブリック				
A	実験したことの結果に触れ、他の選択肢と比べながら、正しく理由が書けている。(光を重ねるほどよりあたたかくなり、「い」が一番多くの光が当たっているから。)			
B	他の選択肢と比べながら、正しく理由が書けている。「い」が一番多くの光が当たっているから。「あ」「う」は 1 枚で、「い」は 2 枚だから。			
C	理由が書けていなかったり、間違っていたりしている。他の選択肢と比べていない。(何となく。「い」は 2 枚だから。差異点に触れていない。)			

6 単元の指導と評価の計画 (全 7 時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】 評価規準
1	◆日光をかがみではね返してみよう ○ 光の筋の当てをする。	【思・判・表】 ・光の進み方について、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現する。(発言分析・記録分析)
2	○ パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。 ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 ◆日光をかがみではね返して、光の進み方を調べよう ○ 日光を鏡ではね返して、光の進み方を調べる。	【知・技】 ・鏡を正しく扱いながら、光の進み方について確かめ、その結果を分かりやすく記録する。(行動観察・記録分析) ・鏡ではね返した光は、まっすぐに進むことを理解する。(発言分析・記録分析) 【思・判・表】 ・光の進み方について、実験の結果を基に考察し、その考えを表現する。(発言分析・記録分析) 【態度】 ・身の回りで見られる事象を基に、光の進み方に興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとする。(行動観察・記録分析) ・学んだことを、身の回りの事例に当てはめて説明しようとする。(発言分析・記録分析)
4	◆かがみではね返した光を重ねて当てると、あたたかくなるのだろうか ○ 鏡ではね返した光を重ねて当てて、明るくなったところのあたたかさを調べる。	【思・判・表】 ・光を重ねて当てたところのあたたかさについて、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現する。(発言分析・記録分析) 【知・技】 ・鏡を正しく扱いながら、鏡ではね返した光を重ねて当てて、明るくなったところのあたたかさを確かめ、その結果を分かりやすく記録する。(行動観察・記録分析) ・鏡ではね返した光を重ねて当てると、光を重ねるほど、よりあたたかくなることを理解する。(発言分析・記録分析) 【思・判・表】 ・光を重ねて当てたところのあたたかさについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現する。(発言分析・記録分析) 【態度】 ・光を重ねて当てたところのあたたかさについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとする。(行動観察・記録分析)
6	◆虫めがねで日光を集めて当てると、明るさやあたたかさは、どう変わるのだろうか ○ 虫眼鏡で日光を集めて当てて、明るさやあたたかさを調べる。	【思・判・表】 ・虫眼鏡で日光を集めて当てたところの明るさやあたたかさについて、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現する。(発言分析・記録分析) 【知・技】 ・鏡を正しく扱いながら、虫眼鏡で日光を集めて当てて、明るさやあたたかさを確かめ、その結果を分かりやすく記録する。(行動観察・記録分析) ・虫眼鏡で日光を集めると、光を当てたところを小さくするほど、よりあたたかくなることを理解する。(発言分析・記録分析) 【思・判・表】 ・虫眼鏡で日光を集めて当てたところの明るさやあたたかさについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現する。(発言分析・記録分析) 【態度】 ・虫眼鏡で日光を集めて当てたところの明るさやあたたかさについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとする。(行動観察・発言分析)
7	◆光を重ねたときに一番あたたかくなる「まと」はどれだろうか ★パフォーマンス課題 (ワークシート・口頭説明) ○ 既習の内容に着目して、パフォーマンス課題に挑戦する。	【思・判・表】 ・既習の光の性質 (光の進み方、光を重ねて当てたところのあたたかさ) に着目して、一番あたたかくなるのがどれか導き、理由を記述している。(ワークシート)

教科名	小学校 国語科		学年	2 学年
単元名	さがが大きくなるまで		児童数	19 名
			授業者	鈴木裕太郎
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ② 情報を精査して考えを形成しようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること。 ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつこと。 ・積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさがが大きくなる様子を説明しようとする。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。	・話すこと・聞くことにおいて、相手に伝わるように行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	・積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさがが大きくなる様子を説明しようとしている。		
3 単元で働かせる見方・考え方				
・時、場所、大きさや様子を説明する言葉に着目して、読み方を考える。				
4 パフォーマンス課題 (作成物・発表)				
じゅんじょや様子に気をつけて、生き物せい長シアーを作ろう。				
生き物の成長の様子を、読み取ってまとめた成長シートから場面を分けて図のように円盤型の成長シアーにまとめる。場面の分け方は 4 つに限らない。				
出来上がった成長シアーを台紙にセットし、割りピンでとめて回るようにする。回していくと、V 字型にカットした台紙から生き物が成長していく様子が見える。				
5 ルーブリック				
A	時系列に整理し、「時」「場所」「様子」の全てを使って、成長の過程を読み取っている。			
B	時系列に整理し、「時」「場所」「様子」のいずれかを使って、成長の過程を読み取っている。			
C	B 基準に達していない。			

6 単元の指導と評価の計画 (全 11 時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】 評価規準
1	◆さが大きくなるまでを成長シアーで紹介しよう ○ 身近な生き物の成長シアーを見て学習のめあてをもつ。 ★パフォーマンス課題の提示	【態度】 ・積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさが大きくなる様子を説明しようとしている。(観察) (発言分析)
2	◆さが成長シアーを作るために、何が分ればよいか考えよう ○ 全文を読み、どの言葉に注目して成長シアーを作るか考える。 ★ルーブリックの提示	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(ワークシート) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(ワークシート・観察)
3	◆さが大きくなるまでの「時」を表す言葉を見付けよう ○ 時を表す言葉を探し、成長していく時間の変化を考える。 ○ 時を表す言葉にはどのようなものがあるか考える。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(ワークシート) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な時を表す語や文を考えて選び出している。(ワークシート・観察)
5	◆さが大きくなるまでの「場所」を表す言葉を見付けよう ○ 場所を表す言葉を探し、成長していく場所の変化を考える。 ○ 場所を表す言葉にはどのようなものがあるか考える。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(ワークシート) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な場所を表す語や文を考えて選び出している。(ワークシート・観察)
7	◆さが大きくなるまでの「体の様子」を表す言葉を見付けよう ○ 体の様子を表す言葉を探し、成長していく様子の変化を考える。 ○ 様子を表す言葉にはどのようなものがあるか考える。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(ワークシート) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な体の様子を表す語や文を考えて選び出している。(ワークシート・観察)
9	◆成長シートを基にして、どこで場面を区切るか考え成長シアーを作ろう ○ 成長シートを基にして、どこで場面を区切るか考えて成長シアーを作る。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(観察)
11	◆さが大きくなるまでを成長シアーで紹介しよう ○ 成長の順序を時、場所、様子ごとに作った成長シアーを基にして振り返る。 ○ 成長シアーを作るときに気をつけることについてまとめる。 ★パフォーマンス課題 (作成物・発表)	【態度】 ・積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさが大きくなる様子を説明しようとしている。(観察) 【思・判・表】 ・時系列に整理し、「時」「場所」「様子」のいずれかを使って、成長の過程を読み取っている。(作成物・発表)



教科名	小学校 理科	学 年	4 学年
単元名	ものあたたまり方	児童数	42 名
		授業者	市原 秀樹
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ② 情報を精査して考えを形成しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・金属、水及び空気の状態について、熱の伝わり方に着目して、それらを調べる活動を通して、物のあたたまり方について理解や実験に関する技能を身に付け、金属、水及び空気の性質について探究する中で既習の内容や生活経験を基に根拠ある予想や仮説を発想して表現する。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・金属のあたたまる順を確かめる技能 ・金属は、熱したところから順にあたたまること ・水のあたたまる順を確かめる技能 ・水は、金属と違って上の方からあたたまること ・あたためた水の動きを確かめる技能 ・あたためられた水は、上の方に動くこと ・空気はあたたまると、やがて、全体があたたまること	・金属のあたたまり方の問題に対して、根拠ある予想を考える力 ・金属のあたたまると、実験の結果を基に考察して表現する力 ・水のあたたまり方の問題に対して、根拠ある予想を考える力 ・水のあたたまると、実験の結果を基に考察して表現する力 ・あたためた水の動きの問題に対して根拠ある予想を考える力 ・あたためた水の動きについて、実験の結果を基に考察して表現する力 ・空気はあたたまると、実験の結果を基に考察して表現する力	・金属のあたたまり方に興味をもち、進んで問題を解決しようとする態度 ・水のあたたまり方に興味をもち、進んで問題を解決しようとする態度 ・あたためた水の動きに興味をもち、進んで問題を解決しようとする態度 ・学んだことを、身の回りの事例に当てはめて説明しようとする態度 ・空気はあたたまると、実験の結果を基に考察して表現する力	
3 単元で働かせる見方・考え方			
・金属、水及び空気の性質について、熱の伝わり方に着目し、実験の結果と関係付けて既習の内容や身の回りの事例を考察する。			
4 ハフォーマンス課題 (タブレットによる「まとめカード」づくり)			
身の回りの3つの不思議について、どれか1つ選んで説明してみよう。 (1) ハーベキューは、金くしの方が早く焼けるのはどうして? (2) 熱気球が、空にかぶるのはどうして? (3) お風呂で、上の方だけ熱いときがあるのはどうして?			
5 ルーブリック			
	A	B	C
① 学習したことをもとに、身の回りの不思議について、まとめているかな?	①も②もしっかりできているよ。	①か②の、どちらかはできているよ。	①も②も十分にできていないよ。
② 分かりやすくまとめているかな?	③も④もしっかりできているよ。	③か④の、どちらかはできているよ。	③も④も十分にできていないよ。
③ 学習したことをもとに、考えたり、図などを使って表したりしているかな?	時間をかけて、ていねいにまとめているね。	すすんで取り組んでいるところがいね。	もう少し努力が必要だよ。
④ 予想や感想など、自分の考えを表現しているかな?			
⑤ 時間をかけて、見やすくていねいにまとめているかな?			

教科名	小学校 理科	学 年	4 学年
単元名	とじこめた空気と水	児童数	20 名
		授業者	持田 淑美
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ② 情報を精査し考えを形成しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・空気や水の性質について、体積や押し返す力の変化に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、空気や水の性質についての理解や実験に関する技能を身に付け、空気や水の性質について追究する中で既習の内容や生活経験を基に根拠ある予想や仮説を発想して表現する。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・閉じ込めた空気や水に力を加えると、空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解する。	・閉じ込めた空気や水に力を加えたときの違いについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現する。	・閉じ込めた空気や水に力を加えたときの違いに興味をもち、他者との関わりながら、進んで問題を解決しようとする。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
・空気や水の性質について、体積や押し返す力の変化に着目して、体積や押し返す力の変化を関係付けて考えること。			
4 ハフォーマンス課題 (観察記録・ワークシート)			
ペットボトルをおすとなぜ魚は沈むのかな?沈むなぞを説明しよう。			
5 ルーブリック			
A	とじ込めた空気や水に力を加えたときの違いについて、実験の結果を基に考察し、その考えを説明することができる。		
B	とじ込めた空気や水に力を加えたときの違いについて、実験の結果を基に考察し、その考えに気付いているが説明できない。		
C	とじ込めた空気や水に力を加えたときの違いについて、実験の結果に気付くことができない。		

6 単元の指導と評価の計画 (全8時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】 評価規準
1	◆3つの不思議について考えよう ○身の回りの3つの不思議を提示し、予想を立てる。 ① 金くしをさすと、肉が早く焼けるのはなぜか。 ② 熱気球が、空にかぶるのはなぜか。 ③ お風呂で、上の方だけ熱いときがあるのはなぜか。 ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 ※表による提示ではなく、要点を言葉で伝える。	【態度】 ・身の回りの事象に興味をもち、生活体験などを踏まえて、問題に対して積極的に考えようとしている。(ワークシート)
2	◆金属の一部を熱したとき、どのようにあたたまっていくのか、考えよう ○個人で予想を立て、グループで意見をまとめる。 ○金属の板や棒に示温インクを塗り、色の変化であたたまるとの順序を調べる。 ○結果をまとめる。	【知・技】 ・器具を正しく扱いながら、金属を熱したときの熱の伝わり方を確かめる。(観察・ワークシート) 【思・判・表】 ・金属のあたたまり方について、根拠ある予想を立てたり、実験の結果を基に考察して表現したりする。(観察・ワークシート)
3	◆金属の熱する部分を変えたり、形を変えたりすると、どのようにあたたまっていくのか、考えよう ○個人で予想を立てる。 ○示温インクを塗った金属の板の中心を熱し、色の変化であたたまるとの順序を調べる。 ○NHK for school を視聴し、形を変えた時の熱の伝わり方を調べる。 ○結果をまとめ、不思議①について交流する。	【知・技】 ・器具を正しく扱いながら、熱する場所を変えたり、金属の形を変えたりしたときの熱の伝わり方を確かめる。(観察・ワークシート) 【思・判・表】 ・条件を変えて金属を熱したときのあたたまり方について、根拠ある予想を立てたり、実験の結果を基に考察して表現したりする。(観察・ワークシート)
4	◆水を入れたビーカーの一部を熱したとき、どのようにあたたまっていくのか、考えよう ○個人で予想を立て、グループで意見をまとめる。 ○示温インクを入れたビーカーの水を熱し、色の変化であたたまるとの順序を調べる。 ○結果をまとめる。	【知・技】 ・器具を正しく扱いながら、水を熱したときの熱の伝わり方を確かめる。(観察・ワークシート) 【思・判・表】 ・水のあたたまり方について、根拠ある予想を立てたり、実験の結果を基に考察して表現したりする。(観察・ワークシート)
5	◆水を入れた試験管の一部を熱したとき、どのようにあたたまっていくのか、考えよう ○個人で予想を立てる。 ○示温インクを入れた試験管の水の上部を熱し、色の変化であたたまるとの順序を調べる。 ○結果をまとめ、不思議③について交流する。	【知・技】 ・器具を正しく扱いながら、水の上部を熱したときの熱の伝わり方を確かめる。(観察・ワークシート) 【思・判・表】 ・水のあたたまり方について、根拠ある予想を立てたり、実験の結果を基に考察して表現したりする。(観察・ワークシート)
6	◆空気は、金属や水と比べて、どのようにあたたまっていくのか、考えよう ○個人で予想を立て、全体で意見交流をする。 ○NHK for school を視聴し、空気はあたたまり方について調べる。 ○結果をまとめ、不思議②について交流する。	【知識】 ・空気を熱したときの熱の伝わり方を確かめる。(観察・ワークシート) 【思考・判断・表現】 ・空気はあたたまり方について、根拠ある予想を立てたり、実験の結果を基に考察して表現したりする。(観察・ワークシート)
7・8	◆3つの不思議について考えたことを、学習したことを生かして「まとめカード」に書いてみよう ★パフォーマンス課題 (ワークシート・口頭説明) ○ルーブリックを提示し、評価の仕方を示す。 ○学習したことを踏まえて、3つの不思議について考えたことを、タブレット (発表ノート) を使ってまとめる。 ○お互いにまとめカードを見ながら交流する。	【知・技】 ・3つの課題について、学習したこと (用語や図) を使って考察したことをまとめている。(作成物) 【思・判・表】 ・学習したことを基に考察し、自分なりの図や絵などを用いて説明している。また、根拠をもった予想したことや、結果に基づいた考察や感想を表現している。(作成物) 【態度】 ・まとめカード1 作成に進んで取り組み、身の回りの事象に興味をもち考えようとしている。(観察・作成物)

6 単元の指導と評価の計画 (全7時間)		
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○)	評価の観点【】 評価規準
1・2	◆空気鉄砲に空気や水をとじ込めて玉を飛ばしてみよう ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 ○空のペットボトルや水の入ったペットボトルを見て、中に何が入っているか考える。 ○空気鉄砲に空気や水を開じ込めて、前玉を飛ばす活動をする。 ○前玉を飛ばして気付いたことを話し合う。 ○予想を確かめるための実験計画を立てる。	【思・判・表】 ・閉じ込めた空気や水に力を加えたときの違いについて見いだした問題に対して、根拠ある予想を考え、表現する。(観察・ノート)
3	◆とじ込めた空気や水に力を加えて、空気と水のちがいを調べよう ○空気や水を開じ込めた空気鉄砲の後玉を押して力を加えたときの、空気や水の押し縮められ方の違いを調べる。 ○調べた結果を整理し、閉じ込めた空気や水に力を加えたときの違いについてまとめる。	【知・技】 ・器具を正しく扱いながら、閉じ込めた空気と水のちがいを確かめ、その結果を分かりやすく記録する。(ノート) 【思・判・表】 ・閉じ込めた空気や水に力を加えたときの違いについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現する。(観察・ノート・発言分析)
4・5	◆とじ込めた空気をおして、体積と手応えを調べよう ○実験で閉じ込めた空気や水に力を加えたときに気付いたことを話し合う。 ○閉じ込めた空気や水を押し縮めていった手応えや体積を空気鉄砲や注射器を使って調べる。 ○とじ込めた空気や水を押し縮めていくと、体積が小さくなり、手応えは大きくなることをまとめる。	【知・技】 ・器具を正しく扱いながら、閉じ込めた空気や水に力を加えたときに体積と手応えを確かめ、その結果を分かりやすく記録する。(ノート) 【思・判・表】 ・閉じ込めた空気や水に力を加えたときの体積や手応えについて見いだした問題に対して、根拠ある予想を考え、表現する。(ノート・観察)
6	◆ペットボトルの中の魚がなぜ沈むかの説明しよう ★パフォーマンス課題 (ノート記入・発表) ○これまで学んだことを使って、魚が沈むことを説明する。	【思・判・表】 ・閉じ込めた空気は押し縮められるが水は押し縮められない違いについて、実験結果を基に考察し、その考えを表現する。(発表・ノート)
7	◆身のまわりの道具で空気の性質がどのように使われているか ○空気入れやエアポットなどが、押し縮められた空気が元に戻る力をどのように利用しているか説明する。 ○これまで学習を振り返って、閉じ込めた空気や水についてまとめる。	【態度】 ・学んだことを身の回りの事例に当てはめて説明しようとする。(発表・ノート)

### III 授業実践（小学校）

教科名	小学校 国語科	学 年	5学年
単元名	世界遺産 白神山地からの提言 一意見文を書こう	児童数	15名
		授業者	大草 恵輔
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書くことができる。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	・積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題に沿って自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
・多様な文章や資料を比べながら読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について着目して、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、どうすれば自分の考えが伝わりやすいのか考える。			
4 パフォーマンス課題（意見文）			
自分の立場を明確にした意見文を書こう			
5 ループリック			
A	・事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表している。 ・正しい引用の仕方が必要な情報を書くことができる。 ・文章を読んで理解したことについて、自分の考えをまとめて書くことができる。		
B	・事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表している。 ・必要な情報を書くことができる。 ・文章を読んで理解したことについて、自分の考えをまとめて書くことができる。		
C	B基準に達していない。		

6 単元の指導と評価の計画（全10時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	○ ハフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。 ★ループリック・パフォーマンス課題の提示 ◆「白神山地」の自然保護が抱えている問題は何か？ ○ 教材文を読み、「白神山地」の自然保護が抱えている問題について捉え、自分の考えをもつ。 ○ 自分の考えを意見文にまとめ、お互いに意見を交流するという学習の見通しをもつ。	【態度】 ・進んで教材文を読み、学習の見通しをもちながら、白神山地の自然保護について考えている。（観察・ノート） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（観察・ノート）
2・3	◆「世界遺産 白神山地」について知ろう ○ 教材文「フナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地が世界遺産になった理由を考える。	【知・技】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（観察・発言） 【思・判・表】 ・「白神山地」について教材文から読んだことを基に世界遺産登録の理由について考え、まとめている。（観察・ノート）
4・5・6	◆「白神山地」の自然保護の課題について考えよう ○ 資料1を読み、「白神山地」の自然保護の状況を捉える。 ○ 世界遺産地域の状況を資料から知る。 ○ 資料2～7までを読み、そこから分かることをまとめ、自然保護の在り方について考える。	【思・判・表】 ・「白神山地」の自然保護について書かれた資料を読み比べ、資料を根拠に自分の考えをまとめている。（観察・ノート）
7・8	◆「白神山地」の自然保護について意見を交流しよう ○ 資料1～7までと、自分が前時までにまとめたノートを読み返し、最終的な自分の立場を決める。 ○ グループに分かれ、意見を伝え合う。 ○ 意見を聞き合ったあと、自分の考えについてまとめる。	【思・判・表】 ・「白神山地」の自然保護について、それぞれの意見を交流し合い、他者の意見と自分の考えを比較しながら考えをまとめている。（観察・ノート）
9・10	◆自分の立場を明確にした意見文を書こう ★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明） ○ 前時までの学習を生かして、意見文を書く。	【思・判・表】 ・白神山地の自然保護について、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを意見文に書いている。（ワークシート・口頭説明）

教科名	小学校 国語科	学 年	2学年
単元名	「クラスお楽しみ会」をひらこう	児童数	20名
		授業者	石川 諒
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿 ④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
・言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ・伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合うこと。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	・積極的に互いの話に関心をもち、今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。	
3 単元で働かせる見方・考え方			
・順序や考えを表す語句に着目して、適切に気を付けて考える。 ・共通や相違を表す言葉に着目して、聞き方や話し方を考える。			
4 パフォーマンス課題（発表【タブレット動画・提出】）			
自分の考えをわかりやすくつたえ合おう			
5 ループリック			
A	お互いの話に関心をもちながら聞き、相手の話に対して、理由を付けて自分の考えをわかりやすく伝えている。		
B	お互いの話に関心をもちながら聞き、相手の話に対して、自分の考えを伝え、話をつなぐことができる。		
C	B基準に満たない。（相手の話と関係付けて、話をつなぐことができていない。）		

6 単元の指導と評価の計画（全8時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	◆「クラスお楽しみ会」を計画しよう ○ 単元の見通しをもつ。 ○ 目的に沿って話し合いを確認する。 ○ 話し合いの例から、自分の考えを分かりやすく伝えることで、話し合いがしやすいことを確認する。 ★パフォーマンス課題の提示	【態度】 ・話し合いの目的について理解し、学習の流れをつかもうとしている。（観察・発表）
2・3	◆わかりやすくつたえるためにひつようなことを考えよう ○ 話し合いに必要なことを確認する。 ○ 考えを分かりやすく伝え合うためのポイントを考える。  《話し合う上で必要なこと》 ・何のために話し合うのか。（目的の設定） ・やりたい遊びとその理由をもっている。（目的に沿っているか、文章の順序はよいか、適切な言葉を選んでいるか） ・司会などの役割分担をする。 《話し合いの仕方》 ・相手の大事なところを落とさないように聞く。 ・自分の考えと相手の考えとが同じかどうか考えながら聞く。 ・反応する。（賛成・反対・意見のつなげ方） ・丁寧な言葉遣いで話す。 ・よく分からないときは質問をする。など	【思・判・表】 ・話し合いの要素について考えている。（ノート・発表） ・分かりやすく伝えるために必要なことを考えている。（ノート・発表） 【態度】 ・話し合いに必要なことについて、これまでの経験を思い出しながら考えようとしている。（ノート・発表） 【知・技】 ・分かりやすく伝え合うためのポイントについて理解することができる。（ノート・発表）
4・5	◆話し合いのじゅんびをしよう ★ループリックの提示 ○ 目的に沿って、「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を考える。 ○ 前時で考えた分かりやすく伝えるために気を付けるポイントを見て、自分の考えが伝わりやすいものになっているか見直す。 ○ 話し合いの流れと役割分担を確認し、グループで話し合う。 ○ やりたい遊びについて質問したり、答えたりする。	【思・判・表】 ・目的に沿って自分の考えをもっている。（ワークシート） ・自分たちで見つけたポイントに気を付けて、グループで話し合っている。（発表・端末録画） 【態度】 ・分かりやすく伝え合うためのポイントに気を付けながら話し合おうとしている。（発表・端末録画）
6・7	★パフォーマンス課題の提示（発表【端末録画・提出】） ◆自分の考えをわかりやすくつたえ合おう ○ グループでの話し合いから、自分の考えを見直す。 ○ より伝わりやすい言い方に直したり、友達のことを受けて自分の考えを変えたりする。 ○ グループでの話し合いの仕方を思い出しながら、クラス全体で話し合う。 ○ やりたい遊びについて質問したり、答えたりする。 ○ 似た遊びや合わせられる遊びを整理する。 ○ クラスでやりたい遊びを決める。	【思・判・表】 ・グループで話したことを基に自分の考えを見直している。 ・自分たちで見つけたポイントに気を付けて、クラスで話し合っている。（発表・端末録画） 【態度】 ・分かりやすく伝え合うためのポイントに気を付けながら話し合おうとしている。（発表・端末録画）
8	◆話し合いをふりかえろう ○ 分かりやすく伝え合うためのポイントに気を付けて話し合いができたか振り返る。 ○ 感想を書く。	【思・判・表】 ・自分がポイントに気を付けて話し合いができたか振り返っている。（ワークシート） ・話し合いを振り返って、自分たちの話し合いのよさを考え、伝え合っている。（ワークシート・発表）



教科名	小学校 算数科		学年	4学年
単元名	どのように変わるか調べよう		児童数	5名
			授業者	大山 陽子
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
・ 伴って変わる二つの数量について、表を用いて調べたり式に表したりできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して二つの数量の変化の特徴について考える力を養い、二つの数量の変化について考察した過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
・ 伴って変わる二つの数量の関係を、表を用いて変化の特徴を調べたり、□や○などを用いて式に表したりすることができる。	・ 伴って変わる二つの数量の関係を着目して、表や式を用いて変化や対応の特徴について考え、説明している。	・ 主体的に問題解決に取り組むとともに、二つの数量の関係を表で調べることのよさや関係を□や○などを用いた式に簡潔に表せることよさを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。		
3 単元で働かせる見方・考え方				
・ 伴って変わる数量の関係を着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する。				
4 パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）				
「1辺が2cmのひし形を図のようにしきつめていきます。10段目までしきつめたとき、まわりの長さは何cmになりますか。」 → 表や式に表して、答えを見つけよう。				
5 ループリック				
A	二つの数量の関係を見付け、表や□や○を用いた式と関連付けて説明している。			
B	二つの数量の関係を、10段目まで全て表を書いて説明している。			
C	B基準に達していない。			

6 単元の指導と評価の計画（全5時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	○ パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示 ◆時計の両面にかかれてはいるはりがさす時こくにはどんな関係があるか調べよう ○ 伴って変わる数量の関係を着目し、関係の特徴（和が一定）について考える。	【知・技】 ・ 伴って変わる二つの数量の関係を、表を用いて調べ、□や○を使って式に表すことができる。（観察・ノート）
2	◆正三角形の数が20このときのまわりの長さの求め方を考えよう ○ 伴って変わる数量の関係を着目し、関係の特徴（差が一定）について考える。	【知・技】 ・ 伴って変わる二つの数量の関係を、表を用いて調べ、□や○を使って式に表すことができる。（観察・ノート） 【思・判・表】 ・ 伴って変わる二つの数量の変化の特徴に着目して、表を縦や横の関係で考え、説明している。（観察・ノート） 【態度】 ・ 表から二つの数量の関係を発見した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。（観察・ノート）
3	◆踏だんが20だんこのときのまわりの長さの求め方を考えよう ○ 伴って変わる数量の関係を着目し、関係の特徴（積が一定）について考える。	【思・判・表】 ・ 伴って変わる二つの数量の変化の特徴に着目して、表を縦や横の関係で考え、説明している。（観察・ノート）
4	◆10段目までしきつめたときのまわりの長さの求め方を考えよう ○ 伴って変わる数量の関係を着目し、関係の特徴を見付けたり、□や○を用いた式に表したりする。 ★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）	【思・判・表】 ・ 伴って変わる二つの数量の変化の特徴に着目して、表を縦や横の関係で考え、説明している。（ワークシート・口頭説明）
5	◆学習のしあげ ○ 学習内容の習熟・定着を図る。 ○ 数学的な見方・考え方の振り返り。 ○ 学習内容の数学への活用。	【知・技】 ・ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。（観察・ノート）

## IV 授業実践（中学校）

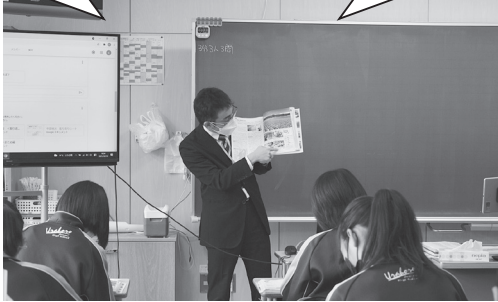

## 1 パフォーマンス単元計画

教科名	中学校 社会科（地理的分野）	学 年	2学年
単元名	第3章 日本の諸地域 4節 中部地方―活発な産業を支える人々の暮らし―	生徒数	34名
		授業者	松林 一彦
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
② 情報を精査して考えを形成しようとする姿 ④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。</li> <li>産業を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。</li> <li>中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方について、その地域的特色や課題を理解している。</li> <li>産業を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方			
産業の成立条件を、地域の広がりや環境要因、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。			

4 パフォーマンス課題（ポスター作成）			
<p>『博覧会』のポスターを作ろう</p> <p>中部地方で産業博覧会が開かれることになりました。博覧会では、中部地方を構成する、東海、中央高地、北陸の三つの地域から、様々な産業が取り上げられて、展示される予定です。そこで、三つの地域が誇る、その地域らしい産業から、具体的な事例を1つずつ選ぶことになりました。最も地域らしさや誇りを感じる産業を紹介するポスターを作成しましょう。</p>			
5 ルーブリック			
中部地方の産業が発達している理由をこれまでの学習を活用して、なぜ産業が成立したかを自然環境、交通・通信、歴史的背景などの視点を挙げ、			
A	結び付きや影響について考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。		
B	考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。		
C	B基準に達していない。		

6 単元の指導と評価の計画（全6時間）		
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	<p>1 中部地方をながめて</p> <p>◆中部地方を大きくながめると、どのような特色が見られるだろうか？</p> <p>○ 中部地方の地形や気候の特徴を雨温図や地図などから読み取る。</p> <p>1 <b>単元を通した課題</b> 《なぜ中部地方では、各地に個性豊かな産業が発達しているのだろうか？》</p> <p>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</p> <p>○ パフォーマンス課題とループリックを確認し、単元を見通す。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三つに分かれる地域の地形や気候、日本最大の工業生産額とその他の特色ある産業、東海地方に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。（観察・ワークシート）</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業を中核とした考察の仕方に基づいて設定した単元を通した課題を確認し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。（観察・ワークシート）</li> </ul>
2	<p>2 特色ある東海の産業</p> <p>◆東海で発展している産業にはどのような特色が見られるだろうか？</p> <p>○ 東海地方の特色を、地図やグラフ、写真等の資料を活用して捉え、説明する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東海の農業の特色を、自然の特色や交通の発達などを示す資料と関連付けて読み取っている。（観察・ワークシート）</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東海の工業の特色について、交通網や貿易などの社会的条件と関連付けて多面的・多角的に捉え、国際化への対応についても考察している。（観察・ワークシート）</li> </ul>
3	<p>3 特色ある中央高地の産業</p> <p>◆中央高地で発展している産業には、どのような特色が見られるだろうか？</p> <p>○ 中央高地の特色を、地図やグラフ、写真等の資料を活用して捉え、説明する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央高地の農業や工業の特色を、自然の特色や交通の発達、戦争の関連などを示す資料と関連付けて読み取っている。（観察・ワークシート）</li> <li>宿場町や合掌造り集落を活用して、観光業を盛んに行っていることを理解している。（観察・ワークシート）</li> </ul>
4	<p>4 特色ある北陸の産業</p> <p>◆北陸で発展している産業には、どのような特色が見られるだろうか？</p> <p>○ 北陸地方の特色を、地図やグラフ、写真等の資料を活用して捉え、説明する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸の農業や工業の特色を、豊富な雪解け水などを示す資料と関連付けて読み取っている。（観察・ワークシート）</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸の伝統産業や地場産業が発展した理由について、冬に雪が多い気候の特色と関連付けて考察し、その過程や結果を表現している。（観察・ワークシート）</li> </ul>
5	<p>5 「博覧会」のポスターを作成しよう</p> <p>◆「博覧会」のポスターを作ろう</p> <p>★パフォーマンス課題（ポスター作成）</p> <p>○ 三つの地域それぞれを代表する産業を紹介するポスターを作成する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業を中核とする考察の仕方を基に学んできた中部地方の地域的特色や、そこで生ずる課題を表にまとめて振り返り、理解している。（ポスター）</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方の個性豊かな産業が発達している理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして「博覧会のポスター」の形で具体的に表現している。（ポスター、口頭説明）</li> </ul>
6	<p>6 ポスターセッションをし、中部地方をまとめよう</p> <p>◆ポスターセッションを行い、中部地方の単元を通した課題のまとめをしよう</p> <p>★パフォーマンス課題（ポスター作成）</p> <p>○ 作成したポスターを交流する。 ○ アドバイスを基に、練り直す。 ○ 完成したものを提出する。</p>	<p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。（観察・ワークシート）</li> </ul>

## 2 授業記録

7 細案 授業実践（1/6時）							
本時の目標	評価規準						
中部地方を大きくながめると、どのような特色が見られるのかを理解する。	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三つに分かれる地域の地形や気候、日本最大の工業生産額とその他の特色ある産業、東海地方に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。（観察・ワークシート）</li> </ul> <p><b>【態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業を中核とした考察の仕方に基づいて設定した単元を通した課題を確認し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。（観察・ワークシート）</li> </ul>						
<p>具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）</p>	教師の手立て						
<p>見通す（本時）</p> <p>○ 4節の最初のページを見ながら、中部地方の特色について触れる。</p> <p>中部地方はどんなことやっていますか？</p> <p>他にも塗り物という伝統工芸があるんだね。</p> <p>レタス畑</p> <p>黒部ダム</p> <p>白川郷</p> <p>トヨタ！</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方の農産物や工業製品について、既習事項を想起させて学習内容を思い出させる。</li> </ul>						
<p>◆ 中部地方を大きくながめると、どのような特色が見られるだろうか</p> <p>○ 中部地方の区分け（東海・中央高地・北陸）、自然環境、特色ある産業について学習する。</p> <p>探究する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>静岡</th> <th>長野</th> <th>福井</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>                     気温℃                      年平均気温 16.9℃                      降水量 mm                      年降水量 2327.3 mm                 </td> <td>                     気温℃                      年平均気温 12.3℃                      降水量 mm                      年降水量 965.1 mm                 </td> <td>                     気温℃                      年平均気温 14.8℃                      降水量 mm                      年降水量 2299.6 mm                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>東海は温暖で降水量が多いから農業が盛んなのではないか。</p> <p>新潟県はお米が有名だ。</p> <p>中央高地は標高が高く、夏も涼しいから果物の生産ができるんだな。</p> <p>トヨタ自動車は愛知県豊田市にある。</p> <p>北陸は日本海から吹き込む湿気を含んだ冷たい季節風の影響で、冬に雪が多いから、冬に農業はできないな。</p> 	静岡	長野	福井	気温℃ 年平均気温 16.9℃ 降水量 mm 年降水量 2327.3 mm	気温℃ 年平均気温 12.3℃ 降水量 mm 年降水量 965.1 mm	気温℃ 年平均気温 14.8℃ 降水量 mm 年降水量 2299.6 mm	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートから中部地方の自然環境の特色について、雨温図を中心に読み取れるようにする。</li> </ul> <p><b>見方・考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方の自然環境の特色を、水や雪との関わりに着目し、このような自然環境の中でどのような産業が発達するのかを考える。</li> </ul>
静岡	長野	福井					
気温℃ 年平均気温 16.9℃ 降水量 mm 年降水量 2327.3 mm	気温℃ 年平均気温 12.3℃ 降水量 mm 年降水量 965.1 mm	気温℃ 年平均気温 14.8℃ 降水量 mm 年降水量 2299.6 mm					



○ 単元を通した課題を確認する。

◆ なぜ中部地方では、各地に個性豊かな産業が発達しているのだろうか

○ パフォーマンス課題とルーブリックについて知る。

【パフォーマンス課題】『博覧会』のポスターを作ろう

中部地方で産業博覧会が開かれることになりました。博覧会では、中部地方を構成する、東海、中央高地、北陸の三つの地域から、様々な産業が取り上げられて、展示される予定です。そこで、三つの地域が誇る、その地域らしい産業から、具体的な事例を1つずつ選ぶことになりました。最も地域らしさや誇りを感じる産業を紹介するポスターを作成しましょう。

- ・パフォーマンス課題とルーブリックを提示し、その概要を説明する。
- ・パフォーマンス課題とルーブリックを活用し、これから学習することや、単元の終わりにはどのような力を身に付けていくか、学習に対する見通しをもつ。

ルーブリック

中部地方の産業が発達している理由をこれまでの学習を活用して、なぜ産業が成立したかを自然環境、交通・通信、歴史的背景などの視点を挙げ、

A	結び付きや影響について考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。
B	考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。
C	B基準に達していない。

産業と自然環境などの結び付きとは、どういうことだろう？



どんな感じのポスターを作るのかな？

○ 浦幌町を例に考える。

- ・浦幌町のハマナス、うらほろ森林公園、浦幌木炭から1つ選び、Google スライドで紹介する文章を作成する。

- ・視点を挙げて考察するだけでなく、結び付きや影響についても考えられるよう、ルーブリックを活用しながら助言する。



農業との結び付きが書かれているね。



そこが、A評価とB評価の違いなんだな。

○ 本時の学習をシートに振り返る。

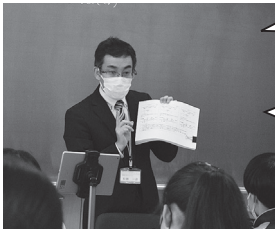



- ・パフォーマンス課題とルーブリックを意識しながら今後の学習を進めていく。

三つの地域のうち、どこについて作成するかは、実際に作成する日まで分からない。どの地域になっても大丈夫のように学習していこう。

見通す  
(単元)

振り返る

7 細案 授業実践（6／6時）										
本時の目標	評価規準									
ポスターセッションを行い、中部地方の単元を通じた課題のまとめをする。	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業を中核とする考察の仕方を基に学んできた中部地方の地域的特色やそこで生ずる課題を表にまとめて振り返り、理解している。（ポスター）</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方の個性豊かな産業が発達している理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして「博覧会のポスターデザイン」の形で具体的に表現している。（ポスター、口頭説明）</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。（観察、ワークシート）</li> </ul>									
<p>具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）</p>	教師の手立て									
<p>※ 前時に、ポスターの作成を終えている。</p> <p>○ 課題を確認する。</p> <p style="text-align: center;">◆ ポスターセッションを行い、中部地方の単元を通じた課題のまとめをしよう</p> <p>○ <u>ポスターセッションとループリックについて確認する。</u> ・他者の評価を自分のポスターに生かすための取組でもあることを伝える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  <p>自分のポスターがよりよいものになるために、何が必要かな。</p> <p>内容が、いろいろなこととどれだけ結び付いているか、考える時間にしましょう。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p><b>見方・考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業の成立条件を、地域の広がりや環境要因、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。</li> </ul> </div> </div> <p>〔手順〕</p> <p>① 友達のポスターを確認する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>中央高地の観光農園</b></p> <p>中央高地にある甲府盆地や長野盆地の中部には低地が広がり、水田地帯が広がっている。そして中央高地は、ぶどうなどの果樹栽培が盛んである。ぶどう狩りなどを行う観光農園も見られる。山梨県では、明治からぶどうを使ったワインの生産を行っている。</p>  </div> <p>② ループリックと照らし合わせる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">ループリック</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">中部地方の産業が発達している理由をこれまでの学習を活用して、なぜ産業が成立したかを<u>自然環境、交通・通信、歴史的背景などの視点を挙げ</u>、</td> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>結び付きや影響について考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>B基準に達していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 評価用紙を記入し、友達へ渡す。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center;">さんへ（より）</p> <p>（担当した地方）に○を付けましょう 東海 ・ 中央高地 ・ 北陸</p> <p>ループリック評価は？ A ・ B ・ C</p> <p>&lt;その理由は？&gt; 書かれていると判断できる視点に○をつけましょう。</p> <p>自然環境 ・ 交通 ・ 通信 ・ 観光 歴史的経緯 ・ 結びつき</p> <p>その他（発見したものがあれば記入しよう） &lt; 例：金融 &gt;・（ ） &lt; &gt;・（ ）</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>← 地方を確認する。</p> <p>← 評価をする。</p> <p>← 評価の理由を確認する。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>ループリックを参考に、産業成立条件の視点を確認し、結び付きや影響について考察しているかどうかを評価する。</p> </div>	ループリック		中部地方の産業が発達している理由をこれまでの学習を活用して、なぜ産業が成立したかを <u>自然環境、交通・通信、歴史的背景などの視点を挙げ</u> 、		A	結び付きや影響について考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。	B	考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。	C	B基準に達していない。
ループリック										
中部地方の産業が発達している理由をこれまでの学習を活用して、なぜ産業が成立したかを <u>自然環境、交通・通信、歴史的背景などの視点を挙げ</u> 、										
A	結び付きや影響について考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。									
B	考察し、「博覧会のポスターデザイン案」の形で具体的に表現している。									
C	B基準に達していない。									

見通す



○ ポスターセッション①（三地域の異なるメンバー）

- ・自分のポスターを説明したり、友達のポスターを評価したりする。

気候の特徴と産業が成立した歴史が関係していることが書いてある。こんな風には書けばいいのかな。



中央高地で果物の生産が盛んなのは、地形だけじゃなく、交通も関係していたんだ！

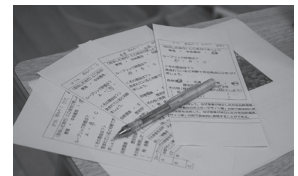
○ ポスターセッション②

- ・友達のポスターを評価する。

視点がたくさん書かれているけど、結び付きが書かれていないから、B評価だな。



自分の選んだ産業ができた理由にも当てはまるな。



○ ポスターを修正する。

- ・友達からの評価を基に、ポスターを練り直し、完成させる。



交通との結び付きを加えたらいいんだな。

他地域との結び付きについて触れていなかったの、高速道路を調べてみよう。



○ 単元を通した課題を振り返る。

- ・ポスターで担当した地域以外の地域についてもまとめるよう伝える。

◆ なぜ中部地方では、各地に個性豊かな産業が発達しているのだろうか



中部地方は、日本列島の中央に位置し、東海・北陸・中央高地の三つに分けられる。…中央高地では、扇状地が広がり水はけのよさを生かし果樹栽培が盛んで、高速道路の整備により観光農園も行われている。また、高原野菜の栽培も…



○ 振り返りを交流する。

○ 次時の確認をする。

探究する

振り返る

### 3 研究内容の検証

#### (1) 子どもの見取り・聞き取り

##### ① 授業実践1

###### ○ 授業中の様子より

今回の単元でのまとめ方と評価基準について知ることで、見通しをもつことができたようだった。実際に、浦幌町を例に課題に取り組んだことで、どのようなものを作成するかのイメージを具体的にすることができた。また、ルブリックA評価とB評価の違いについても知る事ができた。



###### ○ インタビューより

これから、どんな学習をするのですか。

これから、どのように学習していけばいいですか。



中部地方の気候の特徴、地域の産業を学習します。

ルブリックが提示されたので、産業と自然環境などの結び付きを意識して学習していきたいです。

##### ② 授業実践2

###### ○ 授業中の様子より

ポスターセッションを通して、相互評価するだけでなく、練り直しする際の基準を再確認することができていた。

また、友達と自分のポスターを比較したり、評価シートを確認したりしながら、情報を精査して考えを形成しようとする姿が更に見られた。



###### ○ インタビューより

パフォーマンス課題はうまくできましたか。

ルブリックを友達の評価に生かすことができましたか。



パフォーマンス課題に取り組むまでの授業で、パフォーマンス課題について意識することができました。調べたり、学習したりしたことを生かして、ポスターを作成することができました。

AかBで迷うことがありました。

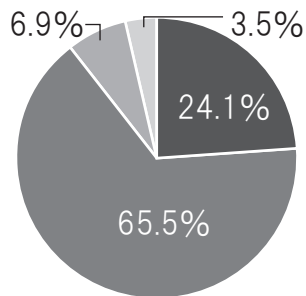
パフォーマンス課題とルブリックを単元の1時間目に提示したことで、課題と評価の内容を理解し単元の見通しをもつことができただけでなく、単元の途中においても課題と評価のことを意識できていたことが分かる。単元全体を通して、情報を精査して考えを形成しようとする「深い学び」に向かう子どもの姿につなげていくことができたと考えられる。



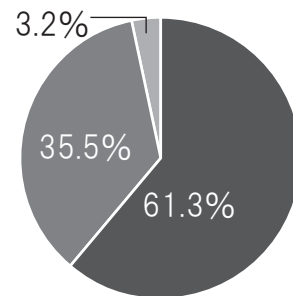
## (2) 授業実践前後のアンケート結果から

社会科の学習では、課題を解決するために、自分で考えることができた。

【授業実践前】



【授業実践後】

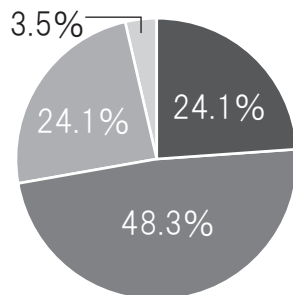


- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

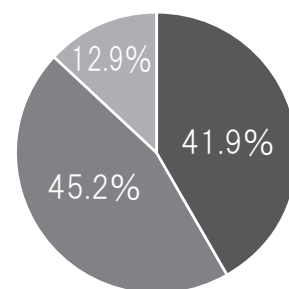
アンケートの結果から、実践前に比べ「そう思う」という回答した子どもが大幅に増えている。このことから、パフォーマンス課題とルーブリックを提示することで、主体的に学習に取り組む姿とともに、深い学びに向かう子どもの姿につながっていたのではないかと考察できる。

社会科の学習では、学習の途中や終わりに、今までに自分ができるようになったことを、確かめることができていた。

【授業実践前】

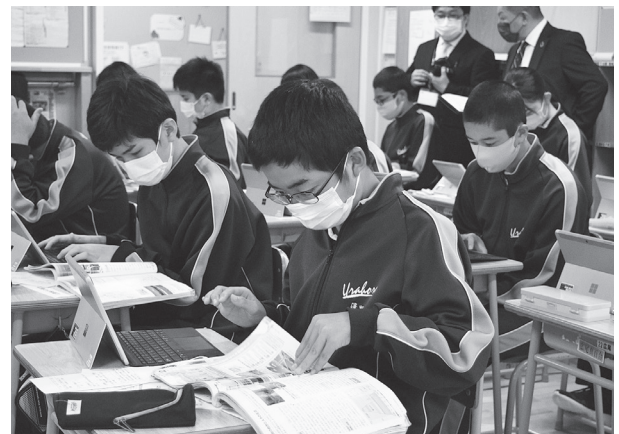


【授業実践後】



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

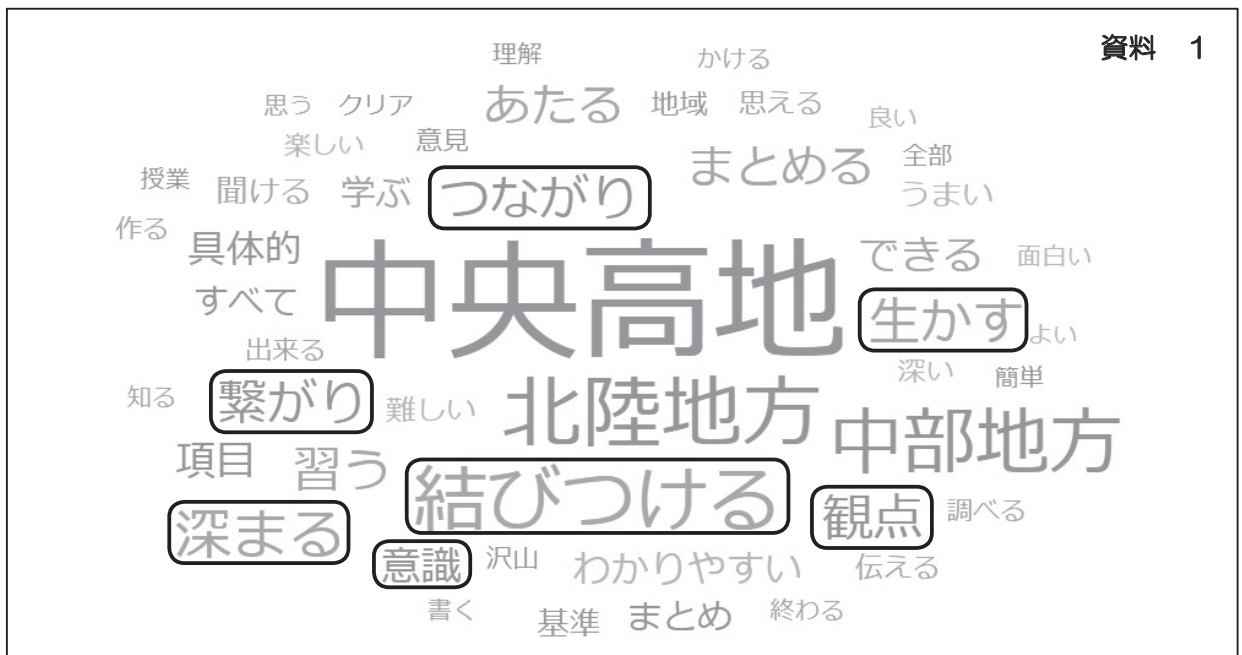
アンケートの結果から、実践前に比べ「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答した子どもが増え、約90%に達している。このことから、ルーブリックを提示したことにより、単元のどの過程においても現状を把握することができ、自己の学びを振り返ることに活用しようとしていたことが分かる。また、現状を把握しながら、問題を見いだして解決策を考えようとするなど深い学びに向かう子どもの姿につながっていたのではないかと考察できる。



## (3) 単元を振り返っての感想

- まとめを作ることによって理解が深まって、中部地方のことをもっと知りたいと思えた。
- 評価の基準が分かりやすく、よかった。
- 地域のつながりを意識して、まとめられました。
- 自分としては、うまくまとめることができました。
- 自分の当たった北陸地方を授業の他にもっと深く調べることができて、とても楽しかった。
- 全ての観点をクリアできるように作ることができた。
- 習ったことを全て生かしてうまくできた！
- 難しかったけど、つながりなどを意識して楽しくできた。

テキストマイニングを用いて、感想を分析した。



- 資料1はアンケートの感想から、出現頻度の高い言葉を大きく表示したものである。今回の単元内容である中央高地など三つの地域の次に、「結びつける」「深まる」「生かす」という言葉の出現頻度が高いことが分かる。また、「つながり（繋がりを含む）」「観点」「意識」なども大きく見られる。

子どもたちの「中部地方」の理解が、パフォーマンス課題への取組を通して、学習した内容のつながりを考えたり、生かしたりすることで、深まっていったことがうかがえる。また、ループリックを活用し、観点や評価基準を意識しながら、学習課題を把握し深めることにつながったと捉えることができる。

#### テキストマイニングとは

文字列を対象としたデータマイニングのことである。通常の記事からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法である。



User Local AIテキストマイニング



## 4 共同研究員によるパフォーマンス単元計画例

### (1) パフォーマンス単元計画について

パフォーマンス単元計画例（中学校）は十勝教育研究所のホームページ（<https://www.tokyoken.net>）からダウンロードすることができます。



ループリックについては、授業実践を踏まえて、子どもにとって分かりやすいように記述することとしました。

研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名等	ページ
更別村教育研究所	森田 明宏	2年	数学科	平行と合同（1節・2節）	P36
幕別町教育研究所	東 拓	2年	国語科	短歌の味わい	P37
池田町教育研究所	村上 真輔	3年	外国語科	Project 2 英語で卒業スピーチをしよう	P37
豊頃町教育研究所	辻 真里奈	2年	音楽科	曲想を味わい、表現を工夫しよう	P38
足寄町生涯学習研究所	井元 延明	2年	数学科	平行と合同（1節・2節）	P38

教科名	数 学		学 年	2 学年
単元名	平行と合同（1節・2節）		生徒数	14名
			授業者	森田 明宏
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿				
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な平面図形の性質について、数学的活動を通し、平行線や角の性質を理解すること、多角形の角についての性質を理解できるとともに、数学的な表現を適切に活用して、基本的な平面図形の性質を見いだしたり、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明したりしながら、今後の生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な平面図形の性質を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形の基本的な性質を見いだすなど数学的な活動を通して、数学のよさを実感し、粘り強く考え、今後の生活や学習に活用しようとしている。</li> </ul>		
3 単元で働かせる見方・考え方				
<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形の性質や平行線や角の性質に着目して捉え、論理的、発展的に考える。</li> </ul>				
4 パフォーマンス課題（ワークシート・説明）				
複雑な形をした図形の角の和を求め、その求め方を説明しよう。				
5 ループリック				
A	平面図形の性質や平行線や角の性質を利用するために補助線を活用し、角の和を3種類以上の方法で求めることができ、それを説明している。			
B	平面図形の性質や平行線や角の性質を利用するために補助線を活用し、角の和を求めることができ、それを説明している。			
C	B基準に達していない。			

6 単元の指導と評価の計画（第1節 説明のしくみ・第2節 平行線と角のみ 9時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	<b>★パフォーマンス課題・ループリックの提示</b> ◆多角形の角の和を様々な方法で求めよう ○ 四角形、五角形、六角形、七角形の角の和を求める方法を考える。	【知・技】 ・三角形の内角の和が180°であることを基にして見いだすことができる。（ワークシート） 【態度】 ・三角形の内角の和が180°であることを基にして、多角形の角の和の求め方を主体的に追究しようとしている。（観察）
2	<b>◆多角形の角の和の求め方を説明してみよう</b> ○ 多角形の角の和の求め方を説明する。 ○ 公式「 $n$ 角形の角の和 $180^\circ \times (n - 2)$ 」	【知・技】 ・多角形の角の和の求め方を主体的に説明できる。（観察）
3	<b>◆多角形の外角の和の求め方を説明してみよう</b> ○ 五角形の外角の和を基に、四角形と六角形の外角の和を求める。 ○ 多角形の外角の和は360°。	【思・判・表】 ・多角形の外角の和の性質を、内角の和を基にして説明できる。（ワークシート）
4	<b>◆2直線が交わってできる角について調べよう</b> ○ 対頂角の性質を調べよう。 ○ 対頂角は等しい。	【態度】 ・操作や観察を通して、対頂角の意味や性質を主体的に追究しようとしている。（観察）
5	<b>◆2直線に1直線が交わってできる角について調べよう</b> ○ 同位角、錯角を定義する。 ○ 2直線が平行ならば同位角または錯角は等しくなる。 ○ 同位角または錯角が等しいなら2直線は平行である。	【知・技】 ・平行線の性質を理解している。（ワークシート）
6	<b>◆平行線の性質をもとに、三角形の角の性質を説明しよう</b> ○ 三角形の内角の和は180°になることを証明する。 ○ 三角形の外角はそれと隣り合わない2つの内角の和に等しいことを導き出す。	【思・判・表】 ・三角形の角の性質を見いだし、補助線を引くことで平行線の性質を基にして、説明できる。（ワークシート）
7 8	<b>◆複雑な形をした図形の角の和を求めよう</b> ★1 次の図で、 $AB \parallel CD$ のとき、 $\angle x$ の大きさを3種類以上の方法で求め、その求め方を説明せよ。（ワークシート・口頭説明） 	【知・技】 ・補助線をどのように引くかを理解している。（ワークシート） 【思・判・表】 ・性質を見いだし、補助線を活用し、平行線の性質や多角形の角・外角の性質を基にして、説明することができる。（ワークシート・説明） 【態度】 ・より多くの方法を考えようと主体的に追究しようとしている。（観察）
9	<b>◆複雑な形をした図形の角の和を求めよう</b> ★パフォーマンス課題（ワークシート・説明） ○ 次の図で、印を付けた角の和を3種類以上の方法で求め、その求め方を説明せよ。 	【知・技】 ・補助線をどのように引くかを理解している。（ワークシート） 【思・判・表】 ・性質を見いだし、補助線を活用し、平行線の性質や多角形の角・外角の性質を基にして、説明することができる。（ワークシート・説明） 【態度】 ・より多くの方法を考えようと主体的に追究しようとしている。（観察）



教科名	中学校 国語科		学 年	2 学年
単元名	短歌の味わい		生徒数	36名
			授業者	東 拓
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
・情景や心情を掘り起こし、声に出して短歌を読んで、短歌を創作する。				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。	・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	・進んで内容を味わい、これまでの学習を生かして短歌を創作しようとしている。		
・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。				
3 単元で働かせる見方・考え方				
・教科書の短歌に使われている「五感描写」「体言止め」「対比」などの表現技法や、「切れ字」による効果、意外な言葉同士の組合せから生まれる新たな表現の可能性などに着目し、学習したことを駆使して、五句三十一音で表現し、自他の作品のその是非、優劣、効果などについて考える。				
4 パフォーマンス課題（発表・説明）				
「自分の感動を三十一音で表現しよう」 学校、友達、自然、家族などのテーマから、自分を見つめ、その気付きや感動を、短歌の形式の「五句三十一音」で表現してみよう。				
5 ループリック				
A	掘り起こした自分の感動や気付きを、「句切れ」「体言止め」「五感描写」「対比」などの表現技法や、意外な言葉の組合せなどを取り入れながら表現している。			
B	掘り起こした自分の感動や気付きを、「句切れ」「体言止め」「五感描写」「対比」などの表現技法のうち最低一つまたは、意外な言葉の組合せを取り入れながら表現している。			
C	自分の感動や気付きを掘り起こせていないか、掘り起こせてもその感動や気付きを、表現技法や新たな言葉の組合せを使って表現できていない。			

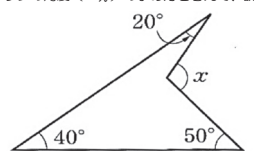
教科名	中学校 外国語科		学 年	3 学年
単元名	Project 2 英語で卒業スピーチをしよう		生徒数	42名
			授業者	村上 真輔
1 「深い学び」に向かう子どもの姿				
② 情報を精査して考えを形成しようとする姿				
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿				
2 単元の目標と観点別評価規準				
・相手に自分のことをより理解してもらうために、自分が伝えたいことを整理し、中学生生活をテーマにしたまとまりのあるスピーチをすることができる。				
思考・判断・表現	主体的に取り組む態度			
・相手に自分のことをより理解してもらえるために、自分が中学校生活で最も伝えたいことについて、事実や心情を整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話している。 【話すこと（発表）】	・相手に自分のことをより理解してもらえるために、自分が中学校生活で最も伝えたいことについて、事実や心情を整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話そうとしている。 【話すこと（発表）】			
3 単元で働かせる見方・考え方				
・聞き手を意識して、過去の出来事や、自分の考えを整理して、簡単な語句や文を用いた、表現の仕方を考えることやまとまりのある発表を考える。				
4 パフォーマンス課題（発表・説明）				
「英語で卒業スピーチをしよう！」  英語で卒業スピーチをするプロジェクトです。中学校生活の思い出を振り返り、「My…」から始まるテーマを考え、1分間のスピーチを行いましょ。				
5 ループリック				
条件1：聞き手にとって分かりやすい構成になっている。 条件2：聞き手にとって新しい情報が含まれている。 条件3：聞き手に分かる語句を使っている。 条件4：まとまりのある内容になっている。				
A	4つの条件を満たして、自分の考えや感情を詳しく述べ発表している。			
B	4つの条件を満たして発表している。			
C	B基準に達していない。			

6 単元の指導と評価の計画（全4時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	◆短歌の形式を知り、適切な言葉を考えよう ○ 短歌の形式を知る。 ○ 「句切れ」とその効果について学ぶ。 ○ 教科書の短歌のうち三首について穴埋めになっている言葉を考え、交流する。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示	【知・技】 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。 (ワークシート)
2	◆選んだ二首について想像しよう ○ 短歌における「五感描写」や「対比」「体言止め」などと、またその効果を確認する。 ○ 教科書の十首の短歌のうち、印象に残っているものについて、その作者の置かれている状況や物語を想像し、執筆する。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 (観察・ワークシート)  【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 (ワークシート)
3	◆自分の感動や気付きを短歌にしよう ★パフォーマンス課題（発表・説明） ○ 「少しだけ変えてみる」を読み、言葉の効果について考える。 ○ 学校、友達、家族、自然などのテーマで、自分の感動や気付きを思い出し、短歌にする。 ○ 今まで学習した技法を自分の作品に取り入れて使ってみよう。  《これまでの学習》 「句切れ」で一度切ることによって、自分の感情と情景の二面から表現することができ、重層的な作品になる。与謝野晶子の作品のように、強烈な視覚描写を前面に押し出した「五感描写」や、石川啄木の「体言止め」で余韻を残すのもよい。穂村弘のように「対句的表現」を4つ重ねるのも面白い。また、「ナイフ」と「レモン」、「フル」と「星」という一見意外な取合せが新しい表現を生かしている。	【思・判・表】 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 (発表・説明)  【態度】 ・これまでの学習を生かして短歌を創作しようとしている。 (発表)
4	◆つくった短歌をお互いに交流しよう ○ 仲間の作品を読み、コメントし合う。	【思・判・表】 ・仲間の作品を読んで、表現の効果などを確かめながら、内容を解釈している。 (観察・ワークシート)  【態度】 ・これまでの学習を生かして、自他の作品の効果などについて考えようとしている。 (観察・ワークシート)

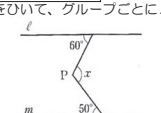
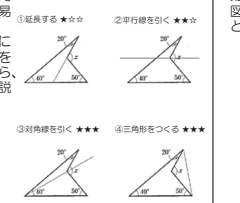
6 単元の指導と評価の計画（全6時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	◆卒業スピーチのイメージをもとう ○ さやかかスピーチを聞いて、内容を捉える。 ★パフォーマンス課題・ループリックの提示	【態度】 ・卒業スピーチについてのイメージをもち、今後の学習の見通しをもち、取り組もうとしている。 (観察・振り返りシート)
2	◆さやかかスピーチを参考にしながら、マッピングを使って、原稿作成の準備をしよう ○ テーマの別として、「My Good Friends」、「My Dream」などの別を参考にする。 ○ マッピングを使って、原稿の準備をする。	【思・判・表】 ・マッピングに書き込みながら、テーマに沿ったエピソードを膨らませるが整理している。 (観察・ワークシート)
3	◆原稿を作成しよう①・②	【思・判・表】 ・既習事項を基に、分かりやすい語句を使って原稿を考えている。 (観察・ワークシート)
4	○ ループリックと照らし合わせながら、マッピングを基に原稿を作成する。 ○ 発表内容には、自分しか知らないことや自分がどう感じたのかなど、聞き手にとって新しい情報を加える。	【態度】 ・聞き手に伝わりやすい原稿を作成しようと粘り強く取り組んでいる。 (観察・振り返りシート)
5	◆リハーサルをして、原稿の訂正をしよう ○ グループで発表し、スピーチの内容や原稿にアドバイスをし合い、必要があれば自分の原稿を訂正する。	【思・判・表】 ・聞き手を意識して、分かりやすい発表をしている。 (発表・ワークシート)  【態度】 ・発表をよく聞き、よりよい発表にできるようお互いに助け合おうとしている。 (観察・振り返りシート)
6	★パフォーマンス課題（発表・説明） ◆卒業スピーチをしよう ○ 6名のグループで行う。聞き手の5名は発表を評価して、一言ずつ感想を述べる。	【思・判・表】 ※ ループリック参照

IV 授業実践（中学校）

教科名	中学校 音楽科（歌唱）	学 年	2 学年
単元名	曲想を味わい、表現を工夫しよう	生徒数	26名
		授業者	注 真里奈
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ④ 思いや考えを基に創造しようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。</li> <li>・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。</li> <li>・歌唱表現に関わる曲想と音楽の構造の知識、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせる技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</li> <li>・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについて理解している。</li> <li>・創意工夫を生かし、他の声部の声や伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱表現に関わる知識（曲想、旋律のまとまり、音楽の構造との関わり）や技能（他の声部の声、伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌う）を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、旋律の決まりや音楽の構造とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情と関連付けて考える。</li> </ul>			
4 パフォーマンス課題（表現の説明・説明）			
<p>「表現を工夫して歌おう」 「ほらね、」は卒業式の在校生合唱で卒業生に向けて歌う曲です。これまでも世話になった卒業生に対してのような思いを伝えたいか、どのような表現の工夫をしたらよいか考えてみよう。工夫した表現を、説明してから実際に歌ってグループごとにパート内で発表し合います。</p>			
5 ルーブリック			
A	卒業生に対して伝えたい思いを、曲想と音楽の構造との関わりを意識し、伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌い、曲によりふさわしい歌唱表現を創意工夫している。		
B	卒業生に対して伝えたい思いを、曲想と音楽の構造との関わりを意識し、伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌い、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。		
C	B基準に達していない。		

教科名	中学校 数学科	学 年	2 学年
単元名	平行と合同（1 節・2 節）	生徒数	29名
		授業者	井元 証明
1 「深い学び」に向かう子どもの姿			
① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿 ③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿			
2 単元の目標と観点別評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ説明することができる。</li> <li>・平行線の性質や三角形の角についての性質を基にして、多角形の角についての性質を見いだせることを知る。</li> </ul>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対頂角、同位角、錯角の意味を理解している。</li> <li>・平行線や角の性質を理解している。</li> <li>・内角、外角の意味を理解している。</li> <li>・多角形の角についての性質を見いだせることを知っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形の性質を考えようとしている。</li> <li>・平面図形の性質について、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> </ul>	
3 単元で働かせる見方・考え方			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行線や角の性質などの根拠を基に筋道を立てて考え、論理的に推論する。</li> </ul>			
4 パフォーマンス課題（ワークシート・説明）			
<p>ブームランの角度（<math>\angle x</math>）の求め方を考えて、説明しよう。</p>  <p>補助線の引き方により、難易度★☆☆～★★★★がある</p>			
5 ルーブリック			
A	ブームランの角度の求め方について、自分で選択した補助線に加えて、指定された補助線の図（難易度★★★）においても、根拠となる図形の性質を明らかにしながら、口頭にて説明している。		
B	ブームランの角度の求め方について、自分で選択した補助線を利用し、根拠となる図形の性質を明らかにしながら、口頭にて説明している。		
C	Bの基準に達していない。		

6 単元の指導と評価の計画（全5時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆卒業式に歌う歌について知ろう</li> <li>○ 曲想と歌詞の内容について理解する。</li> <li>○ 各パートごと音程の確認をする。</li> <li>○ パート内でグループを決める。</li> </ul> <p>★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示</p>	【知・技】 ・曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについて理解している。（歌唱・観察）
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆どのように歌いたいと考え、表現を工夫しよう</li> <li>○ 卒業生にどんな思いを込めて、在校生合唱を歌いたいか考える。</li> <li>○ そのために必要な「表現の工夫」をパート内で考える。</li> <li>○ 各グループに分かれ、選択した表現を練習する。授業の最後に演奏している動画を iPad で撮影する。</li> </ul>	【思・判・表】 ・歌唱表現に関わる知識（曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わり）や技能（他の声部の声や伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌う）を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。（観察・動画） 【態度】 ・曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。 ・自分の演奏を見て振り返り、他者からの助言を参考にしたりしながら、身に付けようとして取り組んでいる。（観察）
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆百分達の演奏をタブレットで見てみよう</li> <li>○ iPad で動画を確認し、工夫した表現ができているか確認する。</li> <li>○ 他のグループを見て表現の工夫を交流し、アドバイスし合う。</li> </ul>	【思・判・表】 ・「ほらね、」の曲想と音楽の構造を感じ取り、どのように歌いたいか思いや意図をもっている。（ワークシート） 【態度】 ・「ほらね、」の歌詞が表す情景や心情に関心をもちている。 ・表現を考える活動で、曲にあった表現をしようと積極的に取り組んでいる。（観察・ワークシート）
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「表現を工夫して歌おう」</li> <li>★パフォーマンス課題（表現の説明・発表）</li> <li>○ パート内でグループの発表を聴き、できそつな表現をワークシートに記入する。</li> </ul>	【思・判・表】 ・曲想と音楽の構造との関わりや伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌いながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。（説明・発表） 【態度】 ・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。（観察）
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆工夫した表現を生かしてパートで歌ってみよう</li> <li>○ 前時で確認した表現工夫を生かしながらパートで歌唱する。全体で発表し合う。</li> </ul>	【知・技】 ・創意工夫を生かし、他の声部の声や伴奏などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。（歌唱）

6 単元の指導と評価の計画（第1 節 説明のしくみ・第2 節 平行線と角のみ 8 時間）		
時間	学習課題（◆）主な学習活動（○）	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。</li> <li>★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示</li> <li>◆四角形・五角形・六角形・七角形の内角の和を考えよう</li> <li>○ 対頂角を引いて、三角形の数から内角の和を求めよう</li> <li>○ 求めた内角の和から <math>n</math> 角形の内角の和の求め方を考える。</li> </ul>	【態度】 ・対角線を引いて、三角形の数から内角の和を考えようとしている。（観察・ノート）
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆四角形・六角形の外角の和を説明しよう</li> <li>○ 四角形が六角形の外角の和を内角の和を基にして求める。</li> </ul>	【思・判・表】 ・四角形、または六角形の外角の和の説明を書くことができる。（観察・ノート）
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆対頂角・同位角・錯角などの意味と性質を理解しよう</li> <li>○ 対頂角の意味と性質を理解する。</li> <li>○ 同位角・錯角の意味を理解する。</li> <li>○ 内角・外角・対頂角に関する演習問題を解く。</li> </ul>	【知・技】 ・対頂角・同位角・錯角の意味や性質を理解している。（観察・ノート）
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平行線のときの性質について考えよう</li> <li>○ 平行線と同位角・錯角の関係を理解する。</li> <li>○ 平行線に関する演習問題を解く。</li> </ul>	【知・技】 ・平行線における同位角や錯角の性質を理解している。（観察・ノート）
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆三角形の外角の求め方を考えよう</li> <li>○ 三角形の内角や外角に関する性質を、平行線の性質などを用いて論理的に確かめる。</li> <li>○ 三角形の内角や外角に関する演習問題を解く。</li> </ul>	【態度】 ・平面図形の性質について学んだことを今後の学習に生かそうとしている。（観察・ノート）
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆補助線の引き方を考えよう</li> <li>○ 補助線をひいて、グループごとに <math>\angle x</math> の求め方を考える。</li> </ul> 	【知・技】 ・これまで学習してきた平面図形の性質を根拠にして、 $\angle x$ の大きさを求めることができる。（観察・ノート）
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ブームランの角度の求め方を考えよう</li> <li>○ ブームランの角度の求め方を難易度別に考える。</li> <li>○ ワークシートに根拠となる事柄を明らかにしながら、角度の求め方の説明を記入する。</li> </ul> 	【思・判・表】 ・難易度別の補助線の図において、根拠となる図形の性質を明らかにしながら説明を書くことができる。（ワークシート）
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>★パフォーマンス課題（口頭説明）</li> <li>○ 自分で選択した補助線や難易度★★★の図において、根拠となる図形の性質を明らかにしながら説明する。</li> </ul>	【思・判・表】 ・自分で選択した補助線に加えて、難易度★★★の図においても、根拠となる図形の性質を明らかにしながら、口頭にて説明している。（口頭説明）

## V 研究のまとめ

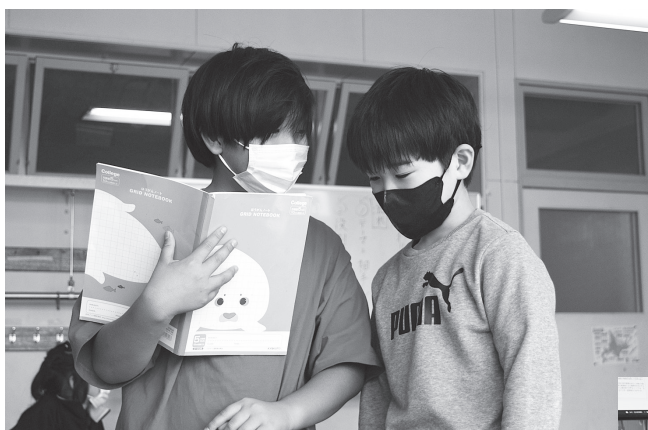
### 1 今年度の研究の成果と課題

#### (1) パフォーマンス課題について

- 見方・考え方を単元の目標に合わせて具体化し、パフォーマンス課題を単元計画に位置付けたことで、子どもに身に付けさせたい力や深い学びの姿を明確にし、計画・指導することにつながった。
- 知識や技能を活用・応用・統合したり、自分の考えと結び付けながら課題を解決したり、発展させたりすることができるパフォーマンス課題を実施することで、深い学びにつながった。
- パフォーマンス課題を単元の早い段階に示すことで、子どもが見通しをもち、意欲的に学習する姿が見られた。
- パフォーマンス課題を設定することで、ペーパーテストだけでは見取ることが難しい「思考・判断・表現」の観点を見取ることができた。
- パフォーマンスの選択や評価方法によっては、評価に時間が掛かり過ぎてしまうことがあった。パフォーマンス課題の熟慮と、見取るための具体的な方法を検討する必要があるだろう。

#### (2) ルーブリックの活用について

- 中学校での実践では、単元の早い段階に子どもにルーブリックを提示することで、子どもが学習課題を探究していく際に気候や地形など地域の特徴を捉えるための視点が明確になり、見通しをもち学習することができた。また、単元の途中やパフォーマンス課題に取り組む中で、学習の過程や成果の把握をするものとして活用することができた。
- ルーブリックを子どもと共有することで、評価の信頼性と妥当性を高めることにつながった。
- 小学校の算数科では、ルーブリックの記述によって、これから身に付けていく知識や技能を示してしまうことにつながるものが想定された。子どもと共有するために記述を工夫する必要があった。
- 発達段階に応じたルーブリックの記述や学習過程での活用が難しかった。





### (3) 「深い学び」に向かう子どもについて

- パフォーマンス課題とルーブリックを必要に応じて単元に位置付け、課題設定の工夫や評価の充実を図ることで、既習の知識や技能を活用するなど、「深い学び」に向かう子どもの姿を目指すことができた。
- パフォーマンス課題とルーブリックを単元の導入時など早い段階に提示し、子どもと共有することで、主体的に学習に取り組む姿にもつながった。
- パフォーマンス課題とルーブリックを位置付けたパフォーマンス単元計画を作成したことは、ねらいや評価を明確にし、単元全体を見通すために効果的であった。
- 子どもがパフォーマンス課題に取り組んだり、教師がパフォーマンス課題やルーブリックを提示したりする際にICTを活用することで、見取り方の工夫やより「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができたのではないだろうか。
- 教科や単元の特性、子どもの発達段階に応じてパフォーマンス課題とルーブリックを工夫する必要があった。今年度実践した学年や教科以外でも、幅広く検証していく必要があるだろう。

## VI 共同研究員紹介／参考・引用文献

### 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員

市町村	共同研究員名	所属(所属校)	備考	市町村	共同研究員名	所属(所属校)	備考
帯 広	竹内 允人	帯広市教育研究所 (緑丘小)	推 進 幹 事	中札内	佐藤 悠樹	中札内村教育研究所 (中札内中)	推 進 幹 事
広 尾	森岡 達昭	広尾町教育研究所 (広尾小)	推 進 副幹事	陸 別	山田 征洋	陸別町教育研究所 (陸別中)	推 進 副幹事
土 幌	伊澤 亮	土幌町教育研究所 (中土幌小)	授業者	浦 幌	松林 一彦	浦幌町教育研究所 (浦幌中)	授業者
音 更	日水 直樹	音更町教育研究所 (音更小)		更 別	森田 明宏	更別村教育研究所 (更別中央中)	
上土幌	政野 里歩	上土幌町教育研究所 (上土幌小)		幕 別	東 拓	幕別町教育研究所 (札内東中)	
鹿 追	鈴木裕太郎	鹿追町立教育研究所 (鹿追小)		池 田	村上 真輔	池田町教育研究所 (池田中)	
新 得	市原 秀樹	新得町教育研究所 (新得小)		豊 頃	辻 真里奈	豊頃町教育研究所 (豊頃中)	
清 水	持田 淑美	清水町教育研究所 (御影小)		足 寄	井元 延明	足寄町生涯学習研究所 (足寄中)	
芽 室	大草 恵輔	芽室町教育研究所 (芽室南小)		十勝教育研究所 斉藤 雅彦／大橋 一博／野村 知未			
大 樹	石川 諒	大樹町教育研究所 (大樹小)					
本 別	大山 陽子	本別町総合教育研究所 (仙美里小)					

## 参考・引用文献

- 小学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 算数編(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 社会編(平成29年7月) 文部科学省
- 「深い学び」で生かす思考ツール 小学館
- 「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 明治図書
- Q&Aでよくわかる! 「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価 明治図書
- 教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 日本標準



# 子どもたちにしなやかな心を育む研究

～道徳科における発問と対話の工夫～

(2か年継続研究 2年次)



授業者  
清水町立清水小学校  
教諭 梶浦 哲平



授業者  
幕別町立札幌内中学校  
教諭 田口 健人

## I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究組織
- 8 研究推進計画

## II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

## III 授業実践

- 1 小学校授業実践 1
- 2 小学校授業実践 2
- 3 小学校授業実践記録
- 4 中学校授業実践 1
- 5 中学校授業記録 2
- 6 中学校授業実践記録
- 7 資料「指導案の作成に当たって」

## IV 研究のまとめ

- 1 研究の内容に関わる本時の検証
- 2 アンケート結果からの検証
- 3 研究内容の検証
- 4 研究2年次の成果と課題
- 5 2か年の研究の成果と課題

## V 研究協力校紹介／参考・引用文献

## I 研究の概要

### 1 研究主題

子どもたちにしなやかな心を育む研究（2／2年次）  
 ～道徳科における発問と対話の工夫～

### 2 主題設定の理由

#### 今日的な課題 学習指導要領の趣旨から

我が国は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代になっている。

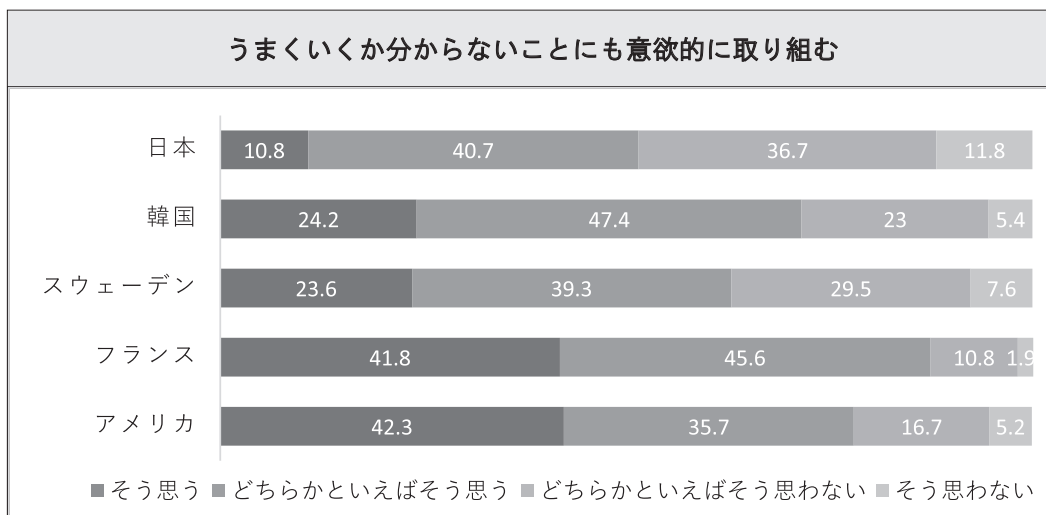
子どもたちには、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合<sup>ひら</sup>って関わり合い、自らの可能性を發揮し、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な力を付けることが求められている。そして、よりよく生きる力を高めるためには、情意面や態度面について、自己の感情や行動を捉え、統制する能力を育む必要がある。また、自分のよさや可能性に気付くためには、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等を育むことが重要である。

#### 日本・北海道の現状から

平成30年度我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（内閣府）によると「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む」という項目に対しては、そう思うと答えた若者が約1割にとどまり、諸外国の若者と比べて、20%近く低くなっていることから、困難に立ち向かう力に課題があることが考えられる。

また、平成31年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査でも、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」という質問に対し、「そう思う」と回答した北海道の子どもは、小学校で27.3%、中学校で21.7%であった。これは、他の項目と比べて明らかに低く、全国平均と比較しても若干低い結果であった。そのため、北海道の子どもにとって、うまくいかないことや失敗を恐れずに挑戦することに対して課題があることが考えられる。

このようなことから、子どもたちが人生を自ら切り拓<sup>ひら</sup>いていくには、どのようなことにも前向きに取り組む、意欲的に挑戦しようとする心が必要であると考えた。本研究1年目においては、これらをしなやかな心と捉えることとし、子どもたちにしなやかな心を育むことに視点を置いて研究を進めることとした。

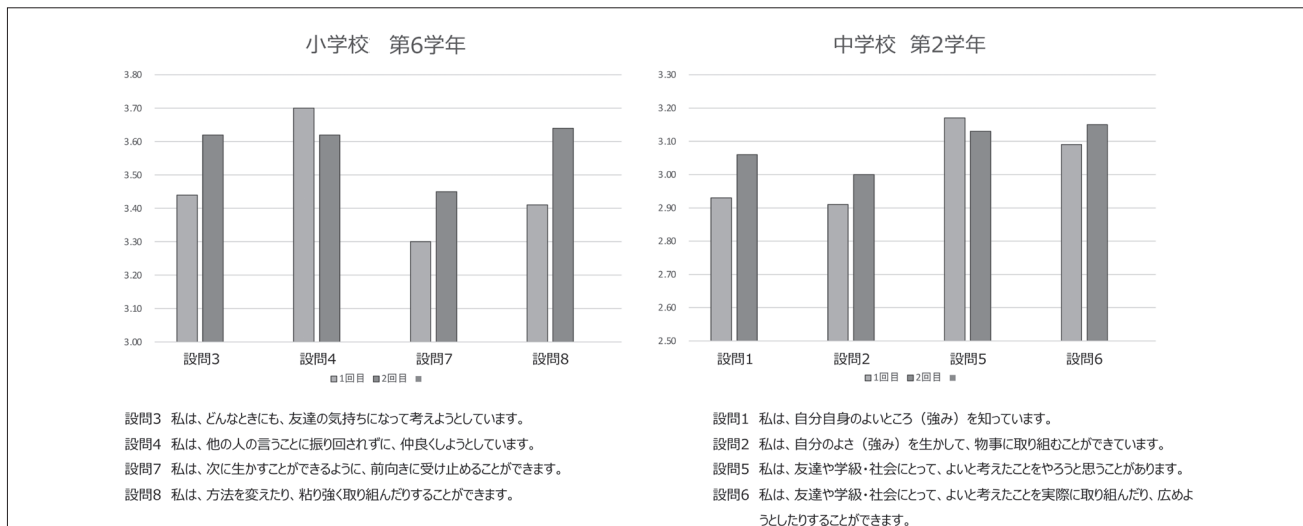


内閣府 「平成30年度我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（令和元年6月発表）

## 1 年次の研究について

1 年次は、道徳科と特別活動における指導の工夫について研究を行った。研究の仮説を、道徳科で思考ツールを活用し、自己を客観視すればよりよく生きようとする力が高まり、特別活動でソーシャルスキルを活用すれば自分のよさや可能性に気付くだろうとし、研究を推進してきた。

残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大によって、協力員に依頼する従来の形での研究を行うことはできなかったが、担当所員が授業実践を行うことで仮説を検証した。詳細は、No.215の研究紀要を参照していただきたいが、アンケートの結果からは自己肯定感の高まりや自己の客観視など、一定の成果を得ることができたと考える。



【令和2年度協力員研究アンケート結果より】

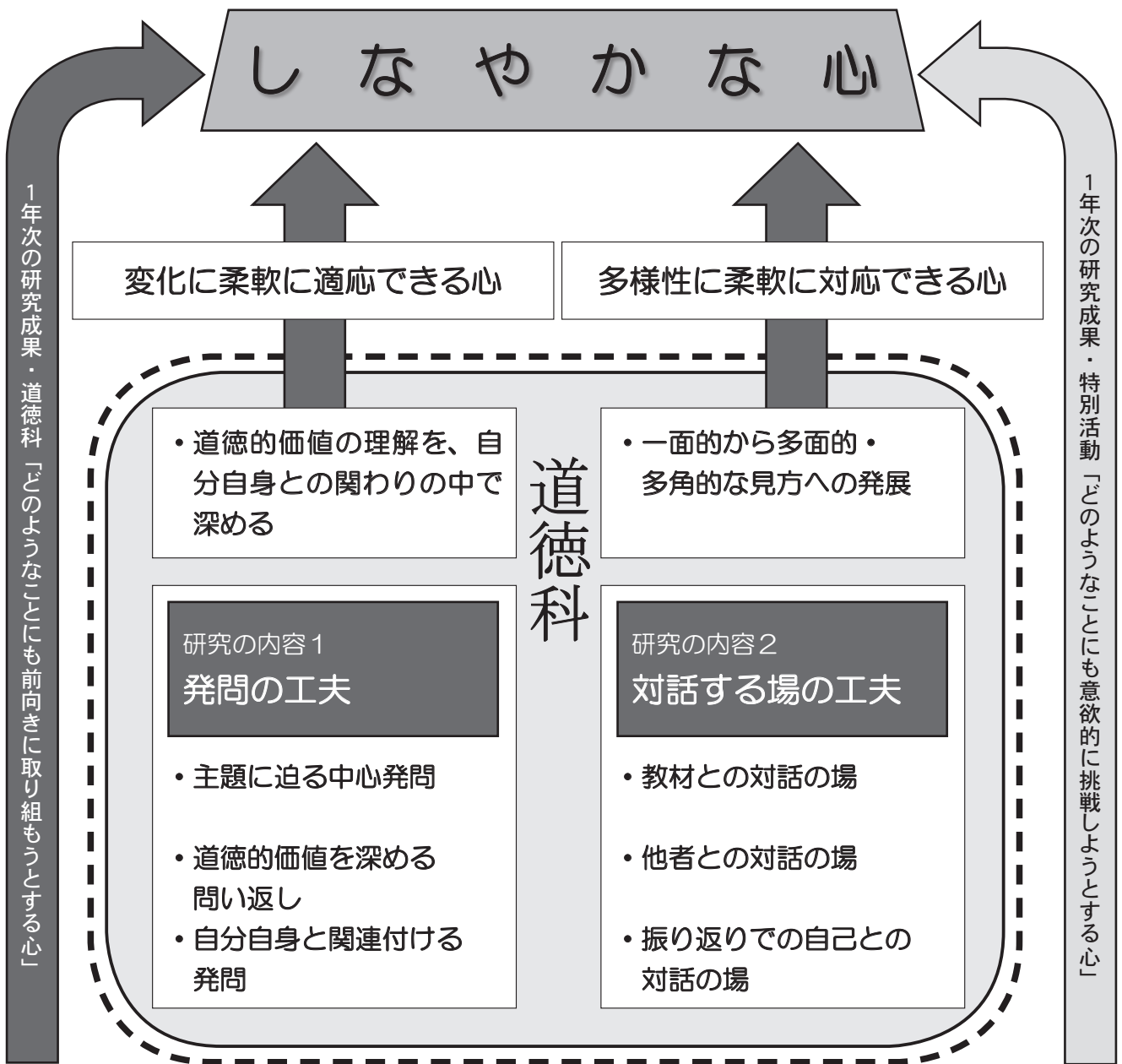
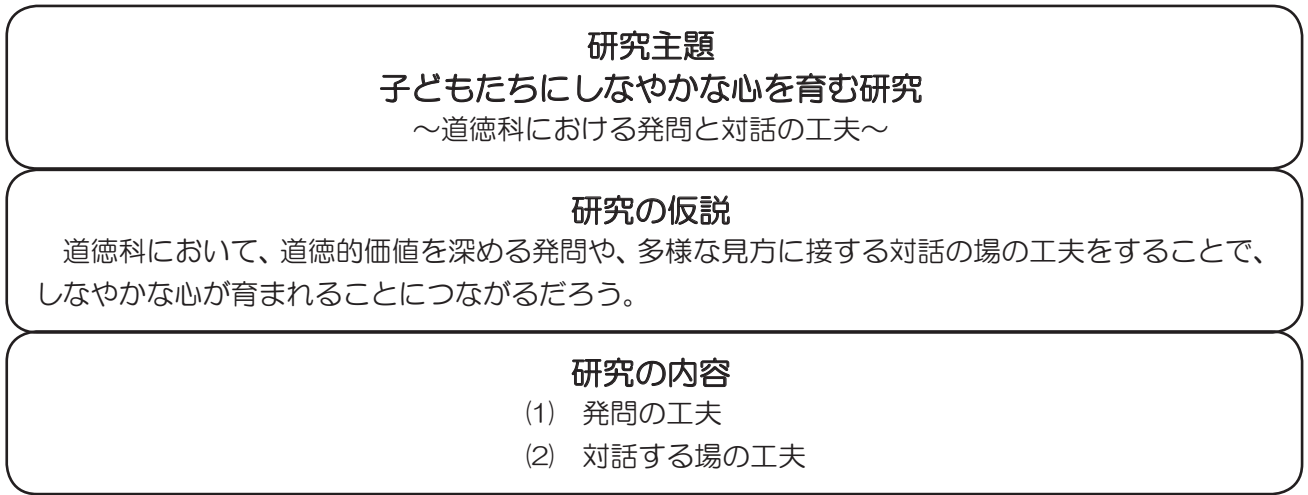
## 2 年次の研究の方向性

2 年次の研究は、1 年次の研究の成果を生かしつつ、研究主題である「しなやかな心」の育成について更に研究を深めていくこととした。ただし、研究する教科を道徳科に絞ることとした。1 年次の研究において「しなやかな心」を子どもたちに育むには教科を絞ることなく、学校生活全般で育むことが望ましいと考え取り組んだ。しかし、研究の成果を検証する上においては、様々な要素が影響することから、2 年次の研究では道徳科のみを研究することとした。特別活動については、1 年次の研究の成果を、指導計画作成時に生かすよう奨励するが、検証は行わないこととする。1 年次の道徳科の研究の成果については、思考ツールの活用が子どもたちの考えの発散や収束に効果的だったことから、継続して取り組むようにしていきたい。ただし、研究の内容が多岐に渡り、検証できなくなることはないよう、無理のない程度で取り組むようにする。

以上のことから、2 年次の研究の方向性は道徳科に限定して、「しなやかな心」の育成とすることとする。1 年次は、「しなやかな心」を「どのようなことにも前向きに取り組み、意欲的に挑戦しようとする心」と捉えたが、2 年次は更に一步踏み込んで、前向きに取り組み、意欲的に挑戦した後に表れるであろう困難を乗り越える力について研究していく。おおよそ、世間一般における壁とは、他者との考えや意見の相違であることが多いと考えられる。その際に、自己の考えや意見に固執するのか、他者の言葉に耳を傾け相手の立場に立って考えたり、多様な価値観を認めたりした上で行動するのかでは、結果は大きく変わってくるはずである。以上のことから、今年度は、「変化に柔軟に適應できる心」「多様性に柔軟に対応できる心」を「しなやかな心」と捉え、研究を進めていく。

さらに、十勝教育研究所では道徳科が教科となってから初めての研究でもあることから、主に教科書教材を本研究では扱っていききたい。それは、投げ込み教材を扱ったり、自主教材を開発したりするよりも、教科書教材を使った授業実践を行う方が、現場の教員には有益であると考えからである。

### 3 研究の仮説と内容、構造図



学 校 生 活 全 般



## 4 研究計画

(1) 第1年次（令和2年度）	(2) 第2年次（令和3年度）
① 理論研究 ② 子どもの実態把握 ③ 道徳科における思考ツールを活用した指導の工夫 ④ 特別活動におけるソーシャルスキルを活用した指導の工夫 ⑤ 担当所員による授業実践 ⑥ 1年次の検証のまとめ ⑦ 2年次に向けた仮説、研究内容、研究計画、検証計画の修正	① 理論研究 ② 子どもの実態把握 ③ 道徳科における発問の工夫と対話の場の工夫 ④ 協力員による授業実践 ⑤ 2年次の検証のまとめ ⑥ 2年間の研究の成果

## 5 検証計画

### (1) 検証内容

- ① 発問の工夫により、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- ② 対話する場を設定することにより、一面的から多面的・多角的な見方へ発展しているか。
- ③ 変化に柔軟に適應できる心、多様性に柔軟に対応できる心が育まれていたか。

### (2) 検証方法

- ① ノートやプリントなどによる記述の変容の見取り。
- ② 授業前後の子ども・授業者へのアンケート調査の分析（全体・抽出）。
- ③ 授業に参加する姿や、事後の学校生活全般からの見取り。

## 6 研究の推進

### (1) 研究方法

担当所員と研究協力員との研究とし、研究協力員の実践を通して検証する。

## 7 研究組織

### (1) 担当所員

杉澤 諭 ・ 松村 理史

### (2) 研究協力員

清水町立清水小学校 梶浦 哲平 教諭  
 幕別町立札内中学校 田口 健人 教諭

## 8 研究推進計画（令和3年度 2 / 2年次）

月	研究の推進内容	諸会議
4	・研究主題、研究計画等の作成	十勝教育研究所業務計画会議
5	・研究の視点、方向性の確認	十勝教育研究所運営委員会
6	・研究協力員の委嘱及び研究の概要説明 ・理論研究 ・子どもたちの実態把握	第1回協力員会議【Zoom】 十勝教育研究所調査委員会
7	・研究実践計画と検証実践計画の策定 ・授業実践における検証方法の検討 ・授業実践1の内容検討・実践	十勝教育研究所モニター会議 第2回協力員会議【Zoom】
8	・授業実践2の内容検討	第3回協力員会議【Zoom】
9 10	・授業実践2の実施 ・子どもたちの変容の分析、授業実践の分析 ・研究協力校での継続的な実践	
11 12	・協力員研究中間報告（広報誌） ・2年次の検証 ・研究紀要原稿、ダイジェスト版の作成 ・研究発表大会用パワーポイント作成	第4回協力員会議【Zoom】
1	・研究発表大会打合せ、リハーサル ・ダイジェスト版の刊行 ・研究のまとめ	第5回協力員会議【Zoom】
2	・研究発表大会	十勝教育研究所研究発表大会
3	・研究紀要の刊行	

## II 研究の視点と内容

### 1 研究の視点

#### (1) 本研究におけるしなやかな心

1年次の研究では、平成30年度我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（内閣府）などの資料から、北海道の子どもたちには、うまくいかないことや失敗を恐れずに挑戦することに課題があると捉え、しなやかな心を次のように定義した。

【本研究における「しなやかな心」（1年次）

どのようなことにも前向きに取り組み、意欲的に挑戦しようとする心。

上記の定義に基づき、1年次の研究を推進した結果、自己の客観視や成功体験の積み重ねなど、一定の成果を得ることができた。

しかし、「しなやかな心」は、自己理解が進み、自尊感情が高まるだけでなく、他の要素も含めて形成されている。なぜなら、たとえ自己理解が進み、自尊感情が高まったとしても、必ずしも物事を成し得るとは言い切れないからである。まして、子どもたちが今後活躍する社会は、現在よりも社会の変化が激しい未来になると予想されている。どんなに努力しても、報われないときがあるかもしれない。自分とは、違う様々な考えをもった人に出会う<sup>すべ</sup>かもしれない。そんなときに、ストレスを上手に発散し、自分の心をコントロールする術が必要になってくるはずである。そこで、2年次の協力員研究では、しなやかな心を次のように定義した。

【本研究における「しなやかな心」（2年次）

- ・変化に柔軟に適應できる心
- ・多様性に柔軟に対応できる心

#### (2) 変化に柔軟に適應できる心

変化に柔軟に適應できる心が育まれた姿とは、社会や環境<sup>あらが</sup>の変化に抗わず、流されることではない。社会や環境が時間の流れとともに変容していくことは、当然のことである。しかし、その変容に対して、これまでの経験や学んだことを生かし、出会った問題に対処しようとする心が大切なのである。そして、その問題に対処する際の指標となるのが、道徳的判断力や心情、実践意欲、態度といった道徳性を構成する諸様相である。道徳性が十分に備わっていれば、これまで学んできた道徳的価値や事例を生かして、正答とはいかないまでも最適解を生み出すことができるかもしれない。しかし、十分な道徳性が身に付いていなかった場合、様々な問題を前に、利己的で独善的な判断や反社会的な判断を下してしまい、結果、自分や周囲に不利益を生じることにもなりかねない。そうならないためにも、道徳科において、子どもたちに道徳性を育むことが必要である。教科書教材の事例を基に、道徳的価値について考えを深めていく。その際に、表層的な理解にならないよう、自分事として捉え、自己の生き方にまでつなげて考えていくことが重要である。

しかし、これまでの国語科的な内容の読み取りや、登場人物の心情の想像、授業者による一方的な説話などでは、子どもたちに自分事として捉えさせることは難しい。そこで、授業者が発問を工夫することによって、子どもたちが教科書教材を自分事として捉え、道徳的価値について考えを深めることができるだろうと考えた。毎時間の道徳の授業の中で自分自身と関連付けながら、道徳的価値について深く考えることを繰り返す。そして、その学びを学校生活に生かすことができれば、おのずと変化に柔軟に適應できる心の育成に、ひいては「しなやかな心」の育成につながると考えた。

#### (3) 多様性に柔軟に対応できる心

多様性に柔軟に対応できる心とは、たくさんの考えがあることを知るだけでなく、それらの考え

を理解し、受容することである。たとえ、同じ事象に対する考えであっても、立場が違えば見方や考え方も変わるのではないだろうか。しかし、昨今の社会では、1つの価値観ばかりが強調され、多様な価値観を認めない「不寛容」な行為も目立つ。例を挙げれば、ネット社会における「炎上」といった現象である。ある出来事の一面だけを切り取り、自己の「正義」という独善的な判断基準で相手を非難する行為である。確かに、ある面ではその判断は一見正しく見えるが、物事には見方や考え方を換えれば、様々な価値観があり、一概に断することは極めて難しい。しかし、最近では、そういった物事の多面性には、目もくれず、声高に己が正義を押し付ける行為が散見される。これらの行為は、自己の世界観を狭め、生きにくくするだけでなく、無理解から考えの違う他者を傷つける行為にもつながりかねない。

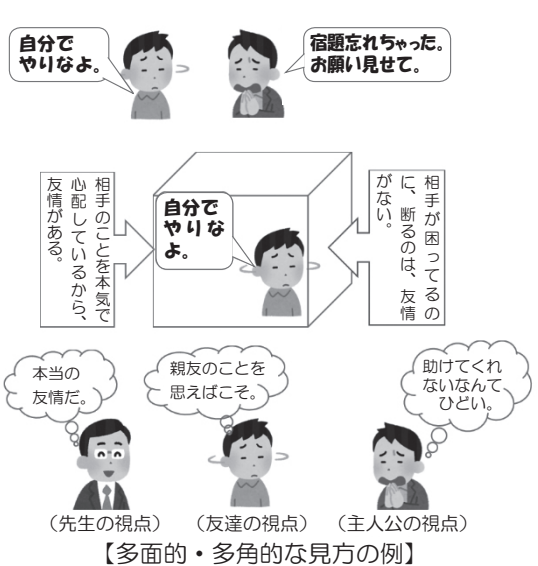
そうならないためにも、様々な場面で自分とは異なる多様な考えに触れる必要がある。さらに考えに触れるだけでなく、自分とは異なる考えのよさについて理解し、受容することも必要である。そのためには、対話の場を設定し、自分とは異なるいろいろな考えに触れる必要があるだろう。

そこで、1つの事象を基に、考え方の異なる他者との対話を繰り返すことにより、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展させることで、多様性に柔軟に対応できる心が育まれるだろうと考えた。日々の学びの中で、自分の考えとは異なるいろいろな考えに繰り返し触れ、相手を理解しようと努めることが、行く行くは「しなやかな心」が育まれると考えた。

【場面】  
「友情」の内容項目で宿題を見せてという友達の願いを断ります。

【多面的には】  
「友達の願いを断る」という1つの事象を、「友情」という切り口で見ると、複数の考えが見られます。

【多角的には】  
登場人物の視点で考えると複数の考えが見られます。ただし、多面的と重複する場合もあります。



## 2 研究の内容

本研究では、子どもたちに変化に柔軟に適應できる心を育むために、道徳科を通して「道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深める」こと、また、多様性に柔軟に対応できる心を育むために、「一面的から多面的・多角的な見方への発展」させることを目指す。そのために、研究の具体的な内容として、発問の工夫（研究の内容1）と、対話する場の設定（研究の内容2）の2つを行うこととした。

### (1) 発問の工夫

道徳科において道徳性を育む授業を行うためには、道徳的価値に迫る意図した発問が必要である。これまでの道徳科の指導においては、主題やねらいの設定が不十分なために単なる生活体験の話合いになる授業や、読み物教材の登場人物の心情理解にのみ終始する授業、望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する授業になってしまうことがあった。これでは、道徳科が目指す道徳性が育まれることもなく、子どもたちにも飽きられてしまうだろう。本来、授業とは、1単位時間の中で学びが生まれるべきものだろう。新しい学びがあるからこそ、子どもたちは主体的に学ぶのだろう。

そこで本研究では、発問を工夫することによって、子どもたちが問題意識をもち、自ら思考し解決していく問題解決型の授業を行っていくこととする。そのためには、即答できるような安易な発問ではなく、子どもたちが立ち止まり、自分事として本気で考えるような発問を工夫する必要がある。発問を工夫することで、子どもたちの既存の価値観を揺さぶり、自分事として捉えることができるようになることで、より道徳的価値の理解が深まるのではないだろうか。そして、道徳的価値の理解を自分自身との関わりとの中で深めることができれば、変化に柔軟に適應できる心が育まれると考えた。

### ① 主題に迫る中心発問

中心発問とは、授業における主題やねらいに迫るものである。本時で、子どもたちがどのようなことを学ぶのかを明確にすることで、枝葉の部分に捉われることなく授業を進めることができるようになるだろう。ただし、中心発問で子どもたちが、本時の主題について考えを深めていくには、教材文の内容を正しく理解する必要がある。そのためには、教材文の状況を確認したり、登場人物の心情を考えたりする中心発問を補う発問が有効である。これらの補う発問を取り入れることで、子どもたちの思考はスムーズに流れ、短い時間で本題にたどり着くだろう。

### ② 道徳的価値を深める問い返し

子どもたちは、これまでも道徳を学び、理想とする答えや大人が望む答えを知っている。しかし、美辞麗句で理想を軽々に語るより、地に足を着けて自分事として考えることが、後に生きて働く道徳性になることは間違いないだろう。表層的な理想論で終わらないためにも、子どもたちが導き出した答えに問い返しを行い、道徳的価値や人間理解の部分などを深めていきたい。また、問い返しをする際は、子どもたちが今一度原点に戻って考えられるような発問を行うことが望ましい。子どもたちから出された答えが一面的だった場合は、価値を多面的に考えるように問い、1つの視点で考えていれば、視点を変えてみるよう促すなど、より深く物事を考えることができるように工夫することでより道徳的価値が深まるだろうと考えた。

### ③ 自分自身と関連付ける発問

授業の終末では、教材文を通して学んだことを、自分自身と関連付ける機会を必ず設けたい。教材文はあくまでも疑似体験ができる教材であり、道徳的価値を焦点化するための教材でしかないだろう。例え、子どもたちがどんなに道徳的価値について深く考えたとしても、その学びを自分自身と関連付けることができなければ、道徳科の目標を達成したことにはならない。登場人物を自分に置き換えてみたり、本時で学んだことを教材文から離れ、自己の生活の中で生かす場面を考えてみたりするなど、子どもたちが立ち止まって振り返ることができるような発問を終末の段階で行うようにすることが大切であると考えた。

## (2) 対話する場の工夫

学習指導要領では、道徳性を育むための改善策として「考え、議論する道徳」という言葉がクローズアップされた。これは、個人で深く考えることだけでは、十分な道徳性を育むことが難しいことを示している。物事を多面的・多角的に見るためには、自分と違う考えを知ることが必要であり、対話は有効な手段の1つである。

そこで、本研究では、対話の場を重要視し「教材との対話」「他者との対話」「振り返りでの自己との対話」の3つに分けて取り組むこととした。3つの段階を踏むことで、様々な考えに触れることができ、一面的な見方から、多面的・多角的な見方へ発展していくことが期待される。このような取組を継続的に指導していくことで、多様性に柔軟に対応できる心の素地ができていくと考えられる。それが、ひいては「しなやかな心」の育成につながっていくのではないだろうか。

### ① 教材との対話の場

教材文は、道徳的価値に迫るきっかけである。国語科の教材文と違い、詳細に読み込む必要はないが、ポイントとなる人物の行動や事象などの状況については、正確に把握する必要がある。子どもたちが誤読した状態では、十分に話し合うこともできず、また話し合ったとしても論点を整理することすらままならないだろう。まずは、登場人物がどのようなことを考え、どのような出来事があったのかなど教材とじっくり対話する必要があるだろう。さらに、教材文を読んだ後は、「自分



だったら…」と自分の目線で考えることが大切である。漠然と教材文を読むのではなく、自分自身を登場人物に投影させることで、より深く学ぶことができるだろう。そのためには、教材文と向き合う時間が必要である。そこで、短時間で教材文の要点を把握し、本時の課題へ導くためにも、視点を明確にしてから教材文と出せたい。また、発達段階に応じて、挿絵を効果的に使うなど、短時間で子どもたちが正しく要点をつかむことができるようになる工夫が必要である。教材文を通して学習課題に迫る学び方は、国語科によく似ているが、道徳科の場合はあくまでも内容項目を考えるきっかけであり、詳細な内容の読み取りや子どもたちの一文読みなどは本研究においては必要がないと考える。まず、内容を正確に把握し、教材に対する自分の考えをもつことが、教材との対話であると考え。

## ② 他者との対話の場

昨今の道徳科の授業において、ペア交流やグループ交流、そして全体交流の場面など、話し合う場はよく設定されている。しかし、話し合えば必ずしも多面的・多角的な見方へと発展するわけではない。特に、分かりやすい道徳的価値の場合は、人間理解の部分がなおざりになることが多い。例えば、規則の尊重などの価値の場合は、規則の大切さばかりに目が行き、その他の価値に対して批判的な言動が見られる。たとえ、一部の子が人間理解の部分について本音の思いを抱えていたとしても、学級の同調圧力に負けて発言しないままになってしまうこともあるだろう。このような状態は、決して多面的・多角的な見方へと発展しているわけではない。道徳科の授業ではそうならないためにも、様々な考えや少数の意見でも認める受容的な環境を作り上げたい。また、子どもたちの思考が偏った場合には、授業者が介入し、意図的な指名で角度の違う意見を取り上げたり、問い直しをしたりして、多面的・多角的な見方へと発展する話合いにしていく必要がある。

## ③ 振り返りでの自己との対話の場

道徳科が教科となり、評価が必要になったことから終末の段階で子どもたちが振り返りを書く実践が多く見られる。しかし、その振り返りの指示については、十分に検証されていないようである。曖昧な指示は、子どもたちに混乱を招き、感想を書く子や考えたことを書く子など、その内実は様々である。また、振り返った後の活用も十分ではなく、書いたままで終わってしまっていることがもあるのではないだろうか。

そこで、本研究では、振り返る観点を定めて書くことを継続して取り組むこととした。振り返りの観点については、本時で学んだことや気付いたこと、自分が気付かなかった新たな考えや、身近な出来事に置き換えて考えたことなど、複数の観点を提示し、個々に観点を選んで書くようにする。そうすることで、書き方を模倣している状態から脱却し、より自分自身と向き合うことができる。さらに、自分自身も自己の成長を実感できるよう、書きためた振り返りシートを見直すなどの機会を設定するなどの取組も行いたい。

	項 目	自己評価
1	本時で学んだ（内容項目）についてよく分かった	◎・○・△・×
2	自分の考えを書いたり、発表したりすることができた	◎・○・△・×
3	友だちや先生の話を聞いて、考えが広がった	◎・○・△・×
4	本時で学んだことを、これからの自分の生活に生かす	◎・○・△・×
【感想】 今日の道徳では、友情について勉強しました。友情は、友達に優しくすることだけではなく、相手のためになることを考えることが大事なので、時には厳しいことを言うことも大事なのだと分かった。ほくも、今日の学習のように相手のことをちゃんと考えて時には厳しく言いたいと思うけど、すぐには難しいと思った。		

【振り返りカード例】

### Ⅲ 授業実践

#### 1 小学校授業実践1

清水町立清水小学校 第5学年

## 「真理を求めて」

授業者 梶浦 哲平

(1) 主題名 真理を求めて

(2) 教材名 ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ（「新しい道徳 5」東京書籍）

(3) ねらい 積極的に新しいものを求め、妥協しない坂東さんの探究心を考えることを通して、自分の生活をよりよくしていくために、物事を探究していこうとする心情を育てる。

#### (4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目 A-(6) 真理の探究

真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。

【平成29年 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

② 主題設定の理由

高学年段階の子どもは、自己のよりよい成長を目指そうとする反面、次第にやすきに流れて現状に甘える傾向も見せるようになる。そのような状況を乗り越えて物事の真の姿を見極めようとする意欲を高め、子どもの感じ方や考え方をより創造的で可能性に富むものにしていかなければならない。

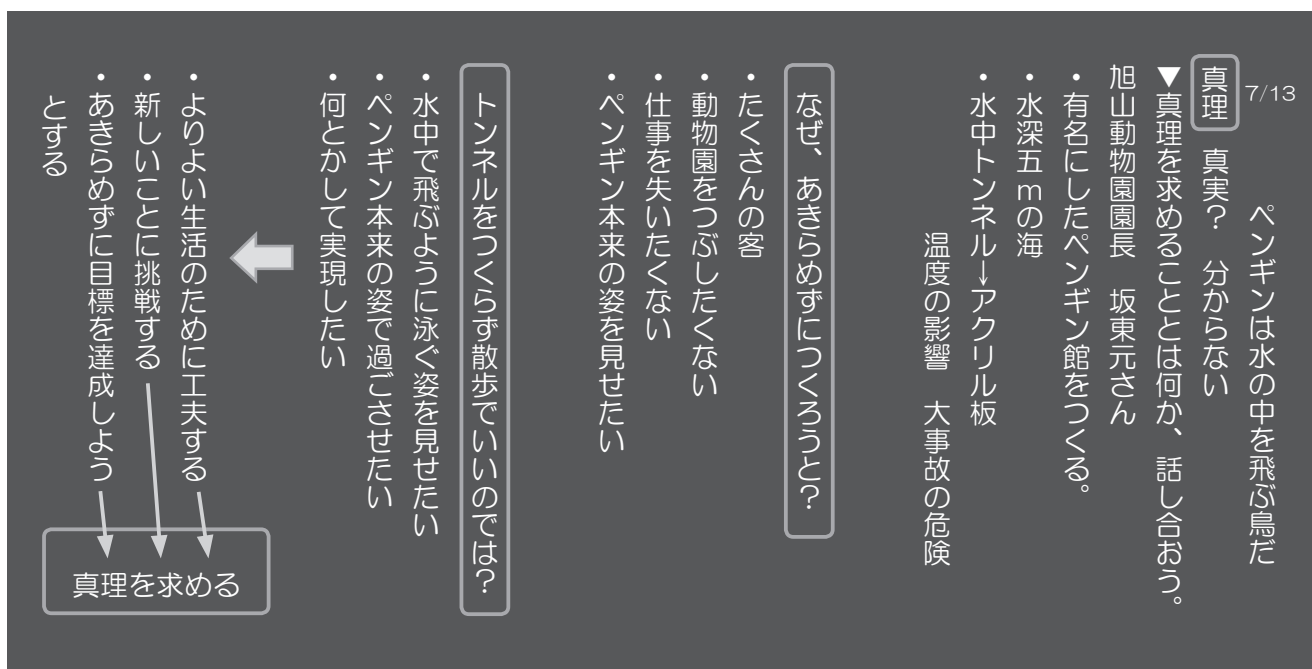
そこで、困難なことでも目標の実現に向けて創意工夫し、積極的に行動することができた人物の実話から「真理の探究」について理解させたい。そして、物事を探究し続けることの大切さや、新しいものを求め、生活を工夫していくことについて考えさせたい。

#### (5) 本時の展開

指導過程	指導上の留意点 (□) 評価 (☆)
<p>○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応</p>	<p>指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり <span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; padding: 2px;">                    </span></p>
<p>導入</p> <p>○ 「真理」とは、いったいどんなことだろう？ ・ 真面目？ ・ よく分からないな…。</p> <p>○ 今や大人気の旭山動物園が、かつては廃園の危機にあり、「真理を求めた」ことを知る。</p> <p>○ 本時の課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題 真理を求めることとは何か、話し合おう。</p>	<p>□ 本時の内容項目に対する思いや考えを発表し、価値への方向付けをし、自分事として捉えさせる。</p>
<p>○ 教材文を読むにあたり、坂東さんがどんなことを追い求め、どんな大変なことがあったのかを考えながら範読を聞くことを確認する。</p>	<p>□ 学習課題を提示したり、教材を読む際の観点を示したりして、内容項目を焦点化する。</p>
<p>展開</p> <p>○ 「ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ」を読んで、あらすじを知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ、坂東さんは事故の恐れがある水中トンネルを諦めずに造ろうとしたのだろうか？</p> <p>○ 全体での交流。(意見を出し合い、互いの考えをよく聞く。)</p>	<p>□ 短時間で教材の内容を確認する工夫をする。(範読や挿絵)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□ 中心発問をし、ねらいを焦点化する。 <b>【主題に迫る中心発問】</b></p>

展 開	ペンギンの散歩の方が見ていてかわいしい安全なので、トンネルはいらないのでは？	○ 個人思考。(坂東さんが水中トンネルを譲らず、造ろうとした理由をノートに書く。) ○ 全体での交流(意見を出し合い、互いの考えをよく聞く。) ・お客さんに、ペンギンが飛ぶように泳ぐ姿を見てほしいから。 ・ペンギンが、動物本来の姿で過ごせるようにしたいから。 ・無理だと言われたことでも、何とかして実現したいから。	□ 従来の展示方法と比較することで、道徳的価値について深く考えるきっかけとする。 <b>【道徳的価値を深める問い返し】</b> □ 考えたことを友達と交流し、多様な考えを聞く。
	坂東さんの思いや行動を通して、どんなことが分かった？	○ 全体で交流する。 ・よりよい生活のために、工夫をしようとする事。 ・新しいことに挑戦すること。 ・諦めずに、目標を達成しようとする事。	
終 末	今まで、何かをよりよくするために取り組んだことはあるかな？	○ 自分たちがもつ様々な経験を話し合う。 ・全校児童があいさつできるように、児童会活動であいさつ運動をしたことがある。 ・みんなが楽しめるように、遊び係の遊びを工夫したことがある。 ○ 本時の学習の振り返りをノートに記入し、交流し合う。 ○ 感想を書き、観点別に自己評価をする。	□ 学習したことを自分事として捉えられるように発問する。 <b>【自分自身と関連付ける発問】</b> ☆ 学習内容の深まりや、自己の思考の変容について気付くことができる。【ワークシート】

(6) 本時の展開



2 小学校授業実践2

# 「みとめ合う心」

(1) 主題名 みとめ合う心

(2) 教材名 名医、順庵（「新しい道徳 5」東京書籍）

(3) ねらい 自分と異なる意見や立場を尊重し、広い心で人と接しようとする態度を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目 B-(11) 相互理解、寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

【平成 29 年 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

② 主題設定の理由

高学年段階の子どもは、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てていかなければならない。

そこで、順庵が孝吉の過ちを許した理由について考え、友達と対話する活動を通して、自分と異なる立場や意見を尊重し、広い心で人と接しようとする態度を育てたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり <span style="background-color: #cccccc; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span>
導 入	○ 子どもたちの大事なものを聞く。	
	<p>誰かに自分が大事にしていたものをとられたとき、どうすれば許すことができる？</p> <p>○ 許せるかどうか子どもたちの考えを確認する</p> <p>○ どうしたら許せるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盗むのは悪いことなので、許せない。</li> <li>・何回も謝ってくれたら。</li> <li>・同じものを弁償してくれたら。</li> <li>・事情があれば、許すかも。</li> </ul> <p>○ 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題 「広い心」について考えよう。</div> <p>○ 教材文を読むにあたり、順庵と孝吉がどのような人で、二人の間にどのようなことが起きたのかを考えながら聞くことを確認する。</p>	<p>□ 自分事として捉えさせ、価値項目への意識付けをする。</p> <p>□ 綱引きチャートに自分のネームを貼り、自分の考えを明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>□ 学習課題を提示したり、教材を読む際の観点を示したりして、内容項目を焦点化する。</p> <p style="text-align: right;"><b>【教材との対話の場】</b></p> </div>
展 開	○ 「名医、順庵」の範読を聞いた後、挿絵を貼り、登場人物やできごとを確認する。	



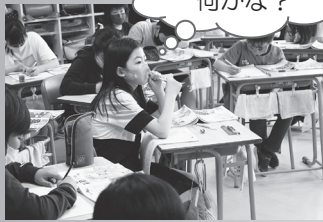
	<p>【順庵】 名医、人柄が立派、弟子がたくさん、盗みを働いた孝吉を許した</p> <p>【孝吉】 勉強熱心、母が病気、母を残して住み込み病気の母を思い、高麗にんじんを盗んだ。</p>	<p><input type="checkbox"/> 短時間で教材の内容を確認する工夫をし（範読・挿絵）、順庵と孝吉の関係について視覚的に捉えることができるようにする。</p>
<p>展開</p>	<p>なぜ順庵は、高麗にんじんを盗んだ孝吉を許したのかな？</p>	<p><input type="checkbox"/> 中心発問をし、ねらいを焦点化する。</p> <p><input type="checkbox"/> 綱引きチャートに自分のネームを貼る。</p>
	<p>○ 個人で考えをノートに書き、全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>盗みはダメだけど病気のお母さんを助けるために仕方がなかった。</li> <li>お母さんの病気を思う気持ちに、心を打たれたから許したと思う。</li> <li>自分の弟子だし、元気がない時に何もしてあげられなかったから。</li> </ul> <p>○ 自分だったら、この場面で許せるのかどうか考えを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お母さんのためなら仕方ない。</li> <li>やっぱり許せない。</li> </ul>	<p>許されない最初の例と、許される孝吉の違いは何だろう？</p> <p>○ グループ交流後に、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の例は、理由がなかったけど、孝吉の方はお母さんが病気だったから。</li> <li>最初の例の方は、相手の事情が分からないから許せないけど、孝吉の方は事情が分かっているからちょっと許せる。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 導入の例と孝吉の例を比較し、順庵の判断をより深く考える。</p> <p><input type="checkbox"/> 考えたことを友達と交流し、多様な考えを聞く。</p> <p style="text-align: right;"><b>【他者との対話の場】</b></p>
<p>終末</p>	<p>今日、学んだことをどう自分の生活に生かせるかな？</p>	<p><input type="checkbox"/> 学習したことを自分事として捉えられるようにする。</p> <p>☆ 学習内容の深まりや、自己の思考の変容について気付くことができている。【ワークシート】</p> <p><input type="checkbox"/> ワークシートの項目で振り返ることで、学習内容の深まりや自己の思考の変容について気付くように促す。</p> <p style="text-align: right;"><b>【振り返りでの自己との対話の場】</b></p>
	<p>【トラブルになったら】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場を考える。</li> <li>相手の考えを理解するようによく聞く。</li> </ul> <p>【普段は】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のことをよく知るようにする</li> <li>相手のいいところを認めるようにする</li> </ul> <p>○ 本時の学習の振り返りをノートに記入し、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感想を文で書き、観点別に自己評価をする。</li> </ul>	

### 3 小学校授業実践記録

#### 授業実践1

主  
内容  
項目  
題  
A13 真理を求めて  
⑥ 真理の探究  
「ペンギンは水の中を飛び鳥だ」

#### 1 真理とは何か、 主題名から考える



みなさんは、「真理」とは何か知っていますか？

#### 2 教材文を読んで、あらすじを知る

課題：「真理を求めるとは何か話し合おう」

##### ○あらすじ

1996年、旭山動物園は、来園者の減少から廃園の危機を迎える。その廃園の危機を救い、旭山動物園を日本中に広めるきっかけとなったのが、ペンギン館だった。ペンギン館の設計に当たった坂東さんの夢は、まるで大空を飛んでいるように泳ぐペンギンたちの姿を、多くの来園者に見てもらったことだった。幾多の試練を乗り越え、ついにペンギン館は完成する。ペンギンたちの空を飛ぶように泳ぐ姿は、大人気となり、多くの来園者を魅了するのであった。

#### 3 教材文の概要を整理する

エーッ  
旭山動物園が廃園の危機にあったの！？



今の旭山動物園からは、想像がつかないね。

#### 4 中心発問で主題に迫る



なぜ、坂東さんは事故の恐れのある水中トンネルを諦めずに造ろうとしたのだろう？

動物園とペンギンのために造ろうとしたんだと思います。



研究の内容1  
発問の工夫

研究の内容2  
対話する場の工夫

導

入 展

【主題に迫る中心発問】  
子どもたちがどのようなことを学ぶのかを明確にし、主題やねらいに迫る発問

【教材との対話の場】  
主題やねらいを意識し、自己を投影させながら教材文と向き合う場

#### 授業実践2

主  
内容  
項目  
題  
B19 ひとつめ合う心  
⑪ 相互理解、寛容  
「名医、順庵」

#### 1 身近な事例から自分事として 課題を捉える

みんなの大事にしているものが人にとられたとき、どうすれば許すことができる？



大事なものを盗まれたら許せないな…。

#### 2 教材文を読む前に、観点を示し 課題に対する自分の考えをもつ

人を許すことを「広い心」というよね。では、このお話の中で「広い心」をもった人は誰かな？



この話の中の「広い心」をもった人は誰かな？

#### 3 教材文を読んで、あらすじを知る

課題：「広い心」について考えよう。

##### ○あらすじ

松永順庵は、医術に優れ人柄も立派という評判の名医であった。その順庵の弟子の中に、とても勉強熱心で、よく働く孝吉という若者がいた。ある日、孝吉のもとに重い病気にかかった母から、手紙が届く。母を救おうと悩んだ挙げ句、孝吉は、順庵の薬部屋から薬を盗もうとするが、すぐに見付かってしまう。泣き伏す孝吉から事情を聞いた順庵は、孝吉の過ちを指摘しつつも、その罪を許すのだった。

#### 4 教材文の概要を整理し、中心発問で主題に迫る



なぜ順庵は、高麗にんじんを盗んだ孝吉を許したのかな？

最初の方は、理由が分からないから許せないけど、孝吉の方は、お母さんを思うあまりしてしまったから許せるのかな？



### 5 「ペンギンの散歩」と比べ、坂東さんの思いの基を考える

問題の多い「水中トンネル」よりも「ペンギンの散歩」の方が安全だから、お客さんも喜ぶんじゃない？



「ペンギンの散歩」は、お客さんも喜ぶけど、坂東さんの思いはペンギンの自然の姿をお客さんに見せることだからこだわったのだと思います。

### 6 坂東さんの思いや行動から、真理を求めるとは何かを考える

坂東さんの思いは最初から変わってないよね？



自分の思いを諦めないことが真理を求めることなのかな？

### 7 坂東さんの思いや行動を通して分かったことをまとめる

最初、真理とは何か分かりませんでした。でも、今日の勉強で真理とは責任感のあることだと思いました。坂東さんの責任感のある挑戦はすごいと思いました。

【子どものプリントより抜粋】

### 8 学習を自分事として振り返る

今まで、何かをよりよくするために取り組んだことはありますか？



失敗したときに投げ出さず最後まで責任をもって取り組んだこと…。

開

終

末

#### 【道徳的価値を深める問い返し】

価値理解、人間理解、他者理解など物事を多面的・多角的に捉え、より道徳的価値の理解を深める発問

#### 【自分自身と関連付ける発問】

学習内容を自分事として捉え、更に考えを深めることで道徳性を養う発問

#### 【他者との対話の場】

ペアやグループ、全体で意見を交流する場を設定し、一面的な見方から多面的・多角的な見方に発展する場

#### 【振り返りでの自己との対話の場】

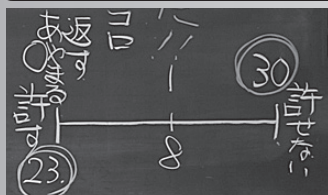
学習内容を自分事として捉え、自己の生活に生かそうという視点で振り返る場

### 5 導入の例と比較し問い返しを行う

最初の話では、大切なものをとったら許せないって意見が多かったよね？



許されない最初の例と許される孝吉の違いは何かな？



### 6 話し合いによって道徳的価値を深める

理由のあるなしによって判断も変わってくるよね。

最初の方は、理由が分からないから許せないけど、孝吉の方は、お母さんを思うあまりしてしまったから許せるのかな？

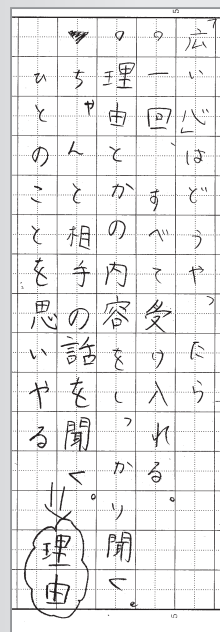


### 7 自分自身と関連付ける発問を行い、本時で学習したことを自分の生活に生かす

今日、学んだことをどう自分の生活に生かせるのかな？



自分のことだけ考えて行動してしまうので今度からは自分のことだけでなく人のことも考えて行動できるようにしたい…。



【子どものプリントより抜粋】



4 中学校授業実践1

「『今』を生きる私のために」

(1) 主題名 「今」を生きる私のために

(2) 教材名 私は十四歳（「新しい道徳 2」東京書籍）

(3) ねらい 不安や悩みを乗り越え、自分らしい生き方を模索していく作者の姿を通して、自己を見つめ、自分のよさを生かし伸ばしていく充実した生き方をしようとする意欲を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目 A—(3) 向上心、個性の伸長

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追究すること。

【平成 29 年 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

② 主題設定の理由

これまでの自分や現在の自分、そして将来こうありたいという自分を見つめ直していく中で、向上心が起こってくる。また、人それぞれに必ずその人の固有のよさ、独自性がある。この一人一人の持ち味とも呼べるものが、個性である。それをよりよい方向に伸ばし、より輝かせようという自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で、充実した生き方が体得されるのである。指導にあたっては、自分自身で嫌だ、直したいと思っているところばかりに目を向けるのではなく、自分を肯定的に捉え、自分の優れている面の発見に努め、更に伸ばしていこうとする意欲を育てることが重要である。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり <span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span>
導入	○ 「自分の個性を伸ばす」とは、どんなことか？ ・ 自分らしく成長する。 ・ 自分のよいところを伸ばす。 ○ みなさんは自分の個性を伸ばしていますか？ ・ 勉強や部活は頑張っているけど個性なのかな。 ・ 自分の個性って何だろう？ ○ 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">課題 自分の個性を伸ばすとは、どういうことだろう？</div>	□ 本時の内容項目に対する子どもたちの普段の行動や思いを発表し、自分事として捉えさせる。  □ 個性＝他者と取り替えることのできない独自性。
	○ 「自分の個性を伸ばす」とはどういうことか考えながら、範読を聞く。	□ 学習課題を提示したり、教材を読む際の観点を示したりして、内容項目を焦点化する。
展開	○ カードを貼り、登場人物や出来事確かめる。	□ 短時間で教材の内容を確認する工夫をし、視覚的に捉えることができるようにする。



展 開	<p>小学生 → 充実感、最も自分らしい時間  <input type="checkbox"/> 挫折                  中学校 → 自信が失せる、むなしい                  部活をやめる → 部活探し → ジャズダンス                  (寂しい) (焦る) (自分の姿が見える)</p> <p><input type="radio"/> 中心発問をする</p>	
	<p>主人公の考える「個性を伸ばす」とは、どんなことなのだろう？</p> <p><input type="radio"/> 個人思考。  <input type="radio"/> 全体で交流する。(意見を出し合い、互いの考えをよく聞く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公は、自分が本当にやりたいものや好きなものに一生懸命取り組むことが「個性を伸ばす」につながっていると考えていると思う。</li> <li>・主人公の考える「個性を伸ばす」とは、今を一生懸命生きること、後悔しないようにする生き方だと思ふ。</li> <li>・たとえ自分の好きなことであっても、心を犠牲にしてまで我慢するより、新しいことを見つけて楽しみながら挑戦すること。</li> </ul> <p><input type="radio"/> 問い返しの発問をする</p>	<p><input type="checkbox"/> 中心発問をし、ねらいを焦点化する。                  【主題に迫る中心発問】</p> <p><input type="checkbox"/> 個人思考で考えたことを友達と交流し、多様な考えを聞く。</p>
	<p>新しいことを始めることが「個性を伸ばす」ことなのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を基に「個性を伸ばす」について考える</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>例① スタメンにはなれないけど、諦めず部活動を続ける                  例② 先生や親に言われた通りに勉強と部活動を頑張る                  例③ 部活はあまり好きではないけど、友達もいるから何となく続ける                  例④ 楽しんで楽しめる新しい部活やサークルに入り、つらかったら他に行く                  例⑤ 今はやりたいことがないけど、将来は人の役に立つことをやりたい                  例⑥ もう嫌な思いはしたくないから、家でゴロゴロする                  例⑦ 毎日ゲームをやっていたら上手になったので、eスポーツの大会に出る</p> </div> <p><input type="radio"/> グループごとに綱引きチャートに具体例を整理する。  <input type="radio"/> 綱引きチャートに縦軸を増やし、「個性を伸ばす」という視点で考え、具体例を分別し、共通点を考える。                  ・「個性を伸ばしているグループ」の共通点。                  → 「目標をもっている」「自己決定している」</p>	<p><input type="checkbox"/> 教材文に書かれていない様々な具体例を提示することで、より深く道徳的価値について考えるきっかけとなるように発問する。                  【道徳的価値を深める問い返し】</p> <p><input type="checkbox"/> 個人で考えたことをグループで話し、最後に全体で交流する。</p> <p><input type="checkbox"/> 具体例を「個性を伸ばしている」グループと「個性を伸ばしていない」グループに分け、グループの共通点から、判断基準(縦軸)を付け足す。</p>


<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「個性を伸ばしていない」グループの共通点。 →「人に流されている」「努力していない」</li> <li>○ 「個性を伸ばしていない」と思われる具体例を「個性を伸ばしている」に変えるための手立てを考える。</li> <li>・「自分で目標を決める」「目標に向かって努力する」「新しいことにチャレンジしてみる」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「個性を伸ばしていない」グループについては、該当する子どもがいる可能性もあることから、「個性を伸ばしていない」＝「ダメ」と捉えられないように配慮する。</li> <li>□ 全体で改善策を検討し、少しの変容で「個性を伸ばす」ことができることを確認する。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>今の自分にとって「個性を伸ばす」とはどういうことだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時で学んだことをどう日常生活で生かせるか、自分の考えを書き、全体で交流する。</li> <li>○ 本時の学習の振り返りをノートに記入し、交流し合う。</li> <li>・感想を文で書き、観点別に自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学習内容を自分事として捉えられるように、発問する。 <b>【自分自身と関連付ける発問】</b></li> <li>☆ 学習内容の深まりや、自己の思考の変容について気付くことができる。 <b>【ワークシート】</b></li> </ul>

(6) 板書計画

「私は十四歳」


課題：自分の個性を伸ばすとはどういうことだろう？

個性を伸ばすとは？  
→自分らしく成長する  
自分のよいところも伸ばす




小学生

- ・充実感
- ・最も自分らしい時間




挫折



中学生

- ・自信が失せる
- ・むなしい
- ・あせる



ジャズダンスと出会う

- ・自分の姿が見える

主人公の考える「個性を伸ばす」とは、どんなこと？

- ・自分自身が本当にやりたいことを一生懸命に取り組むこと
- ・今を我慢しない、後悔しない生き方
- ・新しいことにどんどん挑戦し、自分自身を高めること

ゲームが好きだから、腕を磨いてeスポーツの大会に出る

新しいことに取り組む

楽しく楽しめる新しい部活やサークルに入り、つらかったらすぐやめる

今はやりたいことがないけど、将来は人の役に立ちたいからとりあえず勉強する

努力・覚悟・目的を持っている

スタメンにはなれないけど、あきらめず部活を続ける

部活はあまり好きではないけど、友達がいるからなんとなく続ける

先生や親に言われた通り勉強と部活をがんばる

部活を続ける

マンガが好きなので、家でダラダラ読む

努力していない・覚悟がない・目的がない

5 中学校授業実践2

幕別町立札内中学校 第2学年

「正しい判断とは」

授業者 田口 健人

(1) 主題名 正しい判断とは

(2) 教材名 『『いいね』のために?』(「新しい道徳2」東京書籍 P162～164)

(3) ねらい 多様な視点から法や決まりについて考えることで、法を守り義務を果たそうとする態度を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目 C—(10) 遵法精神、公德心

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

【平成29年 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

② 主題設定の理由

社会秩序は法とそれを遵守する道徳性に支えられなくてはならない。法やきまりは守るべきものであると知りつつも、自己都合の状況判断で勝手に解釈してしまうこともある。とはいえ、法を尊重していく姿勢がなければ互いに安心した生活は得られない。一部の人の都合ではなく、誰もが平等に法や決まりによって保護されているということについて考えさせたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入	○ 学校の決まりがあつて「よかったこと」「困ったこと・いやだったこと」を想起する。  ○ 2017年頃に話題になった違法サイト「漫画村」の事例を紹介する。 ・ 覚えている。 ・ あまり分からない。 ・ 法を犯したが、喜んだ人もいた。  ○ 本時の課題を確認する。  課題 多様な視点から法や決まりについて考えよう。	□ 本時の内容項目に対する子どもたちの普段の行動や思いを発表し、自分事として捉えさせる。  □ 著作権について確認する。著作権＝著作者に与えられる権利。
	○ 登場人物 Aさんの行動について、周りの人がどのように考えるかを予想しながら読む。	□ 学習課題を提示したり、教材を読む際の観点を示したりして、内容項目を焦点化する。 【教材との対話の場】
展開	○ 教材の内容を確認する。	□ 短時間で教材の内容を確認する工夫をし、視覚的に捉えることができるようにする。

	<p>登場人物と関連する人々（4つの視点がある）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aさん（違法動画をアップロードしようとする）</li> <li>・Bさん（一緒にいる）</li> <li>・Aさんの動画を見ている友達</li> <li>・漫画の作者</li> </ul>	
<p>展 開</p>	<p>○ 中心発問をする。</p>	<p>□ 中心発問をし、ねらいを焦点化する。</p>
	<p>違法動画をアップロードしようとするAさんの行動について、それぞれの立場の人はどのように考えるだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人思考。</li> <li>○ Xチャートを利用してグループで4つの視点（Aさん、Bさん、友達、漫画の作者）を考える。</li> <li>○ 全体で交流する。（意見を出し合い、互いの考えをよく聞く。） <ul style="list-style-type: none"> <li>・AさんやBさんは、友達に称賛されてうれしいと思う。</li> <li>・友達も楽しいと思っている。</li> <li>・漫画の作者は、著作権を侵害されてとても残念な気持ちなんじゃないかな？</li> </ul> </li> <li>○ Aさんの行動の基を考える（友達を喜ばせたいという思いはダメなのかな？） <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いは分かるが、手立てがだめだと思う。</li> </ul> </li> <li>○ 問い返しの発問をする。</li> </ul>	<p>□ Aさんの気持ちに寄り添い、人間理解を深める。（作者に対する悪意からではなく、軽い気持ちであることを押さえる。）</p>
	<p>では、「著作権がない世界」になればいいんじゃないかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで話し合い、全体で意見を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画がたくさん読めるからラッキー。（賛成派）</li> <li>・みんなはラッキーだけど、漫画家の収入がなくなり、漫画家がいなくなるのでは？（反対派）</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">著作権がなくなると漫画家がいなくなる。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ルールを守ることが大切。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <p>□ 考えたことを友達と交流し、多様な考えを聞く。 <b>【他者との対話の場】</b></p> </div>
<p>終 末</p>	<p>身の回りにたくさんある法や決まりを守るとき、どんなことを意識したらよいのだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時で学んだことをどう日常生活で生かせるか、自分の考えを書き、全体で交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことだけでなく、他の人の立場も考える。</li> </ul> </li> </ul>	<p>□ 学習内容を自分事として捉えられるように、発問する。</p>



終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 思いやりの心をもって行動する。</li> <li>• 「ルールだから仕方なく」ではなく、自分から考えて行動する。</li> </ul> <p>○ 身近な具体例をXチャートに当てはめて、いろいろな立場で考えてみる。(例：自転車で並走)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自転車に乗る私は楽しい。</li> <li>• 並走する友達もうれしい。</li> <li>• 歩行者は、危ないから嫌な気持ち。</li> <li>• 車の運転手は、危ないから嫌な気持ち。</li> </ul> <p>○ 本時の学習の振り返りをノートに記入し、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 感想を書き、観点別に自己評価をする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>□ ワークシートの項目で振り返ることで、学習内容の深まりや自己の思考の変容について気付くように促す。</p> <p><b>【振り返りでの自己との対話の場】</b></p> </div> <p>☆ 学習内容の深まりや、自己の思考の変容について気付いている。【ワークシート】</p>
----	--	--

### (6) 板書計画

「いいね」のために？

課題：多様な視点から法や決まりについて考えよう

漫画村のイラスト

4つの視点

漫画の作者

- 悲しい
- 努力が無駄
- 腹立たしい

友達

- 面白かった
- 楽しみ
- また、見たいな

Bさん

- いいのかなあ
- 違法だし
- 友達に注意できない

Aさん

- みんなが期待
- また、「いいね」してほしい

Q 著作権のない世の中はどうか？

反対

賛成

- 作者がかawaiiそう
- 漫画家の収入がなくなってしまう
- 漫画家がいなくなる

- ただで見られる
- 無料はうれしい

Q ルールを守るときはどのようなことを意識する？

- みんなに迷惑を掛けないようにする
- ルールを守ることで、みんなが幸せになる
- いろいろなことを考えて、自分から守るように


6 中学校授業実践記録

授業実践 1


主 題  
内 容  
材 名  
目 題  
6 「今」を生きる私のために  
A-③ 向上心、個性の伸長  
「私は十四歳」

1 自分の個性について、考える

私の個性って何かな？



今日は「個性を伸ばす」ことについて学習するよ。




2 教材文を読んで、あらすじを知る

課題：自分の個性を伸ばすとは  
どういうことだろう？


○あらすじ  
小学校のときはバスケット部で活躍し、充実した毎日を過ごしていた主人公。希望を胸に中学校の部活動に入ったが、その練習は想像以上につらく、勉強との両立ができないことでどんどん自信を失ってしまう。ついに、主人公は部活動を辞め、新しいことにチャレンジしていくのだが、思うような結果が出せない。そんなとき、両親の勧めでジャズダンスに出会う。回を重ねるたびに、ジャズダンスに楽しさや喜びを感じる主人公は、自分らしい生き方について考え始める。

3 教材文の概要を整理し、  
中心発問で主題に迫る

主人公の考える「個性を伸ばす」とは、どんなことなのかな？



主人公は、「個性を伸ばす」ことを、後悔しない生き方と考えたのだと思います。




4 他の「個性を伸ばす」していると思われる  
具体例を提示する

例①  
先生や親に言われたとおり勉強と部活を頑張る。

レギュラーになれないけど、部活を続ける。

友達がいるからなんとなく部活を続ける。

「個性を伸ばす」とは新しいことを始めること？他の事例は個性を伸ばしている？



【8種類の具体例を提示】

研究の内容1  
発問の工夫

研究の内容2  
対話する場の工夫

導

入 展

【主題に迫る中心発問】  
子どもたちがどのようなことを学ぶのかを明確にし、主題やねらいに迫る発問


【教材との対話の場】  
主題やねらいを意識し、自己を投影させながら教材文と向き合う場

授業実践 2


主 題  
内 容  
材 名  
目 題  
C28 正しい判断とは  
「(10) 遵法精神、公德心  
「いいね」のためには？」

1 身近な事例から自分事として  
課題を捉える

みんな、スマホでマンガを読んだりする？




あ〜、あれね！  
私はよく読むかな。



2 教材文を読む前に、観点を示し  
課題に対する自分の考えをもつ

Aさんの行動について、周りの人がどう思うか考えながら読んでみよう。



Aさんや友達はいいいけど、漫画の作者はどう思うのかなあ？

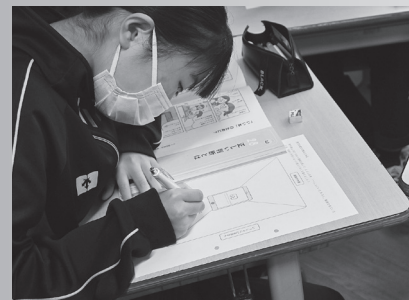


3 教材文を読んで、あらすじを知る


課題：多様な視点から法や  
決まりについて考えよう。

○あらすじ  
AさんとBさんは、ある日とても面白い動画を見付ける。動画には拡散希望と書いてあり、2人はダウンロードし、自分たちのSNSにアップロードする。たくさん「いいね」と友達の称賛を受けて、気をよくした2人は、更に面白い動画をアップロードするべく検索をした。そのとき、目に留まったのは、1つの面白い漫画の動画だった。Aさんは早速、SNSにアップロードしようとするが、Bさんは著作権が気になって困ってしまう。

4 教材文の概要を整理し、  
中心発問で主題に迫る



Xチャートに整理してみよう。



### 5 他の具体例と比べ「個性を伸ばす」について考える

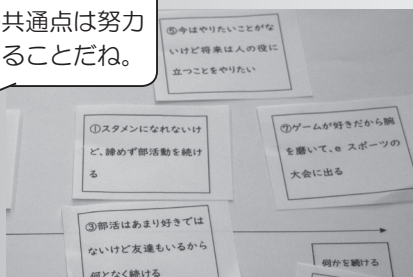
「個性を伸ばす」とは、新しいことを始めること？他の事例は個性を伸ばしている？



「先生や親に言われたとおりに頑張る」は個性を伸ばしていることになるのかな？

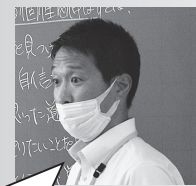
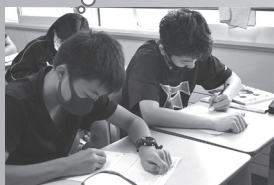
### 6 思考ツールを使い、情報を整理する

いろいろな具体例があるけど、個性を伸ばす方の共通点は努力や目標が入っていることだね。



### 7 今の自分にとって「個性を伸ばす」とは、どういうことを考える

自分の個性を伸ばすって…



今の自分にとって、「個性を伸ばす」とは、どういうことかな？

自分の意志で楽しんで続けられること、自分のよさを個性といい、その個性をより良いものにするために頑張るのを個性を伸ばすと思う。

つぶやき  
(感想)

人それぞれ個性はあると思うから、この主人公のように自分にあるものをこれが見つけていきたいと思う。

【子どものプリントより抜粋】

#### 【道徳的価値を深める問い返し】

価値理解、人間理解、他者理解など物事を多面的・多角的に捉え、より道徳的価値の理解を深める発問

#### 【他者との対話の場】

ペアやグループ、全体で意見を交流する場を設定し、一面的な見方から多面的・多角的な見方に発展する場

開

終

末

#### 【自分自身と関連付ける発問】

学習内容を自分事として捉え、更に考えを深めることで道徳性を養う発問

#### 【振り返りでの自己との対話の場】

学習内容を自分事として捉え、自己の生活に生かそうという視点で振り返る場

### 5 仮定の条件を提案し問い返しを行う



では、著作権のない世界になればいいんじゃないのかな？

えっ！それっていいんですか？でも、…。



### 6 話し合いによって道徳的価値を深める

著作権がなくなれば、漫画が読み放題になってみんなうれしいね。

でも、作者は困らないかな？



### 7 自分自身と関連付ける発問を行い、本時で学習したことを自分の生活に生かす

身の回りにある法や決まりを守るとき、どんなことを意識したらいいかな？



ルールがあるということは何かしらの理由があるはずだから、大変だけど決まりを守っていこう…。



相手のことを考える。  
守らなくていいからどうなるか、色んな人に迷惑がかかるのかもしれないけど、先の事を考えたい。

【子どものプリントより抜粋】



## 7 資料「指導案の作成に当たって」

(1) 主題名 ○○○○

(2) 教材名 ○○○○ (出典◆◆◆)

道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業するのか明示する。ねらいが道徳的判断力であれば登場人物の判断に着目させる、道徳的实践意欲であれば自己との関わりについて発問するなど、ねらいが本時の指導に反映されるようにする。

(3) ねらい ○○○○○○○○

「～しようとする道徳的判断力を育てる。」 「～しようとする道徳的心情を育てる。」  
「～しようとする道徳的实践意欲や道徳的態度を育てる。」

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目○— (○○) ○○○○

② 主題設定の理由

主題設定の理由は、① ねらいとする道徳的価値観について (価値観)、② 子どもの実態 (児童生徒観)、③ 教材の特質と活用方法 (教材観) の3つに分けて記載する。

(5) 本時の展開

指導過程	○主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (口) 評価 (☆)	授業のイメージ
導入	<p><b>1 本時の主題に関する問題意識をもつ。</b> (または教材の内容に興味・関心をもつ。)</p> <p>子どもたちにとって意識することの多い内容項目であれば、普段の生活を振り返ることで、自分事として関連付け、問題意識をもつことができるようにする。また、意識する機会が少ない内容項目については、教材の内容に興味をもつような工夫を行う。</p> <p><b>2 本時の課題を確認する。</b></p> <p>課題 ○○○○とは何か、考えよう。</p> <p>課題は、子どもたちの問題意識に合致したものを設定するように心掛ける。導入の段階で課題が明確な場合は「なぜ～ (Why)」、そこまで明確でない場合は「～考えよう (Let's)」など使い分ける。</p>	<p>親切にしたことはありますか？</p> <p>あるある！友達に鉛筆を貸したことあるよ。</p> <p>今日の課題は「親切」かぁ。どんな「親切」なのかな？</p>	
展開	<p><b>3 教材文を範読する。</b></p> <p><b>対話 1 【教材との対話の場】</b> 教材文は、子どもたちが短時間で正しく理解するためにも、冒頭であらすじや登場人物を確認する。「みんなだったらどうする？」「一番親切だったのは誰かな？」等、自己を投影させる登場人物の紹介や、内容項目に着目するような発問をして教材文を読む視点を明示し、自分の考えがもてるようにする。</p> <p><b>4 あらすじを確認する。</b></p> <p><b>発問 1 【主題に迫る中心発問】</b> 中心発問は、その発問を通して、ねらいとなる内容項目の道徳的価値の理解を深めていく。</p> <p><b>5 中心発問をする。</b></p> <p>【話し合い活動①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人思考。</li> <li>↓ (ノートなどに自分の考えを書きこむ。)</li> <li>ペアやグループで自分の考えを交流する。理由や根拠を交えて互いに説明し合う。</li> <li>↓</li> <li>全体で意見を交流する。</li> </ul> <p><b>対話 2 【他者との対話の場】</b> 自分の考えを明確にしてから、他者との対話を通して、物事を多面的・多角的に考える。</p>	<p>親切にしていたのは、だれかな？</p> <p>困っている主人公を助けていたのは、Bさんだったな。Bさんは親切だな。Cさんは違うな。</p> <p>困っている主人公を助けたのが、Bさんだったね。Cさんは友達なのに助けなかったんね。</p> <p>そうそう、助けなかったCさんは親切じゃないよね。</p>	



展開	<p><b>6 問い返しを行う。</b></p> <p><b>発問 2</b> 【<u>道徳的価値を深める問い返し</u>】 人間理解や他者理解の視点、他の道徳的価値との葛藤を提示することで、子どもたちが一度立ち止まって考えることができ、より深い理解を促すことにつながる。</p> <p>【話し合い活動②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで自分の考えを交流する。</li> <li>↓</li> <li>・全体で意見を交流する。</li> </ul> <p>話し合いだけでなく、グループワークや動作化、役割演技等を活用し、表現活動を工夫することで、子どもたちの思考を活性化する。</p>	<p>Cさんは、なぜ助けなかった？</p> <p>↓</p> <p>主人公とCさんは友達なのに、どうしてなのかな？ 意地悪？それとも…。</p> <p>あーでもない こーでもない</p> <p>↓</p> <p>分かった！ Cさんの行動も主人公を思いやる気持ちからなんだね！</p>
	<p><b>7 自分事として考える。</b></p> <p><b>発問 3</b> 【<u>自分自身と関連付ける発問</u>】 教材文から離れ、本時で学んだ道徳的価値を実現することのよさや難しさ、自己の生活の中で生かす場面を考える。</p> <p><b>8 教師の説話を聞く。</b></p> <p>教師の体験や願いや様々な事象についての所感など、人間性が表れる説話は効果的である。ただし、価値観の押し付けや訓戒、叱責にならないよう注意する。(今年度の研究では未実施)</p> <p><b>9 振り返りを行う。</b></p> <p><b>対話 3</b> 【<u>振り返りでの自己との対話の場</u>】 本時で学んだことや気付いたこと、自分が気付かなかった新たな考えなど、複数の観点を提示し、それらの観点について振り返りを行うようにする。継続して取り組むことで、学びの記録として蓄積することができ、学期末や年度末などに自己を俯瞰して振り返ることができる。</p>	<p>学んだことをどう生かすのかな？</p> <p>↓</p> <p>今回の学習で「親切」とは、手を貸すだけでなく、見守ることも「親切」になるということが分かったよ。もし、ぼくの身の回りで困っている人がいたら、ぼくも…。</p>
終末		

(6) 板書計画

○○○○○○○○○ (主題名)

**課題** ○○○○○○○○

挿絵や矢印等を使い、視覚的にあらすじを整理すると、教材文の内容が把握しやすくなる。

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

板書は、挿絵を使ったり、思考の流れや順序を示したりすることで、子どもたちの思考を深める手掛かりとなる。

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

思考ツールを活用することで、複数の情報が整理できる。そして、問題が焦点化されることで、話し合いが活発になったり、解決策を導き出したりすることがしやすくなる。

## IV 研究のまとめ

### 1 研究の内容に関わる本時の検証

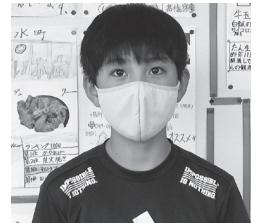
#### (1) 小学校

##### ① 発問の工夫について

- 中心発問や問い返しなど、目的を明確にした発問を指導案に位置付けることで、子どもたちの考えがより深まった。
- 自分自身と関連付ける発問では、本時の課題を自分事として十分捉えられなかったことから、表層的な理解にとどまる子も見られた。

Q: 授業で学んだことは、何ですか？

真理の探究はよく分からなかったけど、たぶん学級の代表になって責任をもって進むことなんだなと思いました。



- 対象を新たに提示することで、そのよさを比較して考えられることができ、話合いが活発になった。また、ノートの振り返りから、子どもたちが道徳的価値について自分事として考えを深めている様子が見られた。

##### ② 対話する場の工夫について

- 教材との対話の場や他者との対話の場、振り返りでの自己との対話の場を設定することで、自分の考えを深めることができていた。
- 振り返りでの自己との対話の場では、学習内容の振り返りはできたが、自己との関連が十分図れなかった。

Q: 発表を聞いて勉強になったことはありますか？

〇〇さんの意見で、学級目標の「和気藹々<sup>わきあいあい</sup>」なクラスにするために、みんなで今日学んだことを生かして協力し合ったらよいという意見です。



- 目的を明確にした対話する場の確保は、子どもたちの思考を深める機会としてたいへん有効であった。学級の実態に応じて、ペアやグループ学習など形態を工夫し、普段から話し合う機会を設けておくことでより効果が高まると考えられる。

#### (2) 中学校

##### ① 発問の工夫について

- 問い返しの発問で様々な具体例を提示し、比較、整理する活動を設定したことで、内容項目の「個性の伸長」についての理解が深まった。
- 中心発問と問い返しで、子どもたちの思考を深めたが、個人で考えたことやグループで話し合ったことを学級で交流する時間がなく、全体的な思考の深まりでは課題が残った。

Q: 今日学習で学んだことをどのように生活に生かしていきたいですか？

自分自身の個性を伸ばしていけるようにいろいろなことに挑戦したいし、友達の個性も大事なので、応援したいと思います。



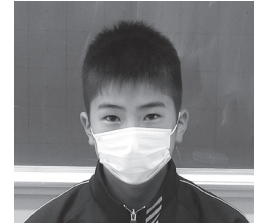
- 問い返しの発問に思考ツールを組み合わせたことで、グループにおける話合いが活発になり、振り返りのプリントから内容項目についての理解ができていることが見受けられた。

## ② 対話する場の工夫について

- 対話する場が個人からグループ、全体そして個人と対話の形を変えることで、友達の考えを参考に自分の考えを深めようとする姿が見られた。
- 本時の課題が子どもたちの問題意識から形成されると、問題解決学習となり、より内容項目に対する理解が深まったと思われる。

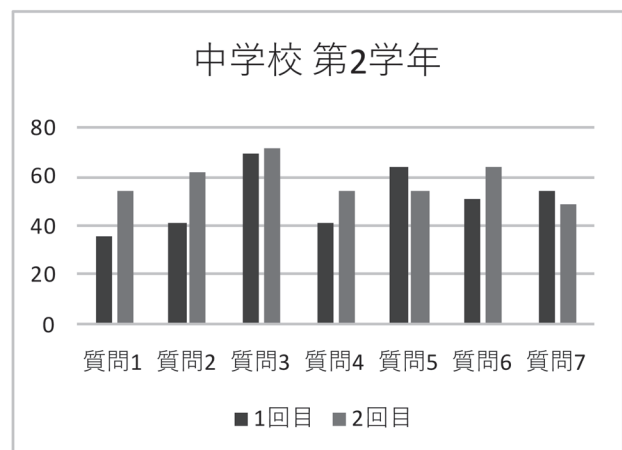
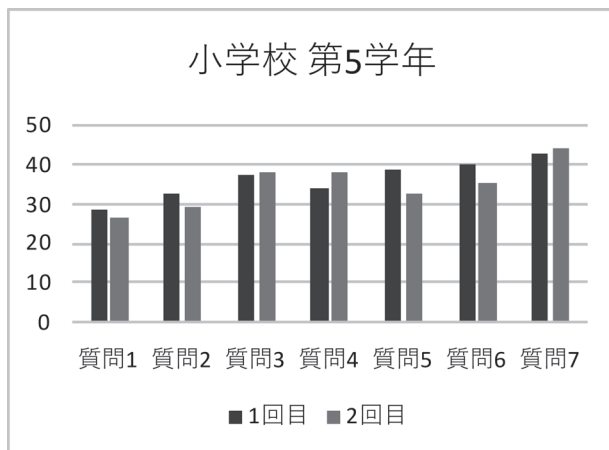
Q: 友達の発表を聞いて勉強になったことはありますか？

グループで他の人と話して、自分とは違った意見を聞いてよかったです。(どんな意見?) ルールを守ること、誰かが悲しんだりすることのないよう、相手の気持ちを考えながら守っていかうという考え方がいいなと思いました。



- 対話する場を設定するだけでなく、子どもたちの思考を深められるよう仮定の状況を想定し発問に組み込むことで、より話し合いが活発になり、多面的・多角的な思考へとつながったように見受けられた。

## 2 アンケート結果からの検証



### ○ アンケート項目 (小・中共通)

- 1 私は、自分自身のよいところを知っています。
- 2 私は、自分のよさを生かして、物事に取り組もうとしています。
- 3 私は、よいと思ったことに進んで取り組むことができます。
- 4 私は、学習で学んだことを自分の生活に生かすことができます。
- 5 私は、物事がうまくいかないときに、方法を変えたり、ねばり強く取り組んだりすることができます。
- 6 私は、本を読んだり、人の話を聞いたりして考えを広げることができます。
- 7 私は、新しいことや初めてのことも受け入れることができます。

今年度も研究の成果について様々な視点から検証できるように、上記のアンケートを実施した。アンケートは、自分のよさや可能性への気付きを見る質問(設問1・2)と自主性・積極性を見る質問(設問3・4)、そしてしなやかな心が育まれたかを確認する質問(設問5~7)とした。小学校、中学校ともに、実践の前後にアンケートを実施したが、いくつかの項目では、数値の上昇が見られたが、本実践が子どもたちの研究主題である「しなやかな心」の成長につながったと見受けられる決定的な数値の上昇は見られなかった。

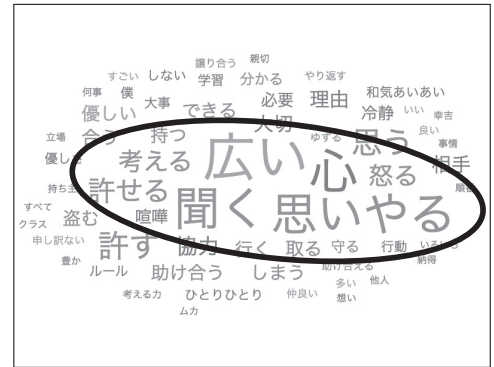
ただし、2回の授業実践の振り返りをテキストマイニングで分析したところ、子どもたちが道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めたり、友達との話し合いから一面的なものの見方から多面

的・多角的な見方へと発展させていったりする様子が見られた。

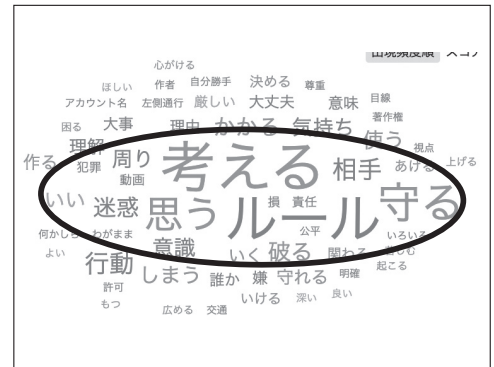
### 3 研究内容の検証

#### (1) 発問の工夫について

- 主題に迫る中心発問を工夫することで、枝葉末節な部分に視点が向かず、端的に本時の課題をつかむことができその後の活動の時間を保障することができた。
- 一般的な常識では即答できないような、相反する道徳的価値の比較や人間理解の部分問い返しに盛り込むことで、個人思考や話し合いが活発になり、子どもたちの学びに深まりが見られた。
- 自分自身と関連付ける発問を行うことで、授業で学んだことを自分事として捉え、前向きに生かそうとする姿が見られた。
- 発問を工夫することで、その後の活動は活発になったが、授業の目標（道徳的判断力・心情・実践意欲と態度）の焦点化が明確でなかったため、終末の振り返りでは曖昧な感想しか書けない子どもも見られた。発問を考える際は、授業後の子どもたちの姿をイメージして、目標に準じた発問を考える必要がある。



【小学校授業実践2より】



【中学校授業実践2より】

#### (2) 対話する場の工夫について

- 教材との対話では、導入の段階で身近な話題から内容項目に興味・関心が高まるよう工夫したことで、教材に対する自分の考えをもつことができた。
- 目的を明確にした対話する場の設定と時間の保障は、価値理解や人間理解など物事を多面的・多角的に考えるのに効果的であった。
- 振り返りでの自己との対話の場を継続して設定していくことで、より深く本時の学びについて振り返ることができるようになった。
- 対話する場の設定だけでなく、対話する際の話者が子どもたちの問題意識に関連が不十分であったため、自分事として実感を伴った理解に結び付きにくいように思われた。子どもたち自らが本気で「〇〇について考えたい」と思うような課題が設定できると、必然的に対話する場の質が高まると考えられる。

### 4 研究2年次の成果と課題

- 主題に迫る中心発問や道徳的価値を深める問い直し、自分自身と関連付ける発問など、発問の目的を明確にし、子どもたちの心に響くような工夫をすることで、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めようとする姿が見られた。
- 教材や他者、自己との対話する場を設定することで、子どもたちの発言やノートへの記述からは、一面的な見方から多面的・多角的な見方へとより深く学ぶことができた様子が見取れた。
- 終末の段階で、内容項目の押さえにずれが見られた。また、学んだことを日常生活に生かす場面でも思考が滞る様子が見られた。これは、本時のねらいを正しく理解し、自分事として捉えることに原因があったと思われる。展開の場面では活発に取り組んでいることから、導入の段階でねらいを正しく理解し、自分事として問題意識をもって取り組む必要があると考えられる。



## 5 2か年の研究の成果と課題

- 道徳科においては、1年次は思考ツールを使うことで自己の客観視を、2年次は発問と対話の工夫することで道徳的価値を多面的・多角的な見方で捉えることを中心に研究を進めてきたことで、「前向きに取り組もうとする心」や「変化や多様性に柔軟に適應できる心」につながる部分でよい変化が見られたことから、一定の成果が得られたと考えられる。
- 特別活動では、ソーシャルスキルを計画的に継続して用いることで、自己のよさや可能性に気付くことができたと考えられる。
- 道徳科を2か年継続して研究することができたことで、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度など、目的に応じた指導を工夫することができるようになり、子どもたちの学びがより深まったと考えられる。
- 道徳科の指導のみでは十分定着しない部分を、特別活動でも意識して指導できたことは、子どもたちにしなやかな心を育むうえでたいへん効果的であった。
- 1年次の研究では、授業実践する先生だけでなく、学年団の先生方が継続して研究に携わっていただいたことで、多様な思考ツールの効果的な使い方について検証することができた。
- 子どもたちのアンケートや振り返りから、本研究の取組によって自己の客観視や自己肯定感・道徳性の高まりなど、一定の成果が得られた。しかし、これらの育んだ力を「しなやかな心」にまで高めるには、他教科や特別活動など、学校生活における計画的かつ継続した指導が必須となる。
- 思考ツールやソーシャルスキル等を授業で活用する際は、活用することが目的にならないように、注意する必要がある。

## V 研究協力校紹介／参考・引用文献

研究協力校	研究協力員
清水町立清水小学校 校長 下坂 吉彦	梶 浦 哲 平
幕別町立札内中学校 校長 橋本 靖宏	田 口 健 人

十勝教育研究所 担当 杉澤 諭 / 松村 理史

## 参考・引用文献

- 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月） 文部科学省
- 考え議論する道徳に変える、発問&板書の鉄則 45 明治図書
- 納得と発見のある道徳科 日本文教出版
- こだわりの道徳授業レシピ 東洋館出版社

# あとがき

## 十勝教育研究所

### ■共同研究担当所員

齊 藤 雅 彦  
大 橋 一 博  
野 村 知 未

### ■協力員研究担当所員

杉 澤 諭  
松 村 理 史

十勝教育研究所では、共同研究として、「十勝管内の教育推進の重点」にある学力の向上に資する研究を、管内19市町村の共同研究員と進めてまいりました。今年度よりスタートした「『深い学び』に向かう子どもを育む研究～課題設定の工夫と評価の充実を通して～」では、二つのグループでのそれぞれ2本の授業実践と、共同研究員に資料を作成していただきながら検証を進めてまいりました。

また、協力員研究として、小・中学校の先生方にご協力をいただきながら、授業実践に基づいた検証を進めてまいりました。2か年継続研究の2年次となる「子どもたちにしなやかな心を育む研究～道徳科における発問と対話の工夫～」では、道徳的価値を深める発問や多様な見方に接する対話の場の工夫が大切であると考え、2年次の成果をまとめました。

どちらの研究も学習指導要領を踏まえ、日常の実践に結びつくものと考えております。本研究が、各学校における教育活動推進の一助となれば幸いです。

末筆になりましたが、本研究紀要の作成に当たり、ご協力いただきました共同研究員、研究協力校、教育関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和4年3月

研究紀要 No.216

「深い学び」に向かう子どもを育む研究  
～課題設定の工夫と評価の充実を通して～  
(2か年継続研究 1年次)

子どもたちにしなやかな心を育む研究  
～道徳科における発問と対話の工夫～  
(2か年継続研究 2年次)

発行 令和4年3月  
発行所 十勝教育研究所  
発行人 山田 洋  
印刷所 東洋株式会社





十勝教育研究所

Tokachi Education Research Institute